

# 官報

號外

明治三十年三月二十四日

水曜日 内閣官報局

○第十回 帝國議會 貴族院議事速記錄第二十五號

明治三十年三月二十三日(火曜日)午前十時二十七分開議

議事日程 第二十五號 明治三十年三月二十三日

午前十時開議

第一	貨幣法案(政府提出衆議院送付)	第一讀會ノ續(特別委員)
第二	貨幣整理資金特別會計法案(政府提出衆議院送付)	第一讀會ノ續(特別委員)
第三	明治十七年第十八號布告兌換銀行券條例中改正法律案(政府提出衆議院送付)	第一讀會ノ續(特別委員)
第四	明治十八年第十四號布告中改正法律案(政府提出衆議院送付)	第一讀會ノ續(特別委員)
第五	明治十二年第二十五號布告廢止法	第一讀會ノ續(特別委員)
第六	森林法案(政府提出衆議院送付)	第一讀會ノ續(特別委員)
第七	國稅徵收法案(政府提出衆議院送付)	第一讀會ノ續(特別委員)
第八	震災地方租稅特別處分法案(政府提出衆議院送付)	第一讀會ノ續(特別委員)
第九	鐵道敷設法中改正法律案(衆議院提出)	第一讀會
第十	右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	
第十一	明治二十三年法律第五十號民事訴訟法施行	第一讀會
第十二	條例中削除法律案(衆議院提出)	
第十三	右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	
第十四	私設鐵道條例中改正法律案(衆議院提出)	第一讀會ノ續(特別委員)
第十五	明治二十八年法律第四號中改正	第一讀會ノ續(特別委員)
第十六	法律案(衆議院提出)	第一讀會ノ續(特別委員)
第十七	私設鐵道條例中改正法律案(衆議院提出)	第一讀會ノ續(特別委員)
第十八	水害地方地租特別處分法案(衆議院提出)	第一讀會ノ續(特別委員)
第十九	古墳墓保護ニ關スル建議案(外山正一君發議)	會議(決算委員長報告)
	製鹽調查所設置ニ關スル建議案(村田保君發議)	會議(特別委員長報告)

第二十 下ノ關門司鹿港ヲ開港外輸出入港ト爲 會議(前會ノ續)

第二十一 改正及廢止ノ請願 登錄稅法自家用酒稅法葉煙草專賣法

會議

第二十二 清國償金ノ一部ヲ普通教育基本金ニ 充ルノ請願

會

第二十三 營業稅法改正ノ請願 社寺上地山林引戻ノ請願

會

第二十四 地租免除ノ請願 第二十六 日本銀行條例中改正ノ請願

會

第二十七 特別免租ノ請願 第二十八 地租延納ノ請願

會

第二十九 不正肥料販賣取締規則發布ノ請願

會

○議長(公爵近衛篤齋君) 是ヨリ報告ヲ致シマス (有賀書記官朗讀)

昨二十二日本院ニ於テ承諾スヘント議決シタル左ノ政府提出案ハ即日内閣總理大臣ヲ經由シテ其旨ヲ奏上シ及衆議院ニ通知シタリ

明治二十八年度豫備金支出ノ件

明治二十八年度ニ於テ國庫剩餘金ヲ以テ豫算超過及豫算外支出ノ件

明治二十八年度特別會計豫備金支出ノ件

明治二十八年度特別會計歲入及資金ヲ以テ豫算超過及豫算外支出ノ件

同日本院ニ於テ可決シタル關稅定率法案ハ即日内閣總理大臣ヲ經由シテ裁可ヲ奉請シ及可決ノ旨衆議院ニ通知シタリ

同日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日衆議院ニ送付シタリ

屯田兵土地給與規則中改正法律案

明治二十八年法律第二十六號改正法律案 同日本院ニ於テ修正議決シタル政府提出傳染病豫防法案ハ即日衆議院ニ送付シタリ

同日本院ニ於テ修正議決シタル政府提出保稅倉庫法案及衆議院提出家祿賞典祿處分法案ハ即日衆議院ニ回付シタリ

同日本院ニ於テ衆議院提出祿高整理公債法案ヲ否決シタル旨衆議院ニ通知シタリ

明治二十七年度決算ニ關スル決議案 同日衆議院ヨリ政府提出砂防法案ヲ受領シタリ

裁判所構成法中改正法律案 同日衆議院ヨリ左ノ通牒ヲ受領シタリ

登錄稅法中改正法律案 罷災救助基金法案

右政府提出案本院ニ於テ否決セリ因テ及通知候也

明治三十年三月二十二日

貴族院議長公爵近衛篤麿殿  
北海道國有未開地處分法案  
右貴族院ノ送付ニ係ル政府提出案本院ハ貴族院ノ議決ニ同意シ奏上セリ因  
テ議院法第五十四條ニ依リ及通知候也

明治三十年三月二十二日

貴族院議長公爵近衛篤麿殿

衆議院議長鳩山和夫

保稅倉庫法案  
右貴院ノ回付ニ係ル政府提出案本院ハ貴院ノ議決ニ同意シ奏上セリ因  
院法第五十四條ニ依リ及通知候也

明治三十年三月二十二日

衆議院議長鳩山和夫

貴族院議長公爵近衛篤麿殿  
鐵道敷設法中改正法律案ニ關スル兩院協議會貴族院委員ニ於テ議長ニ子爵  
谷干城君、副議長ニ子爵岡部長職君當選セラレタリ  
土地區劃改良ニ係ル法律案特別委員會ニ於テ委員長ニ箕作麟祥君、副委員  
長ニ久保田讓君當選セラレタリ  
○議長（公爵近衛篤麿君）是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、第一貨幣法案、政  
府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、特別委員長報告

（侯爵黒田長成君演壇ニ登ル）

○侯爵黒田長成君 貨幣法案外四件ノ特別委員會ノ審査ノ結果ヲ報告致シマ  
ス、此貨幣法案外四件ノ案ト云フモノハ餘程重要ナ事柄デアリマシテ中々輕  
輕ニ議了スベキ事柄デハアリマセヌ、併ナガラ目下議會ノ會期モ餘程切迫シ  
テ居ル際デゴザイマスカラ、委員會ニ於キマシテハ十分勉勵ヲ致シテ前後四  
回ノ委員會ヲ開キマシテサウシテ當局大臣始メ政府委員ノ説明モ詳シク承リ  
且ツ又十分討議ヲ盡シマシタ末ニ結局此五ツノ案ハ總テ政府原案ノ通ニ可決  
スベキモノト議決致シマシタ、元來幣制ノコトハ此貨幣ト云フモノニ成ルベ  
ク變動ノ少ナイトガ肝要デアリマシテ、幣制上ノは一大要件デアルト思  
ヒマス、而シテ此幣制ノ中デ最モ變動ノ少ナイトノ幣制ヲ執ルコトガ必要  
デアッテ、フレニ就イテハ彼ノ複本位制度ト云フモノガ、一番變動ノ少ナイト  
モノト云フ考デアリマス、或ル熱心ナ金單本位ノ論者ノ說ニ據リマスルト、  
金貨ガ一番變動ガ少ナイトラシテ、金單本位ガ一番適當ナモノデアルト云フ  
説デゴザイマスガ、詰リ此幣制上ニ於テハ變動ノ屢起ルト云フヨリハ寧口變  
動ガ急劇ニ來ナイト云フコトノ方ガ避ケキコトデアッテ、其點カラ申シマ  
モノト云フ考デアリマス、ソレ故ニ今日幣制ヲ改革致ストモ決シテ差支ハナイ  
ハ急劇ニ變動ノ來ルヤウナ憂ガナイ、併ナガラ此複本位制度ト云フモノガ或  
ル一圓ダケニ依クテ行レマシテ、單獨ニ致スト云フコトニナリマスルト、餘  
程其結果ト云フモノハ危險ニシテ且ツ無謀ナコトデアリマス、現ニ實例ヲ舉  
ゲマシテモ、彼羅甸同盟ナリ、又米國柄ニ致シマシテモ、實際此制

度ヲ維持スルコトガ出來ナイノデアリマス、ソレ故ニ我國ガ單獨デ此複本位  
制度ト云フモノヲ行フト云フコトハ餘程危險ナ話ト思ヒマス、併ナガラ彼ノ熱  
心ナル金論者ノ空論トシテ排斥致シマス所ノ彼萬國同盟ノ複本位制ト云フモ  
ノガ萬一行レル曉ニ至リマシタナラバ、此制度ニ超スモノハナカラウト思ヒ  
マス、我ニハ極端ノ金論者ノ申スガ如ク萬國同盟ト云フコトガ空想デアルト  
云フコトハ認メ難イノデアリマス、併ナガラ此萬國同盟ノ複本位制ト云フモ  
ノ、實行サル、ト云フコトハ唯今ヨリハ時期ガ餘程遠イコトデアルト云フコ  
トモ疑フ容レマセヌ、果シテ此萬國同盟ト云フモノガ時期ガ非常ニ遠イト云  
フコトデアッテ見マスレバ此際我國ニ於テ執ルベキ所ノ幣制ハ唯ダ金單本位  
ト銀單本位ノ二ツノ中デドチラヲ採ルト云フコトニナルノデアリマス、此兩  
者ニ就イテ得失ヲ考ヘテ見マスレバ、今日宇内列國ノ形勢ヨリ推考致シマシ  
テモ、金單本位ト云フ方ガ適當デアルト云フコトハ疑フ容レマセヌ、唯ダ今  
日我國ノ經濟社會ノ狀況ニ照シマシテ、此金單本位ト云フモノヲ直ニ今日ヨリ  
實行スルコトガ適當デアルヤ否ヤ、又若シ之ヲ實行スルコトガ必要デアルト  
スルナラバ如何ナル方法ヲ以テ實行スルコトガ適當デアルカト云フコトニ就  
イテハ論ノアル所デアリマス、先づ此金單本位ヲ執ルコトノ必要ナ所以ト云フ  
モノハ第一外國貿易上ニ於キマシテ現今ノ下ニ於テハ實ニ不確實ナル取引ヲ  
致シテ居ルノデアリマス、取引ノ有様ト云フモノハ非常ナル危險ヲ冒シテ  
居ル、若シ此度金單本位ニ改正スルコトニナリマシタナラバ是等ノ危險ヲ免レ  
テ外國貿易上ニ健全ニシテ確實ナル發達ヲ與ヘルコトハ疑フ容レマセヌ固ヨ  
リ鄰國ノ支那等ト貿易ヲ致ス場合ニハ今日ノ如ク銀貨ガ下落シツ、アル際ニ  
ハ或ハ多少ノ不便ヲ見ルカモ知レマセヌケレドモ外國貿易ノ大部分ト云フモ  
ノハ支那等ニアラズシテ主トシテ歐洲各國ニアルノデアリマスカラ是等ノ國  
柄ト貿易ヲ致ス上ニハ金單本位ニナリマシタナラバ今マデヨリハ非常ニ貿易上  
ニ利益ガ多クナルコトデアラウ、此大ナル利益ト云フモノハ少々ノ不便ニ打  
勝ツコトハ勿論ノコトデアリマス、ソレカラ此金單本位ニ改正スルコトニ就イ  
テ反對中ノ重ナルモノト云フハ今日我邦ノ農業ナリ商工業ガ著シク進歩致シ  
テ居ル是ハ固ヨリ人文ノ發達ニ伴フ結果デアルト申スモノ、主トシテ銀貨ノ  
下落ト云フモノガ大ナル原因トナツテ居ル故ニ今日幣制ヲ改革スルト銀貨國  
トシテ我邦ガ享有シテ居ル利益ヲ一朝ミスく失フコトニナルコトガ甚ダ遺  
憾デアル斯ウ云フ論ガ反對論中デ有力ナモノト認メマスガ併ナガラ銀貨ノ下  
落ニ伴フテ利益ヲ得ルト云フコトハ我邦ガ銀貨國トシテ此金貨ノ下落ト物價  
トシテ我邦ガ享有的シテ居ル利益ヲ一朝ミスく失フコトニナルコトガ甚ダ遺  
憾デアルスウ云フ論ガ反對論中デ有力ナモノト認メマスガ併ナガラ銀貨ノ下  
落ニ伴フテ利益ヲ得ルト云フコトハ我邦ガ銀貨國トシテ此金貨ノ下落ト物價  
ノ騰貴ト云フモノ、差ノアルトキデアッテ即チ物價ガ騰貴シテシマッテ銀貨ノ  
下落ト二ツナガラ極端ニ達シタ時分ニハ決シテ是マデノ利益ヲ享ケルコトガ  
落ニ伴フテ利益ヲ得ルト云フコトハ我邦ガ銀貨國トシテ此金貨ノ下落ト物價  
ノ騰貴ト云フモノ、差ノアルトキデアッテ即チ物價ガ騰貴シテシマッテ銀貨ノ  
下落ト二ツナガラ極端ニ達シタ時分ニハ決シテ是マデノ利益ヲ享ケルコトガ  
出來ナインデアリマス、ソレ故ニ今日幣制ヲ改革致ストモ決シテ差支ハナイ  
果シテ此幣制ヲ改革スルコトガ必要デアルトスルナラバ其次ニ來ル所ノ問題  
ハ今日直ニ幣制ヲ改革スルコトガ必要デアルカ或ハ一兩年モ猶豫シテ篤調  
査ノ上デ改良スル方ガ宜シイカト云フコトニ就キマシテハ諸君モ御承知ノ通  
今日ノ如ク我邦ガ日清戰爭ノ結果トシテ巨萬ノ金貨ヲ吸收致シテ居ツテ彼ノ  
戰後經營ノ費途ニ充ツルモノヲ除キマシテモ日本銀行ニ一億五千万圓餘ノ準備  
金ト云フモノガ備ヘテアルノデアリマス、斯様ナ巨額ノ金額ヲ回収シテ居  
ル時機ト云フモノハ此時機ヲ失ヒマシタナラバ容易ニ再ビハ參ラヌデアラウ  
ト思ヒマス、ソレデ此好機會ニ於テ折角回収シマシテモ日本銀行ニ一億五千万圓餘ノ準備

ナインニ今日改革ヲ斷行スルト云フコトハ至當ノコトデアル、是等ノ理由ニ  
據リマシテ此貨幣法案外四件ノ案ハ原案通り可決スベキモノト委員會ニ於テハ  
議決ヲシマシタ御報ヲ致シマス

子爵由利公正君演壇ニ登ル

○子爵由利公正正君 本員ハ此金ノコトニ就キマシテ聊カ前ノ關係ヲ持ツテ居リマスルデ贊成ノ意ヲ一言申述ベヤウト思ヒマス、抑々此日本ハ元來法貨トコトノ御評議デアリマシテ即チ金圓ト云フモノヲ初テ定メラレタノデアリマス、然ルニ其以後草創ノ際經濟ノ恩フヤウニ參リ居カヌ所カラ其頃ニ所謂貿易ガ追々開ケテ來マシタ二ツニ伴シテ銀ノ這入<sup>ク</sup>テ來タノガ多クナ<sup>ム</sup>タノデアリマス、其多クナ<sup>ム</sup>タ曉ニ段々此何時銀ニナルト云フコトナク知ラズ識ラズ銀ト云フモノガ法貨ト云フ心持ラスルヤウニナリマシタ、僅カ三十年前ニ銀ハ即ち銀目ト云フコトヲ申シテ居リマシタガ是ハ御承知ノコトデアラウト思ヒマス、即チ銀目ト云フモノハ此金目ノ金ノ不足ヲ融通スルタメニ使來<sup>シタ</sup>モノデソレハ大阪アタリニハ專ラ銀目デ何モカモ申シ稱ヘテア<sup>ッ</sup>タノデアリマスガ御一新ノ當座ニ銀目ト云フモノヲ用ヒルコトヲ停止サレタノデアリマス、モウソ<sup>ン</sup>ナヤウナ講釋ヲ長ク申スノハ却テ議場ノ御妨デアラウト思ヒマスカラ深クハ申シマセヌガ我ニハ我邦ニ此金貨ノ本位ニ定メラレテ居ルト云フコトハ今更初テ新シイコトデハ決シテナイコト、信シマスルノデアリマス、又是ニ就キマシテノ利害ハ……銀ガドウトカ金ガドウトカト云フ學者ノ說モ澤山アルヤウデアリマスルガ一向是ハドチラカラ申シテモ同等ノコトデアラウト思フ、我此日本ト云フモノハ元來御上ト申セバ天子様法貨ト言ヘバ金ト、斯<sup>ウ</sup>云フ一體國柄ナンデアリマス、此幸ノ時機ニ臨ンデ金貨モ澤山ニ這入<sup>ク</sup>テ來タ折柄ニ時機ニ應シテ此金ト云フモノニ定メラレマシテ愈々以テ國家ガ勉強致シテ益<sup>ム</sup>金モ澤山取込ミ盛ナル國ニシヤウト云フコトハ誠ニ同意至極ノコトデアルト我ニハ喜デ贊成スルノデアリマス、速ニ議決サレマシテ益<sup>ム</sup>之ニ固マリマシタコトナラバ必ズ國事ハ愈々以テ盛ニナルデアラウト思ヒマスルテ前關係モアリマスルコトデ一言贊成ノ意味ヲ呈シテ置キマス

タコト、思ヒマスルコトガゴザイマスルデ一應申上ゲテ御参考ニ供シマス、全體此銀本位、金本位ト云フコトニ就キマシテ貨幣調査會ニ於キマシテ度々調査ヲ致シマシタ結果、此銀本位ガ國家ノタメニ損害ガアルカ利益ニナルカト云フコトヲ調査ヲ致シマシタ時ニ、今日マデノニ其時マデノ有様デハ決シテ損害ハナイ、國ノタメニ利スルコトガ大キナルモノダト申スコトニ多數ヲ以テ決シマシタ、併シ是カラ後ニ之ヲ變ヘル必要ガアルカ、ナイカト申シマス時ニ至リマシテ、十五人ノ内ニ七八人ダケハ此銀本位ノ儘ニ置イテ不都合ナイト云フコトニナリマシテ後ト八人ト申スモノガ變ヘナクチヤアナラヌ、後ニ追ミ今ト申スデハナイガ追ミ變ヘナケレバナラヌト云フ議決デゴザイマシタ、其一名ノ多數デゴザイマシタガ、其一人ノ多數ノゴザイマシタ八人ノ内ニ複本位ニシャウト申ス者ガ兩人、金本位ニシャウト云フモノガ六人デゴザイマシタ、其六人ト先ノ八人、七人トニ對シマシテ先ヅ銀貨本位ヲ採ツテ支ヘナイト云フ者ガアリマシテ、其内ニ變ヘナケレバナラヌト申シマス内ニ兩人複本位説ガゴザイマシテ、多數ニナリマシタ云フヤウナ結果デゴザイマス、其事ハモウ既ニ過去リマシタトデゴザイマスカラ今日辯明ハチト無用ノヤウデゴザイマスガ一應其事ヲ申上ゲマス、ソレカラ尙ホ本論ニニ這入りマス前ニ少シ述ベテ置カナクチャアナラヌコトガゴザイマスノハ今日物價ノ騰貴ト云フモノヲ專ラ銀ニ歸シマスケレドモ是ニハドウモ少シ外ノ物ガ混ツテ居ルコト、考ヘマス、其物價ノ騰貴ノ中デモ最モ著シク騰貴シマシタモノハ米價デゴザイマス、此米價ト申シマスルモノハ銀ノ手傳モゴザイマシタト思ヒマスガ、昨年ナドハ不作ガ大ニ之ニ手傳ツテ居ルト云フコトヲ考ヘナケレバナラヌ、昨年ハ不作デゴザイマシテ、諸方ニ水害ガゴザイマシタタメニ大ニ米價ノ騰貴ヲ助ケテ居リマスコトハ事實デゴザイマス、ソレカラ今一つハドウモ二十七八年ノ役デ公債募集ナドガゴザイマスノハ今ノ金ヲ即チ金持デゴザイマス、其金持ノ持ツテ居マシタ財本ガ其道ヲ變ヘマシテ一度公債ト爲リマシテ政府ニ這入りマシテ、ソレガ出マス所ノモノハ是マデ餘リ商賣ナドニ從事致サヌ所ノ人ノ手ニ落チマシテ、其人達ガ種々様ニノコトヲ之ヲ用ヒマシタト云フコトガ一ツ、ソレカラソレニ伴ヒマシテ段々日本銀行ノ通用兌換券ノ數ヲ増シマシテ二億幾ラト申シマスモノニ昇リマシタ次第ザデゴイマス、是等ノ通貨ノ膨脹ト申シマスモノガ大キニ物價騰貴ノ助ヲ爲シテ居ルト考ヘマス、必ズ是ハ銀下落ノ上カラ來ツタト申スコトハ私ニ控ヘマシテ、亞米利加ハ甚ダ不景氣デゴザイマシタガタメニ日本ヨリ輸出ハ考ヘマセヌ、今一つ此除外例ノコトハ昨年米國ノ商賣、貿易ガ甚ダ不結果致シマス縦デゴザイマストカ、茶ト云フモノガ大ニ賣高ヲ少クシタト云フヤ銀ニナラウカト申シマスルヤウナ氣遣ヒガゴザイマシタガタメニ貿易ヲ大變助ヲ爲シテ居ルト考ヘマス、必ズ是ハ銀下落ノ上カラ來ツタト申スコトハ私ニ控ヘマシテ、亞米利加ハ甚ダ不景氣デゴザイマシタガタメニ日本ヨリ輸出モ一つノ除外例ト御考ヘ下サラナクチヤアナラヌト思ヒマス、是ハ平年ニ歸シマシタナラバ斯ク如キ不結果ハナカラウト思ヒマス、所デ本論ニ這入りマスルガ私ハ金デモ銀デモ其採リマス所ノ本位ハ何物ガ宜シトイト云フコトニハラカ景氣ガ悪ルク、商賣ガ悪ルイト云フコトノ手傳ヲ致シテ居ルト云フコト余リ拘泥致シマセヌ、唯其國ノ利益ニナルト云フ本位ガ一番宜シトイト考ヘマス、是ガ特計デゴザイマストカ指環ト云フ物デゴザイマスレバ金ノ方ガ宜シ

イト云フノハ是ハ極<sup>タ</sup>話デゴザイマスガ、貨幣トシテ用ヒマスルニハ其國ニ利益ノアルモノガ一番宜シ、其貨幣ノ性質タルヤ變動ノ少キモノガ宜シ。イト云フコトハ是ハモウ原則デ極<sup>タ</sup>居ルコトデゴザイマスガ、其變動が最も少クシテ漸次ニ殖エテ參リマスルト云フモノデゴザイマシタナラバモウ一番宜シイデゴザイマセウガ、奈何センサウ云フ次第ニハ參リマセヌ、所デ今日ノ世界ノ有様デ金ノ下落ノタメニ斯ルドウモ結果ニナツタト云フ說モゴザイマスレバ銀ノ下落ノタメニ起ツタト云フ說モゴザイマスガ是ハ兩方トモ各據所ガゴザイマスレバ之ヲ鬪ハセルト云フコトニ至<sup>タ</sup>テハ一向果シガナイコトデゴザイマスガ、併シ此貨幣調査ノ時ニモ取調ベマシタノニ銀ノ下落ハ物價ニ比シマンテ變動が少い、此金ノ騰貴ノ方ガ却テ變動が多イト申スコトニ此調査ノ時ノ結果ハ斯クナリマシタ、決シテ本員一已ノ說デハナインデゴザイマス、ト申シマスノハ其少イ金ノ中ニ歐米諸國ノ重ナル文明國ハ悉ク其少イ金ノ中ヘ飛込ンダ、ワレガタメニ金ノ騰貴……甚ク騰貴致シマシタ、又其諸國デ用ヒテ居マスモノガ貨幣トシテ銀ヲ使フコトヲ廢メマシテ銀モ下落致シタニハ相違ナイ、ダガ其騰貴カラ來マシタ所ノ結果ヲ金ニ歸スルノ甚シイモノモゴザイマスレバ銀ノ下落ニ歸スルコトガ甚シイモノモゴザイマスガ、ドチラモ是ハ水掛論デアラウト考ヘマス、デ私ハ反テ銀ノ方ガ却テ金ヨリカ變動ガ少イト考ヘマスルノデ銀デ差支ナイト考ヘマス、其銀ヲ日本デ使ヒマンタ所デ今日マデノ有様ハドウナツテ居ルカト云フ國民ニ何モ難儀ヲ與ヘテ居ナイ、今日モ何モ困難ヲ與ヘテ居ナイ、ソレカタメニ農工商モ繁昌致シマシテ決シテ生産興業ガ萎靡振ハスト云フ有様ハドコト見テモ見エナイノデゴザイマス、又今日ヨリ此有様ヲ持続スルコトモ出來ルデアラウト考スルト云フ歐米ノ金貨ヲ用ヒテ居ル所ハドウカト申シマスルト一番難儀ヲ致シマス者ハ百姓デ、百姓ハ生産物ノ直段ガ下落シテ殆ド生産ガ引合ハナオト云フ有様ニナツテ居<sup>タ</sup>、一番難儀ヲ訴フル者ハ百姓デゴザイマス、其百姓ト云フ者ガ日本ニ於キマシテ幾ト二分ノ一ヲ占メルト云フ程ニ日本ノ百姓ハ澤山ニゴザイマス、ガ日本ノ百姓ハ悉ク鼓腹擊壤致シテ居リマス、今日ノ米價ナドノ騰貴ハ騰リ過ギタト云フノハ先刻モ申シマシタ通騰貴シ過ギトルト思ヒマスガ、是ハ昨年ノ不作ガ手傳<sup>タ</sup>テ居リマスカラ是ハ平年ニ歸シマシタラモト下落スル皆デアラウト思ヒマスガ、先づ八九圓ノ米價が致シマスレバ百姓ハ決シテ難儀デハナイ、其百姓ノ困難致シマシテ居リマス、今日ノ米價ナドノ騰貴ハ騰リ過ギタト云フノハ先刻モ申シマシタ通騰貴シ過ギトルト思ヒマスガ、是ハ昨年ノ不作ガ手傳<sup>タ</sup>テ居リマスカラ是ハ平年ニ歸シマシタラモト云フ有様ニ大ニ繁盛ヲ致シテ居ル、啻ニ内國バカリノ繁盛デハゴザイマセズニ國外ニ向ヒマシテモ亦其銀貨ノ下リマシタカ金ガ勝リマシタノカドチラニシテモ宜シイデゴザイマスガ、外國ニ對シテ出ス所ノ品物ハドウダト云フト丁度五割程ノ保護稅ガ掛<sup>タ</sup>テ居マシテ、出シマスノハ丁度五割程ノ獎勵金ヲ與<sup>タ</sup>テ居ルト云フヤウナ感ガアル、又内ニ入レル所ノ外國ノ品物ヲ入レルニハ五割モ保護稅ガゴザイマシテ買フニムヅカシクガ好クナツテ居リマス、是ガゴザイマセヌカツタバ斯ノ如ク日本ノ總テノ農工商ノ仕事ガ繁昌シヤウトハ決シテ努メ思ヒマセヌ、全ク此金銀貨ノ差ノ

タメニ斯ル繁盛ヲ致シマシテ今日總テニ苦情ガナイト云フ次第ニナツテ居ル、之ヲ今變ヘマスルト既ニ勞銀ナドモ高クナツテ居リ、ソレカラ物價モ高クナツテ其製作品ニ使フ原料モ高クナツテ居ルカラ變ヘナケレバナラヌト云フコトデゴザイマスガ、成ル程餘程物價ハ高クナリマシタシ勞銀ナドモ高クナリマシタガ、マダ其ドウモ其極ニ至<sup>タ</sup>トハ考ヘマセヌ、デ此勞銀ガ高クナツタ物價ガ高クナツタ騰ツタト申シマスレバ貧民ガ一番難儀ヲシナケレバナラヌノデゴザイマスガ其貧民ハ隨分ソレガタメニ諸方ニ仕事ガ起リ色ニノ事業ガゴザイマスタメニ決シテ貧民ハ困難致シテハ居リマセヌ、今日騰貴ヲ來シタ所デ困難ヲ致シテ幣制ヲ改革シナケレバナラヌト云フ者ハ頓ト聞カナイノデゴザイマス、然ルニ之ニ反シテ歐米諸國デハ金ガ騰貴シテ物價ノ下落シタマニ勞銀ナドガ其割合ニハ下ラナイト申スコトデ貧民ノ中ノ一部分ハ大キニ都合ガ宜シト云フコトガゴザイマセウガ、跡ノ者ハ悉ク難澁ヲ致シテ今日ノ幣制ニ堪ヘズシテ複本位ヲ用ヒナクテハナラヌト申スヤウニ、總テノコトガドチラノ方ガ幣制改革ノ必要ガアルカト申シマスレバ歐米諸國ニハ幣制改革ノ必要ガゴザイマシテ諸方カラ委員ヲ派シタリ相談ヲ致シテ今日困難ヲ致シテ居ル者ガ多クゴザイマス、決シテ本國ニハ其例ガナイ、其ナインコトガドチラヌト云フ必要ハ何カラドウモ起リマスカ、一向其所以ヲ殆ド存シマセヌ、若シ之ヲ改正致シマシテ金貨國ニナリマシタナラバ是カラ亞細亞ノ方ニ向ヒマシテノ商賣ハ大ニ困難ヲ感シマスダラウト思ヒマス、支那ノ貿易ハ今日ハマア支那ハ……亞細亞地方デゴザイマス、其亞細亞地方ノ貿易ハ總高ノマシタラ或ハ歐米ト相對シテ五分ミニナリ或ハ亞細亞ノ商賣ノ方ガ超エルト云フ時期ニ達シマスコトデアラウト思ヒマスガ、就中紡績ノ如キモノハ近頃成立チマシタモノデ今年が始テタントノ輸出ガアリマスヤウナ次第デゴザイマスガ、是ハ印度ガ金貨制ニ變リマシタメニ大ニ日本ノ方ガ都合が能クナツテ日本ノ品物ガ這入ル、又今年ハ黒死病ノタメニ印度デ出來マセヌタメニ日本ノ紡績ガ大ニ輸入ノ見込ガアルト云フ次第<sup>タ</sup>、僅ニ兩三年ニ始リ掛<sup>タ</sup>モノデ、此盛大ニナリマシタノハドコマデ行クカ測ラレマセヌ、シテ見マスレバ亞細亞諸洲ノ銀貨ノ行レテ居ル所ハ金貨ノ制度ニナレバ自然物價ガ高クナルニ附イテ非常ニ困難ヲ感シマス、就中支那ハ日本ト丁度同ジ生産物デ絲、茶ト申スモノヲ最モ盛ニ捐ヘル所ノ國デゴザイマス、之ヲ以テ歐米諸國ニ販賣致シマスノハ支那ノ物ハ大キニ都合が宜クナルダラウ、日本ハ今向<sup>タ</sup>テ爲換ノ變動ノナイト云フコトハ是ハ利益ニ相違ハゴザイマセヌガ、其他ニハ餘リ之ヲ變ヘナケレバナラヌ必要ハ殆ドアリマセヌデゴザイマス、殊ルノミナラズ歐米ニ對シテモ支那トノ競争ガ困難ヲ感ズルヤウニナル、ソレト云フモノハドウシテモ不利ハ段々多クナリ其利益トナル所ハ歐米ノ諸國ニハ丁度五割程ノ獎勵金ヲ與<sup>タ</sup>テ居ルト云フヤウナ感ガアル、又内ニ入レル所他ニハ餘リ之ヲ變ヘナケレバナラヌ必要ハ殆ドアリマセヌデゴザイマス、殊ニ三十年度ヨリ三十一年三十二年ト云フ時ハ戰後ノ經營ノタメ大ニ財政ニ困難ヲ感ズル時デゴザイマスカラ若シ此際ニ至リマシテ日本ノ貿易ガ不振萎靡ト云フヤウナコトデ農工商ノ仕事が振ヒマセヌト云フコトデアラバ是カラ

先キ出政上ノ困難ハ一層甚シク困難ヲ感ジヤウト存ジマス、今日ハ之ヲ改ムベキ時機デナイト考ヘマス、他日追々複本位論モ盛ニナリマスシ銀貨モ追々騰貴ニモ向フト云フ有様ニ向ヒマシタトキハ、ソレハ成ル程急ナル騰貴ハゴザイマシテハ大變經濟上困難ヲ生ジマス故其時ニ至リマシタナラバ幣制改革ヲシナケレバナラヌガ其時機マデハ未ダ間ガアリマス、其間ニ成ルタケ製作物ヲ盛ニシ其販路ヲ擴張シ其間ニ職工ナドノ熟練ヲ大ニ増シマスコトハ、他年幣制改革ニ至ルマデノ時機ガ大變間ガゴザイマスカラ、其間ニ十分手ヲ延スコトガ出來ル餘地ガアル、ソレヲ今日ニ見切ツテソレヲ捨て、金貨ニ移ラナケレバナラヌト云フハ、トント私ニハ理由ヲ認メマセヌ、唯今日何ハ如何ニモ御尤ナコトデ金貨本位ニ變ヘルト云フコトノ準備ノ整ツテ居ルト云フコトハ是ハ如何ニモ政府モ申サレル通準備金ヲ借りテ來マセヌデモ償金ガ取レマシタタメニ出來テ居ルト云フハ如何ニモ其通デ、ワザニ金貨ニ變ヘヤウト存ジマスレバ是非外資デモ募ラナケレバナリマセヌガ今日御用意が出來テ居ルト云フコトハ其通デ別段ノ外資ヲ募ラナクテ出來ルシ、其準備ノ一端ニ至ツテハ其有様ハ殆ト事後承諾ト云ツテ宜イヤウナ有様ニナツテ居リマス、銀貨國デアツテ銀ガ僅ニナリ金ノ準備が出來テ居ルト云ツテ宜イ、是ハ事後承諾ト云ツテ宜シウゴザイマス、準備ガ整ツテソレカラニ圓ノ銀貨ヲ以テ一圓ノ金ニ換ヘルト云フコトモ是モ如何ニモ宜シイ、政府ガ經濟上ニ變動ヲ起サヌト言ハレタコトハ如何ニモ御尤デ此ニツダケハ本員ト雖モ其通ト考ヘマスガ、此改革ハ必ず今日ニナクテモ宜イト思ヒマス、又是ガ彌々改革ニナリマスト困難ヲ感ジマシタトキハ……或ハ今日幣制ヲ改革スルガタメニ準備ノ金ヲ取入レルト云フコトノ入り用ハナイノデアリマスガ、他年財政ノ困難ヲ感シテ餘儀ナク外資ヲ募ラナケレバナラヌト云フ時機ガ達シマセウガ其點ニ至リマシテ心配ニ堪ヘヌ次第デゴザイマス、私ハ未ダ銀ヲ捨テ、金ヲ採ラナケレバナラヌト云フ時機デナイト思ヒマスカラ、ソレダケノ主意ヲ申シマ

國務大臣伯爵松方正義君演壇ニ登ル

○國務大臣（伯爵松方正義君） 唯今ノ議題ニナシテ居マス案ニ就キマシテ小  
轄君ガ反対ノ御説明ガゴザイマシタガ、先日モ本官ハ段々長々シク説明ヲ致  
シ且ソ御質問モゴザイマシテ、ソレニ御答モ致シテ置キマシタカラ大概盡シ  
テ居マセウト考ヘマスケレドモ、小幡君ノ御説明ノ中ニ本官等が見聞シ且ツ  
心得テ居ル所ノ事トハ大ニ違ダテ居ル所ガゴザリマスカラ、ソレダケハ開陳シ  
テ置キタイ、銀貨ノ下落シタニ附イテ物價カ騰貴シタトニ云フコトガアルガ、  
ソレハソレバカリデハアルマイ、殊ニ重ナル米價ニ付イテハ昨年ノ凶年カラ  
シテ斯ノ如ク高價ニナルトカ或ハ日清ノ戰役ヨリシテ斯ノ如ク米ガ高クナッ  
タデアラウト云フ御説ハ成ル程一理ナキニシモアラズデゴザイマセウガ、併  
シ米價ノ高クナシタハ、イツヨリ高クナリマシタカト云フコトヲ考ヘマシタ  
ナラバ分リサウナモノデゴザイマス、全體今日此米ニ於キマシテモ貿易品デ  
ゴザイマシテ一番此銀貨ノ下落シタノト關係ガ強イヤウニ私ハ考ヘマス、ソ  
レデ二十六年ニ印度ノ幣制ヲ改革シ二十五年ニ澳地利ノ幣制ヲ改革致シマシ  
タ、以來銀貨ノ下落シタト云フコトハ事實上相違ノナイコトデ其翌年頃ヨ  
リ著シク此米價ハ騰貴致シタ、其騰貴スル譯ハ無論サウデアリマセウト思  
フ、成ル程例ヘバ五圓スル米ガ十圓ニナルトカ九圓ニナルトカ云フコトハ銀

ノ私ハ貿易ト云フモノハ確ナ尺度即チ標準ヲ以テ健全確實ニ進ムヤウデナケレバ本當ノ進歩デナイト云フコトハ疑ヒマセヌ、投機ノ社會ニ居テサウシテソレデ國ヲ進ムルト云フコトハ危イコトアハアリマセヌカ、又小幡君ノ御說ノ中ニ歐羅巴ハ金本位ヲ採ッテ以來労働者ガ難澁シテ居ルト云フコトノ御說明モアツタガ、是ハサウデモナイヤウデアリマス、即チ帝國大學教授ノふをつくすらゑるト申シマスル人ガゴザイマスガ其人ガ先日演説ヲ致シタト云フコトモ聞イテ居ル、其演説中ニ英吉利ガ金本位ヲ取ッテ居ルカラ労働者ガ難澁シテ居ルト云フ御説ハ全ク嘘デゴザイマスヨ、其ヤウナ大キナ嘘ハアリマセヌ、私ハ英國人デアリマスカラ英國ノ有様ハ一番能ク存ジテ居マス、此二十年間以來ハ衣食住共ニ餘程人民ハ進ンデ居マス、其證據ヲ申シマスレバ例へバ儲蓄金預所ニ於ケル貧民ノ預金ガ多クナリマシタ、是ガ證據デハアリマセヌカ、金本位ヲ取ッテ労働者ガ困難シテ居ルト云フコトヲ仰シヤルケレドモソリハ嘘デスト云フコトヲ明言シテ居ル、ソレデ銀本位ノ學者ノ説ハ動モスルトサウ云フヤウナ説デアリマシテ反對攻撃致シマスルコトハ是ハ世界普通デゴザイマスルニハ議論デナクシテ實地ニ國ノ利益ニナル方ニ進ムル方ガ宜シウハナイカト私ハ存ジマス、尤モ此貨幣問題ナドニナリマシテハ世界兩本位論者或ハ金本位論者ノ學者ノ戰ト云フコトハ今日ニ始メズ餘程是ハ長イ戰爭デゴザイマセウ、サウデゴザイマスルガ世界ノ模様ヲ見マスルト其論ハ論ニシテ置イテ各國ノ實地ニ附イテ利益ヲ取ッテ行ク方ニ附イテハドノ方ニ傾イテ居リマスカ、何ゾ唯各國ノ形容ヲ真似マスルト云フ日本デモゴザイマスマイ、願クハ日本ハ日本ノ利益産出スル所ノ品ハ安ク附イテ居ッテサウシテ貿易ヲ仕マスカラ極ク其節ハ益ニナルカラト云フ譯カラシテ此法案ヲ提出致シタコトニ違ヒナイ、其利益ニナルト云フハ何デアラウ、成ル程一時二十六年ナドニ銀ノ甚シウ下落シタ時ハ物價モマダソレダケ高クナラズ貨錢モソレダケ高クナラズ、一時コチラマスル所ハ動搖ノ少ナイ貨幣ノ本位ニ基キ貿易モ健全ニ進ムヤウニ工業モ健全ニ進ムヤウニ農業モ健全ニ進ムヤウニ要スルニ一ニ實著ニ進ムヤウニナリタイモノザヤ、又此東洋ノ形勢ヲ顧ミテ見マスルニ成ル程東洋ハ銀貨國パカリザヤ、或ハ支那ハ成ル程銀ガ通用致シテ居リマスガ銀ハ總テ掛目デゴザイマセウ、貨幣デヤナイ、マア支那ノ貨幣ハ何デアルカラト云ヘバ銅貨デゴザイマセウ、金銀ハ全ク掛目デヤ、又ソレカラ東洋ノ中テ暹羅ガ銀デヤ、朝鮮ガ銀デヤ、日本ガ銀デヤ最早印度ハ金國ト云ッテモ宜シイ、其外今日ノ社會ニ矢張銀デ安心シテ居ル所ハ墨西其デゴイマセウ、モウ世界ノ中ヲ段々見マスルト此銀ニ安心ヲシテ居ル所ノ國ハ少クナリマシタ、ガ皆力ノアル國ニ於キマシテハ國家ヲ益シ利益シ確實ニ進ムニハ矢張權力カナノ方ニ方向ヲ取ッテ改良ヲ加ヘタト云フコトハ事實上明ナルコトデアリマセウ、決シテ此法案ヲ提出致シマスルニハ世界ノ真似ヲシテ出シ又ハ風潮ニ從ッテ苟メニスルトデアルカラ慎重ニ慎重ヲ加ヘテ本官ナドハ此法案ヲ提出致シタノデゴザイマス、決シテ小幡君ガ仰シヤルヤウニ今ノ流行ノ風潮ニ倣ッテ斯ノ如ク致シタ

ナドト云フコトハ老練ナル小幡君ガ、殊ニ有名ナル學者デアル御方ガサウ云  
フコトヲ言論ニ御吐キナサルコトノ如何ナモノデゴザイマセウカ、國家ノ事  
ヲ斯ノ如ク輕卒ニ本官ナドハ致ス心得ハ更ニナイ譯デアル、直ニ國家ニ若シ  
ヤ是ヨリ銀ガ下落シテ益々下落デモスルヤウナ時期ニナッタナラバ日本國ハド  
ウ云フ位置ニ至ルカト云フコトハ朝暮私ハ甚ダ苦心致シテ居ルコトデアル、  
先日モ申ス通ニ銀ガ下落スル、高クナルト云フコトハ神ナラヌ身デアリマス  
カラ分リマセヌケレドモ今ノ世界上ノ需用供給ノ上カラ論シテ來マスルト實  
地上如何ニセン年々供給ハ殖エテ來テ需用ハ世界中ニ減ジテ來ルコトハ是ハ  
事實デヤ、シテ見ルト物ハ必ズ供給ガ殖エテ來テ需用ガ減ズルナレバ下落ス  
ルト云フコトハ是ハ小幡君ハ固ヨリ御承知ノコトデゴザイマセウ、若シ此後  
益々今ノヤウナ位置ニ唯晏然トシテ居テサウシテ銀ガ下落デモスルヤウナコ  
トガ進ンデ來タナラバ日本國ハ經濟上ト云ヒ貿易上ト云ヒ其結果ドウ云  
フ位置ニ陷リマセウ、其時ニナリマシテ中々俄ニ其救濟策ヲ講ズルコトハ私  
ハ一難題デアリマセウト考ヘル、願クハ最早今日ノ大勢ヲ見テ我國ニ利益ノ  
アルト見タコトナラバ我國ニ利益ノアルト恩ツタコトナラバ斷行スル時機ハ  
今日ヲ措イテ私ハ他ニナイト思フ願クハ國家富強ノタメニ本案ノ可決サレン  
コトヲ眞ニ國家ノタメニ希望致シマスルデゴザイマス

○男爵尾崎三良君 大藏大臣ニ質問致シタウゴザイマス、此貨幣法案ニ附キ  
マシテハ固ヨリ重大ノ問題デ政府ニ於テモ十分ニ審議ヲ遂ゲラレタコト、考  
ヘマスル又無論此金貨本位ト云フコトニ附キマシテハ本員ナドモ格別論  
ハナイデアリマスルガ唯此方法ニ至ツテ如何カト懸念スル點ガアルノデ  
ゴザイマスルカラ一二質問ヲ致シテ置キタインデゴザイマス、ソレハ外  
ノコトデモアリマセヌガ此通ニナリマスレバ將來果シテ此金貨ト云フモ  
ノガ我國ニ維持出來ルヤ否ヤト云フ點ガ甚ダ懸念致スノデアリマスルガ第一  
伺ヒタイノハ此案ノ提出ニナリマシタ時ハ金貨ガ百九十何圓ト云フモノデ詰  
リ此通ニナリマシテモ銀貨ヲ持ツテ來テモ金貨ヲ持ツテ居タ方が却テ得ニナ  
ルカラ却テ此法案ノタメニ金貨ヲ吸收スルノ結果ハアリトモ金貨ガ減ツテ將  
來憂フルナドト云フコトハナイカト云フ懸念ガアリマシテサウ云フ論モゴザ  
イマシタガ繪ノ間ニ御承知ノ通銀貨ハ非常ニ下落シテ……銀貨ガ下落シタノ  
カ金貨ガ騰貴シタノカ、ソコハ知リマセヌガ免ニ角其差ガ大變甚シクナツテ  
來タ、デ今日日本銀行ノ公定相場ハ二百圓四十錢トカ五十錢トカ出テ居リマ  
スガ民間デ賣買ヲシャウト思ヘバ金貨ヲ買ハウト思ヘバ二百五圓以上出サナ  
ケレバ買ヘヌヤウナ有様ニナツテ居ルサウデゴザイマス、シテ見レバ此新ニ  
出來タ金貨ト云フモノハ潰シテ地金ニシタ方ガ利益ガアルト云フコトガ出テ  
來ル又此銀貨ト云フモノハ此先キドレ程下落スルカ分ラヌ、シテ見レバ下落  
スル程此金貨ト云フモノハ貨幣トシテ通用スルヨリモ潰シテシマフガ利益ガ  
アルト云フ、其利益ノ點ハ其差ノ違ヒニ依シテ益々甚シクナツテ來ル、シテ  
見レバ此法案ニ依リマスレバ從來ノ一圓銀ト云フモノモ無制限ニ當分通用サ  
スルト云フノデアリマスルガソレノミナラズ此制限ヲ……通用禁止ノ場合  
ニハ六箇月以前ニ勅令ヲ發シテ之ヲ禁止スル、勅令ヲ發シテカラモマダ五年  
ノ間ハ引換ヘル義務ヲ持ツテ居ルト云フノデアリマスカラ日本ニ於テ是マデ  
鑄造致シタ銀貨ト云フモノヲ盡ク持ツテ來テ金貨ヲ持ツテ行ツテシマフニ違  
ヒナイト云フコトガ出テ來ルニ相違ナイ、其銀貨ハ是マデ鑄造シタ所ハ私ノ

承ル所デハ一億五千万程アルト云フノデアリマスガ其中多少潰シタノモアリマセウシ或ハ日本ノ貨幣條例ニ依ッテ受附ケヌデモ宜イモノモアリマセウガ殘シテ居ルノモ澤山アラウト思ヒマスガソレナドヲ持ッテ來テ其代リニ金貨ヲ持ッテ行シマフト云フヤウニナリマスレバ折角ノ金貨本位ト云フコトモ遂ニハ維持ガ出來ヤセヌト云フコトニナリハセヌカト甚ダ懸念スルノデアリマズ、ソレト申スハ抑々此日本ノ貨幣制度ガ改ツタ時ハ金貨本位デアッタ現ニ我ミハ明治六七年頃ハ金貨デ月給ヲ貰タコトモアル、所ガ何時ノ間ニヤラヅラヅラト兩本位ノヤウナ六合ニシテ遂ニ銀貨本位ト云フコトニナッテシマタノデアル……

○議長(公爵近衛篤曇君) 質問デスカ

○男爵尾崎三良君 質問デス、銀貨本位ト云フ制度ヲ立テ、斯ウシタ譯デハナイ初ハ金貨デアッタ所ガ段々第一銀行ナドデ引換ヘルニ金貨ガ臘シテ來タカラ是レチャナラヌト云フノデ銀貨デモ宜イト云フコトニンテ吳レト云フコトデ銀貨デモ宜イト云フコトニンテ其次ハ一圓貿易銀ガ出來テ是ハ内地一般ニ使用シテ行クコトニナッタ今ニナッテハ金ガナクシテ銀貨本位ニナッタノデアリマスルガ今度モ斯ノ如キ大層ナ仕掛デシナガラ若シ今後段々金銀ノ差ガ違シテ來テ遂ニハ明治七八年カラ十二年ノ間ノ如ク又ズラトト變ツテ金ガナクナルヤウニナリハシマイカ、其邊ハ定テ御定見モアラウト思ヒマスカラ一應同ヒタイ

(國務大臣伯爵松方正義君演壇ニ登ル)

○國務大臣(伯爵松方正義君) 最初ノ御疑問ハ前日モ此議場デ説明シテ置イタヤウニ覺エマスクレドモ御質問デアリマスカラ再度申シマセウ、成ル程銀ガ下落スルナラバ銀ヲ持ッテ來テ金ト段々引換ヘテ金ガ出テシマフチャナカニ御尤ナコトデアリマス、ガ最早地金ヲ持ッテ來テ引換ヘルト云フコトハ出來ナイ、一圓銀ガ多クアリマシテソレデ引換ヘルト云フコトナレバソレガ出來マセウガ然ルニ一圓銀ノ、造幣局デ出來テ外國ニ出タル數ト又内ニ残シテ居ル數ト、是ハ稅關ノ取調ニ依ッテ見ルヨリ外見ヤウハナイガ差引テ見ルト國內ニ現存シテ居ルノハ漸ク三千万圓餘リデアラウト存ズル、又外ニ出タル數ハ一億カラ越ヘテ居リマスガ是ハ尾崎君モ御承知ノ通外國銀行ナドガ其都合ニヨリ年々數百万圓モ大層持ッテ來テ造幣局ニ鑄造ヲ頼ンデ持テ行イタモノデアリマス、年々是マデサウ云フコトガアッタ、ソレデ貨幣ニシテ輸出シタモノハ即チ稅關デ其數ヲ調ベテ居リマスガ一億千万圓バカリアル、トキニ今日其出テ居ル所ノ各地ノ有様ヲ取調べテ見マスルト一圓銀ハ多クハ存在シテ居マセヌ、完全ナル一圓銀貨ハ上海ニハ通用シテ居リマセヌ、天津、是ハ日清ノ役ノ時ニアスコデ使ヒマシタ一圓銀ガ少々ブラ附イテ居マス、ソレカラ香港ニモ澤山アリハセヌカト最初始終考ヘテ居マシタガ、實地調べテ見ルト漸ヤク無傷ノ一圓銀ガ五十万圓モアラウカ、ソレカラ新嘉坡ニハ大概八百万圓アル是ガ一番多イ、ナゼ完全ナモノガ其様ニ少ナクナッテ居ルカト云ヒマスト御承知ノ通日本ノ一圓銀ハ支那國ニハ其儘デハ通用シナイ、支那人ノ手ニ這入ルヤ否ヤ或ハ直グ馬蹄銀ニ鑄直シシマトイ、或ハ兩換屋デ刻印ヲ打ッテ汚ナクナッテシマウト云フ有様デ決シテ無傷デ通用シテ居ルモノハ段々是モ領事ノ手ヲ以テ今ニ始メズ五六年前ヨリ始終調べテ居マスガ最近ノ報告ニ依テモ少ナクアリマス、ソレデ先づ十分ニ引換ニ参リマシタ所ガ一千

万圓位ト覺悟シテ居マス、以上申シタ一圓銀ハ各地ノ銀行ニデモ圓ウテアルカト申シマスレバ、サウデハナイ、日用通用致シテ居ル、シテ見マスルトソレヲ通用シテ居ルノハ悉ク引上ゲテ來マスト實際市場ノ通用ハ餘程拂底致シマセウ、又通用シテ居ルノヲバ俄ニ引揚ゲルト云フコトモ容易ナコトデモアリマス、今一ツノ御質問ハドウデシタカ居リマス、唯例ヲ申シタノデ始ハ金貨デアッタガソレガフランクト銀貨ト爲シタ是ガ又アリハセヌカト云フ……

○國務大臣(伯爵松方正義君) ハア、ソレハ尾崎君ナドガ一番能ク御承知デアル、其節ハ日本國ニ流通シテ居シタモノハ太政官札デアリマシタ、アレハ十三年目ニ引揚ゲルト云フ約束デアッタノデ、引換シナイ紙幣ジヤアリマセヌカ、引換シナイ紙幣ガ充満シテ居ル以上ハ金銀ハ外國ニ驅逐サル、ト云フコトハ是ハ經濟學者ノ現ニ知シテ居ル所ジヤアリマセヌカ、ソレハ私ヨリ却テアナタノ方が餘程御巧者デアラウト思フ

(男爵尾崎三良君ソレハ濟シマッタ後デス)ト述フ

ソレハサウ云フ社會ニ於テ其節金本金ヲ施行シタカラ出テ來ル話デハナイシヤアリマセヌカ、實ニ其節ハ幼稚ダッタト私ハ考ヘル、今日ハ苟クセサウイフ社會ジヤナイ、ソレハ大體ノ貨幣ノ通用上天地ノ違ヒニナッテ居マセヌカ、ソレヲ何時マデモ明治初年ノ時即チ紙幣負ケニ下落シタル紙幣ノ融通ダケデアッタ場合ヲ以テ尾崎君ガ御論ジニナルノハ御無理ジヤナイカト思フ、又其後段々御承知ノ歴史デアッテ、サウシテ一時ハ金モ銀モ少クナックセヌカ、ソレハ御負ケニ紙幣ハ下落シテ居シタ、サウシテ十九年此方漸ク銀ト紙幣ト引換ヘルコトニナッタ、ソレデ此銀タト言ヒマスケレドモ實際日本ノ銀ナックノハ漸ク此十年位ノコトデハアリセマヌカ、其前ト云フモノハ紙幣バカリ發行シテ居シタジヤナイカ、ソレデ今日此制度ヲ採リマスレバ愈々準備ヲ堅固ニシ又ハ準備ノ減ズルヤウナコトノナイヤウニ餘程骨ヲ折シテ當路者ガ力ヲ盡サネバナラヌ、幸ニ制度ノ改良ヲ行ヒマシタナラバ實地益々堅固ニナルヤウニ一ツ心ヲ用フルト用ヒヌトノ上ニハ餘程決心ヲ要スベキモノジヤゴザイマセヌカ、又先日モ申上マスヤウニ日本ノ今日マデノ農工商ノ進ミハ隨分宣イカラ益々是カラ一ツ農業モ工業モ商業ヲ發達シテサウシテ國ノ富源が益々増スヤウニナッタナラバ愈々以テ貿易ノ都合モ宜イヤウニナルダラシテ居マセヌ、完全ナル一圓銀貨ハ上海ニハ通用シテ居リマセヌ、天津、是ハ日清ノ役ノ時ニアスコデ使ヒマシタ一圓銀ガ少々ブラ附イテ居マス、ソレカラ香港ニモ澤山アリハセヌカト最初始終考ヘテ居マシタガ、實地調べテ見ルト漸ヤク無傷ノ一圓銀ガ五十万圓モアラウカ、ソレカラ新嘉坡ニハ大概八百万圓アル是ガ一番多イ、ナゼ完全ナモノガ其様ニ少ナクナッテ居ルカト云ヒマスト御承知ノ通日本ノ一圓銀ハ支那國ニハ其儘デハ通用シナイ、支那人ノ手ニ這入ルヤ否ヤ或ハ直グ馬蹄銀ニ鑄直シシマトイ、或ハ兩換屋デ刻印ヲ打ッテ汚ナクナッテシマウト云フ有様デ決シテ無傷デ通用シテ居ルモノハ段々是モ領事ノ手ヲ以テ今ニ始メズ五六年前ヨリ始終調べテ居マスガ最近ノ報告ニ依テモ少ナクアリマス、ソレデ先づ十分ニ引換ニ参リマシタ所ガ一千

○議長(公爵近衛篤曇君) 反對ハ今小幡君が演説シ後トニ通告モ何モゴザイマセヌ

○子爵谷千城君 モウ私ハ固ヨリ贊成者デゴザイマス、別ニ何ガゴザイマセズシバ意見ヲ述ブルノ必要モナイヤウデスガ一應是マデノ行掛リモゴザイマ

○議長(公爵近衛篤齊君) 宜シウゴザイマス

(子爵谷干城君演壇ニ登ル)

○子爵谷干城君 此貨幣ノコトニ就キマシテハ本員ガ演説スルト云フハ餘程方角ノ違ツタコトデ固ヨリ一向價值ノナイ譯デアリマスケレドモ、殊ニソレノミナラズ今總理大臣ヨリ明ニ御演説モアリマシテ其後へ出テ詰ラヌコトヲ申シテハ却テ害ニナラウカト考へマシタケレドモ一言述べル積デゴザイマシタカラ極ク單簡ニ約メテ意見ヲ申シテ置キマスデ其今出テ居ル法案ノコトニ就イテハ明治二十六年頃ヨリシテ兔角ドウモ此貨幣ノ改正ハ必要デアルト云フコトヲ政府ニモ認メテ當時ノ大藏大臣即チ渡邊子爵ノ在任中ニ貨幣會議ト云フモノガ起リマシタ、其節ニ本員モ其一人デ始テ此貨幣ノ事ノ段々話ヲ聞イタノデス、デ種々實業ニ詳シ人又經濟上ノ學問ニ長ケタ人ナドガ集シテ調査ヲセラレタ所ヲ承リマスルニ、如何ニモ自分ハ前途此改正ハ必要デアルト云フコトヲ感ジタ、ソレ故ニ其時分既ニ金貨本位ナラザルベカラザル意見ヲ述べテ置イタデアリマスガ、ケレドモ其時分ニハ固ヨリ議論モ纏リマセズ種々ノ論ガアリマシテカラニ、報告ニ於キマシテモ十分ノ報告トハ思ヒマセザツタガ、詰リ其時分ノ委員ノ論ト云フモノハマダ時期が早イト云フガマア多數ニアタラウト思フ、ソレ故ニ金貨論者ト雖モ時機ノ點ニ於テ不同意ヲ表示スル人ガアタ、所ガ段々此大藏大臣其他政府委員ヨリモ熟々述べラレマシタル通今日ハ誠ニ其金貨ノ準備モ十分出來テ好イ時機デアル、此時機ヲ失ツテ若シ是ガ散佚スルトキニハ遂ニ此改正ヲスルノ時機ヲ失ツテシマフ、如何ニモ是ハ其通デアラウト思フ、本員ナンドノ考デハ最早既ニ半遅レタト思フ、ソレデ若シ之ヲ立派ニヤルナレバ途方途轍モナニ軍備擴張ナドト云フコトヲ少シ遠慮シテ軍備モ大概ニシテ置イテサウシテ其金ヲ以テカラニ此貨幣ノ改革ヲシテ日本ノ財政ヲ鞏固ニスルコトニナタラリレハ誠ニ最上、所謂上出來デアル、ケレドモ奈何セン殆ド其償金モ使ヒ潰スト云フ勢ニナクテ參クテ大金ハ儲藏ニナクテ居ル、デ若シ之ヲ今ヤラニ、ヤア其金モ必ズ消ヘテシマフニ相違ナイ、サウスレバ業ニ已ニ遅レテ居ルモノ又モウ如何トモスベカラザルノ地位ニ至ラシムルハ明ナコト、考ヘル、本員ナドモ色ニ考ヘマシタガ、金ヲ借ツテモ是ハヤラニヤーナラムト云フ程ニ考ヘテ居ルノデアル、ソレヲ先づ今日デ言ヘバ自分ノ家内ニ在ル金ヲ即チ借ツテ使フ、家ノモノヲ家ニ借ツテ使フト云フ理窟デ實際アリ剩ツタ金デハナケレドモ何シロ家内ダケノ金ヲ借ツテソレヲ元ニスルノデアルカラシテ、同ジ借ルニシテモ不都合ナコトハナイ、ソレデ遅レタリト雖モ尙ホ已ムニ勝ルト云フ考デアル、ソレカラシテ此銀貨ノタメニ國ガ大變富ンダ興業ガ發達シタト云フガ、銀貨論者ノ常デアリマスガ、是ガ私ハ前ニハ屢々申シタコトガアル他ノ議題ニ附イテ申シタコトガアル、此事業ノ發達ト云フモノハ總テ空氣デアル、空氣の事業ノ發達デアツテ真正ノ事業ノ發達デナイ、即チ唯形ノ發達デ實ノ發達デナイ、ソレハ何故カト云フニ今價ノナイ銀、價ノナイ銀ハ形ハ大キイカラシテソコデ其大變有難イヤウニ思フケレドモ百圓ト云フノガ即チ五十圓ホカ價ノナイト云フモノデアルカラ、心持ハ大變金持ニナクタヤウニアルケレドモ其實ハ矢張元ノ木阿瀬デアル、デサウ云フガタメニ唯其人ノ氣が大キクナクテ

○議長(公爵近衛篤齊君) 是ヨリ報告ヲ致シマス

午後零時十一分休憩

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛篤齊君) 直ニ第一讀會ヲ開クト云フ論ニ御異議ガナクバトニ致シマス

○子爵小笠原壽長君 賛成  
○議長(公爵近衛篤齊君) 大多數デゴザイマス  
〔其他賛成ト呼フ者多シ〕

○男爵小澤武雄君 議事日程ヲ變更シテ直ニ第一讀會ヲ開カレンコトヲ希望致シマス

○子爵曾我祐準君 賛成  
○議長(公爵近衛篤齊君) モウ大抵討論モ盡キタヤウデゴザイマスカラ第二讀會ニ移ルベキヤ否ヤノ決ヲ採リマス本案第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

○議長(公爵近衛篤齊君) フニ決シテ善イ事デハナイ、私ハ甚ダ憂フベキ事柄デアル、ソレデ如何ニ金ヲ持ツテ居ツテモ次第々々ニ融ケテ行ク、是ガ一ノ憂、又一方デハ日本ガ世界ト對等シ居レバ次第々々ニ融ケテ行ク、是ガ一ノ憂、又一方デハ日本ガ世界ト對等シアル、其曲尺ト鯨尺トノ其タメニ始終コツチハ損ヲシテ掛カラネバナラヌ、サウ云フ理窟ニナル、ソレデオ負ケニ即チ我ニノ使フ所ノ尺ト云フモノモ謨見タヤウニ始終伸縮ガアル、伸縮ガ甚シイノデアル、サウ云フヤウナ譯デアリマシテ、世界共通ノ物尺ヲ以テカラニ物ヲ尺シ世界共通ノ升ヲ以テ物ヲ量ルト云フコトハ動スペカラザルノ理ト私ハ考ヘル、デ固ヨリ此金銀ノ論ニ至シテハ學者ノ論ガ色ニアリマスケレドモ何シロ今日ニ於テハドウシテモ世界共通ノ事ニスルト云フコトガ貿易ニ競争上ニ最モ必要ナコトデアル、ソコザツタガ、詰リ其時分ノ委員ノ論ト云フモノハマダ時期が早イト云フガマア多數ニアタラウト思フ、ソレ故ニ金貨論者ト雖モ時機ノ點ニ於テ不同意ヲ表

云ツテモ、銀ニシタカラト云ツテモ、此處カラ先ノ國家ノ困難ハ同ジ事デアル、若シ之ヲ金本位ニシテカラニ段々國家ノ困難ガ重クナツテ來タト云フ斯ウ云フ場合ニソラ見ヨ金本位ニシタゲニ斯ウ云フヤウニ貧乏トシタスウ云フ人ガ出來ルカ知ラヌガ、ソレハ大キナ間違デアル、是ハ從來我ニガ執ツテ居ル論デ其儘ニ於テモ國ノ困難ハ來ル、ケレドモ同ク來テモ銀デ此儘ニ措クヨリハ金ニ直ツタキニハ餘程其憂ガ少ナイ、銀ノ方ナレバ一層其憂ガ酷イコトハ是ハモウ云フ場合ニソラ見ヨ金本位ニシタゲニ斯ウ云フヤウニ貧乏トシタスウ云フ上ゲテ置ク、ドウゾ諸君御贊成ニナランコトヲ希望致シマスウ決シテ我ニ疑ハナイ、デ我ニハ即チ金論者デアルガ、其困難ノ來タ場合ニ金ニシタゲニ困難ガ來タナドト云フコトヲ言ハレテハ甚ダ迷惑デアル、同ク來テモ金ノ方ナレバ其憂ガ少ナイ、銀ノ方ナレバ一層其憂ガ酷イコトハ一應申起立ヲ請ヒマス

起立者

多數

本日政府ヨリ左ノ通牒ヲ受領シタリ

貴族院議員久保田讓君ヨリ普通教育ニ關スル質問ニ對シ文部大臣ヨリ答辯書提出ニ付及御回付候也

明治三十年三月二十三日

貴族院議員久保田讓君提出普通教育ニ關スル質問ニ對スル別紙答辯書差進候也

明治三十年三月二十三日

内閣總理大臣伯爵松方正義  
文部大臣侯爵蜂須賀茂韶

貴族院議長公爵近衛篤齊殿

貴族院議員久保田讓君提出普通教育ニ關スル質問ニ對スル別紙答辯書差進

國庫ヨリ補助スル公共團體ノ事業ニ關スル法律案特別委員會  
委員長子爵伊東祐齊君  
副委員長子爵岡部長職君  
副委員長渡正元君

貴族院議長公爵近衛篤齊殿

文部大臣侯爵蜂須賀茂韶

貴族院議員久保田讓君提出普通教育ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一學齡兒童ヲシテ悉ク普通教育ヲ受ケシムルコトハ教育ノ要義ニシテ明治五年學制ヲ頒布セラレシ以來實ニ帝國一定不動ノ方針タリ故ニ政府ハ時勢ノ許ス限リニ於テ之レカ實行ヲ務メテ終始怠ルコトナシ今後就學ヲ増加スルカ爲ニ要スル施設ニ至テハ其方法ニシテ足ラスト雖漸次監督視察ノ機關ヲ完成セシメテ教育ノ實效ヲ舉ケンコトヲ期シ一面ハ學校ヲ増置シ設備ヲ完全ニセシメ一面ハ女兒ノ教育ニ留意シテ就學ヲ督促シ且ツ必要ノ場合ニハ事情ノ許ス限ニ於テ郡費地方費ヲ以テ補助スルノミナラス國庫費ヲ以テ市町村ノ教育費ヲ補助シ又時機ヲ計テ授業料ノ廢止ヲ行フカ如キハ其最タルモノナリ

一小學校ノ學級數ニ對シ本科正教員ノ不足甚キコトハ普通教育上最憂フヘキコトタルカ故ニ政府ニ於テハ種々ノ方法ヲ以テ年一年ヨリ教員ノ待遇厚キヲ加ヘシメ又教員ノ供給ハ專ラ尋常師範學校ノ任務ニ屬シ本科、簡易科女子部、教員講習科、豫備科等ヲ設ケテ生徒ヲ教養シ又高等女學ニ於テモ女教員養成ノ途ヲ開キ尙別ニ教員志願者ノ學力ヲ検定シテ教員免許狀ヲ與フルノ法アリ但地方長官ニ於テモ銳意教員ノ補充ヲ謀ルト雖現行師範學校制度ハ補充ノ目的ヲ遂クルニ足ラサルカ故ニ政府ニ於テ別ニ規畫スル所アリテ今調査中ニ屬ス

一小學校ニ關スル費用ハ我國ニ於テハ市町村ノ負擔トシ必要ノ場合ニ於テ郡若クハ府縣ヨリ之ヲ補助スルノ制ナレハ本年勅令第二號ノ結果トシテ要スル費用ハ市町村ニ於テ負擔スヘキコト固ヨリ當然タリ然レトモ資力乏キ助金ヲ支出シ大ニ之ヲ獎勵スルコトハ固ヨリ切望ニ堪ヘサル所タリ然レトモ之ヲ實行スルト否トハ財政ノ情況如何ニ伴フヘキモノナレハ今輒カニ之タリ

文部大臣侯爵蜂須賀茂韶

委員長副委員長左ノ通常選セラレタリ

明治二十九年度海軍省所管歲出臨時部臨時軍事費中支出未濟豫算額ノ綠

越使用ニ關スル法律案特別委員會

委員長子爵伊東祐齊君

副委員長子爵大河内正質君

副委員長磯邊包義君

副委員長渡正元君

○議長(公爵近衛篤齊君)是ヨリ午前ニ引續イテ會議ヲ開キマス、貨幣法案第二讀會、第一條ヨリ二十條マデ全部ヲ問題ニ供シマス

○飯淵七三郎君(政府委員ニ質問致シタウゴザイマスガ如何デゴザイマスカ)

○議長(公爵近衛篤齊君)何ノ質問デスカ、此簡條ニ就イテノ質問デスカ

○飯淵七三郎君(簡條ニ就イテノ質問デゴザイマス)

○議長(公爵近衛篤齊君)何ノ條デスカ、宣シウゴザイマス

○飯淵七三郎君此貨幣法案ニ據リマスト四種ト定メラレマシテ今マデ實際アル所ノ一厘銅貨ハドウ云フ譯デゴザイマスカ、之ヲ不必要ト御認メニナッタ理由ト又相互ノ條約デ申シ合セテ使ツテ宜シトイ云フ次第デアリマスカ、

御説明ヲ伺ヒタウゴザイマス

(政府委員添田壽一君演壇ニ登ル)

○政府委員(添田壽一君)此舊一厘銅貨幣ハ詰リ餘程小サウゴザイマシテ將來造リマスト云フコトニアリマシテモ是マデノ事實ニ據リマスルト餘程流通ガ差支ヘテ不便デアリマスノデ將來ハ造ラスト云フコトニ致サウト云フカラ除イテゴザイマスノデアリマス、併シ今マデ造ツテアリマシテ既ニ行ハレテ居ル分ハ此貨幣法ノ第十七條ニ從來發行ノ銅貨幣ハ其儘デアルト云フ規定ノ效力ニ據ツテ其儘御用ヒニナリマシテ差支ナインデアリマス

○議長(公爵近衛篤齊君)朗讀ハ省略致シマス

(異議ナンント述フル者多シ)

第一條 貨幣ノ製造及發行ノ權ハ政府ニ屬ス  
第二條 純金ノ量目二分ヲ以テ價格ノ單位ト爲シ之ヲ圓ト稱ス  
第三條 貨幣ノ種類ハ左ノ九種トス

金貨幣

二十圓

十圓

五圓

銀貨幣

五十錢

二十錢

白銅貨幣

青銅貨幣

五  
厘

**第四條** 貨幣ノ算則ハ總テ十進一位ノ法ヲ用井一圓以下ハ一圓ノ百分ノ一  
ヲ錢ト稱シ錢ノ十分ノ一ヲ厘ト稱ス

**第五條** 貸幣ノ品位ハ左ノ如シ  
金貨幣  
純金九百份參和銅百分

銀貨幣  
純銀八百分參和銅二百分

四  
青銅貨幣  
白銅貨幣  
銅九百五十分錫四十分亞鉛十分

第六條 貨幣ノ量目ハ左ノ如シ

三二	十圓金貨幣
二九	一分一厘一毛二八
二八	一分一厘一毛二四
二七	一分一厘一毛六六

四十錢銀貨幣 三匁五分九厘四毛二十三(グチム四七八二)

六五  
二十一錢銀貨幣  
一外四分三厘七毛八二分九厘五毫五分  
七分一厘八毛八二「グラム」六九五五

八七  
白銅貨幣  
一錢青銅貨幣  
一匁九分零厘零毛八(七)二二八〇

九分五厘零毛四三グラム五六四〇  
五厘青銅貨幣

銅貨幣及青銅貨幣ハ一圓マテヲ限り法貨トシテ通用ス

**第九條** 金銀貨幣純分ノ公差ハ金貨幣ハ一千分ノ一銀貨幣ハ一千分ノ三ト

第十條 金銀貨幣量用ノ公達ハ左ノ如シ

一 金貨幣二十圓ハ毎片八毛六四(〇「グラム」〇三一四〇)一千枚毎ニ八分  
三貢(二三・一、二二・一)圓、每三(一六・三)圓、

九一千枚每二六分二厘(二ダラム三三五〇〇)五圓ハ毎片四毛三(一)

二  
銀貨幣八各種共每片一厘五毛九二〇〔グラム〇九七二〇〕五十錢銀貨幣

一千枚每二枚一分四厘四グラム六五〇〇〇二十錢銀貨幣ハ一千枚每三

四分一厘一「グラム」五三七五〇)トス

五七五〇十圓金貨幣二毫一分一厘八「グラム」二八七五五圓金貨幣一

第十二條 金貨幣ニシテ摺損ノ爲メ通用最輕量目ヲ下ルモノ及銀貨幣白銅

貨幣又ハ青銅貨幣ニシテ書シク磨損シタルモノ其ノ他流通不便ノ貨幣ハ其ノ額面價格ヲ以テ無手數料ニテ政府ニ於テ之ヲ引換フヘシ

其ノ額面價格ヲ以テ無手數料ニテ政府ニ於テ之ヲ引換フヘシ

第十三條 貨幣ニシテ模様ノ認識シ難キモノ又ハ私ニ極印ヲ爲シ其ノ他故  
意ニ毀傷セリト認ムルモノハ貨幣タルノ效用ナキモノトス

第十四條 金地金ヲ輸納シ金貨幣ノ製造ヲ請フ者アルトキハ政府ハ其ノ請  
求ニ應スヘシ

附 則

第十五條 従來發行ノ金貨幣ハ此ノ法律ニ依リ發行スル金貨幣ノ倍位ニ通  
用スヘシ

第十六條 従來發行ノ一圓銀貨幣ハ金貨幣一圓ノ割合ヲ以テ政府ノ都合ニ  
依リ漸次之ヲ引換フヘシ

前項引換ノ結了マテハ金貨幣一圓ノ割合ヲ以テ無制限ニ法貨トシテ其ノ  
通用ヲ許シ通用禁止ノ場合ニ於テハ六箇月以前ニ勅令ヲ以テ之ヲ公布ス  
ヘシ通用禁止ノ翌日ヨリ起算シ滿五箇年内ニ引換ヲ請求セサルトキハ爾  
後地金トシテ取扱フヘシ

第十七條 従來發行ノ五錢銀貨幣及銅貨幣ハ從前ノ通り通用スヘシ

第十八條 此ノ法律發布以後ハ一圓銀貨幣ノ製造ヲ廢ス但シ右期日以前ニ  
政府ニ輸納シタル銀地金ハ此ノ限ニアラス

第十九條 此ノ法律ニ抵觸スル從前ノ法令ハ總テ之ヲ廢止ス

第二十條 此ノ法律ハ第十八條ヲ除ク外明治三十年十月一日ヨリ施行ス  
○議長(公爵近衛篤麿君) 別ニ御發言モナイヤウデスカラ決ヲ採リマス、本  
案ニ別段ノ御異議ガナケレバ可決ト認メテ宜シウゴザイマスカ

(「異議ナシ」ト述フル者多シ)

然ラバ第二讀會ハ是ニテ終リマシタ

○男爵小松行正君 直ニ第三讀會ヲ開カレンコトヲ希望致シマス

○子爵小笠原壽長君 賛成  
(「贊成々々」ト述フル者多シ)

○議長(公爵近衛篤麿君) 直ニ第三讀會ヲ開クト云フコトノ動議ガ出マシタ

ガ御異議ハアリマセヌカ  
(「異議ナシ」ト述フル者多シ)

然ラバ三讀會ヲ開キマス、又朗讀ハ省略致シマス

(「異議ナシ」ト述フル者多シ)

御異議ガナクバ原案可決ト認メマス

(「異議ナシ」ト述フル者多シ)

然ラバ本案ハ可決確定致シマシタ、次ニ議事日程第二ヨリ第五マデヲ束ネテ  
問題ニ供シマス

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス)

第一條 貨幣整理資金特別會計法  
第一條 一圓銀貨幣及流通不便ノ貨幣引揚交換ノ爲メ貨幣整理資金ヲ置キ  
其ノ歲入歲出ハ一般會計ト區分シ特別ノ會計ヲ設置ス

第二條 明治三十年度以後造幣局特別會計作業益金ハ貨幣整理資金ニ充ツ  
ヘシ

第三條 交換ノ上引揚タル一圓銀貨幣及流通不便ノ貨幣ヲ地金トシテ賣却

第三讀會  
貨幣整理資金特別會計法案 第一讀會ノ續  
布告免換銀行券例中改正法律案 第一讀會ノ續

三七二

第十三條 貨幣ニシテ模様ノ認識シ難キモノ又ハ私ニ極印ヲ爲シ其ノ他故  
意ニ毀傷セリト認ムルモノハ貨幣タルノ效用ナキモノトス

第十四條 金地金ヲ輸納シ金貨幣ノ製造ヲ請フ者アルトキハ政府ハ其ノ請  
求ニ應スヘシ

附 則

第十五條 従來發行ノ金貨幣ハ此ノ法律ニ依リ發行スル金貨幣ノ倍位ニ通  
用スヘシ

第十六條 從來發行ノ一圓銀貨幣ハ金貨幣一圓ノ割合ヲ以テ政府ノ都合ニ  
依リ漸次之ヲ引換フヘシ

前項引換ノ結了マテハ金貨幣一圓ノ割合ヲ以テ無制限ニ法貨トシテ其ノ  
通用ヲ許シ通用禁止ノ場合ニ於テハ六箇月以前ニ勅令ヲ以テ之ヲ公布ス  
ヘシ通用禁止ノ翌日ヨリ起算シ滿五箇年内ニ引換ヲ請求セサルトキハ爾  
後地金トシテ取扱フヘシ

第十七條 從來發行ノ五錢銀貨幣及銅貨幣ハ從前ノ通り通用スヘシ

第十八條 此ノ法律發布以後ハ一圓銀貨幣ノ製造ヲ廢ス但シ右期日以前ニ  
政府ニ輸納シタル銀地金ハ此ノ限ニアラス

第十九條 此ノ法律ニ抵觸スル從前ノ法令ハ總テ之ヲ廢止ス

第二十條 此ノ法律ハ第十八條ヲ除ク外明治三十年十月一日ヨリ施行ス

○議長(公爵近衛篤麿君) 別ニ御發言モナイヤウデスカラ決ヲ採リマス、本  
案ニ別段ノ御異議ガナケレバ可決ト認メテ宜シウゴザイマスカ

(「異議ナシ」ト述フル者多シ)

然ラバ第二讀會ハ是ニテ終リマシタ

○男爵小松行正君 直ニ第三讀會ヲ開カレンコトヲ希望致シマス

○子爵小笠原壽長君 贊成

(「賛成々々」ト述フル者多シ)

(「異議ナシ」ト述フル者多シ)

○議長(公爵近衛篤麿君) 直ニ第三讀會ヲ開クト云フコトノ動議ガ出マシタ  
ガ御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ」ト述フル者多シ)

御異議ガナクバ原案可決ト認メマス

(「異議ナシ」ト述フル者多シ)

然ラバ本案ハ可決確定致シマシタ、次ニ議事日程第一ヨリ第五マデヲ束ネテ  
問題ニ供シマス

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス)

第一條 貨幣整理資金特別會計法

第二條 一圓銀貨幣及流通不便ノ貨幣引揚交換ノ爲メ貨幣整理資金ヲ置キ  
其ノ歲入歲出ハ一般會計ト區分シ特別ノ會計ヲ設置ス

第三條 明治三十年度以後造幣局特別會計作業益金ハ貨幣整理資金ニ充ツ  
ヘシ



テ來ル譯ニナルト云フ心配ガアルノデアリマス、ソレ故ニ委員會ニ於テハ此十六字ヲ茲ニ加ヘルト云フコトニナリシタ、加ヘタデハナイ實ハ是ハ復活デゴザイマス、諸君ノ御持ニナツトル所ノ委員ノ報告デナイ所ノ案ヲ御覽ナサルト政府案ニハ元トアツタノデアリマス、ソレヲ今本院ノ……貴族院ノ委員會ニ於テハ此十六字ヲ復活シタニ過ギメノデアリマス、勿論は政府委員カラ要求サレテドウカ之ヲ復活シテ貴ヒタイト云フコトデアリマスシ、又委員共ニ於テモ如何ニモ尤ナコトデ是微セバ餘程澤山ナ要求が出ルダラウ、即チ補償ヲ求メル者ガ澤山出ルダラウト云フ心配デ此十六字ヲ加ヘマシタ、即チ復活シマシタ譯ニナリマス、其他委員會ニオキマシテハマダ修正シタイ所モ隨分アルト云フ意思ハ皆持ツテ居リマシタ、去リナガラ最早時日モ少シ、今ヨリ交渉ニナツテモムヅカシイ問題ニ行ケバ本議會ノ日限中ニハ纏リ切ラナイト云フコトニナラウカト云フ心配モアリマス、又大體ニ於テハ大シタ不<sup>ト</sup>同意ドコロデハナイ先ツ大體ニ於テハ宜シイト云フコトニ認メテ一人ノ反對者モナク此案ノ如ク可決シマシタソアリマス、委員ノ全體ノ意思ト云フモノハ今少シ嚴重ニシタラ宜カラウ取締法ヲ云ハミモ少シ酷ニシタラ宜カラウ、モ少シ嚴重ニ罰則ナドモ今少シ嚴重ニシタラ宜カラウ、又文章上ニ於テモ少々不都合ト見ルヤウナ所モアルケレドモガ事柄ニハソレハ害ガナイニ依ッテ先刻申ス通日間ヒガナイニ依ッテ是デ通過サセヤウト云フコトニナリマシテ今申ス通委員ニ於テハ一人ノ不同意モナク唯此僅ナルツノ修正ノ修正ノ外ハ原案ヲ可ト致シマシタソアリマス、御報告ヲ申シマス

○男爵安場保和君 御質問ヲ致シタイト存ジマスガ、此委員會ニ於キマシテハ大體ハ一人ノ異議モナク御贊成デアツト云フコトデアリマスガ、私ハ實ハ大體ニ附イテ甚ダ此法案ハ如何デアラウカト平素考ヘテ居ルコトガアリマスガ、其邊ノ事ニ附イテハ政府委員トノ間ニ御問答デモアツタカナイカト云フコトヲ伺テ贊否ヲ決シタイト思ヒマスガ、ソレハ他デハアリマセヌガ唯今御報告中ノ何モ段々修正ヲ致シタイ廉モアリ又モウ少シ云ハミ大體ニ附イテモ嚴格ニ取締リタイト云フ意思ヲ持ツテ居ツタト云フ、併ナガラ最早日限モナイコトデアルカラ大體同意ダニ依ッテ之ニ一人ノ異議モナク結了シタ云フコトデアリマスガ私ノ考デハ大體ノ組織ガ斯様ナル組織デハ固ヨリ現在行レテ居ル所ノ方法ニ依ルヨリモ此方ハ幾分カ山林局ナドノ設置以來非常ナ弊害ヲ來シテ居ル所ニ附イテ此法案ハ餘程取締ガ附ク方ニハナツテ行クダラウトハ思ヒマスクレドモ、大體ハ我ミカラ考ヘレバ此法案デハ矢張是マデノ現在ノ法ニ少シク實際ノ弊害ノ耿目差シシタト云フニ止マル、約言スレバ五十歩百歩デハナイカ、山林ハ繁茂セズ年々歲々濫伐ニナツテ行ク所ノ弊ヲ是等ノ法律デ……此節ノ改正ニ依ツテ取締ガ附クト云フコトハ我ミハドウモ考ヘナイ、ソレト云フモノハ何カト云フト……

〔子爵曾我祐準君「ソレハ私ニ御質問デゴザイマスカ」「ト述フ」〕

質問デゴザイマス、ソレデ大體ニ附イテノ御論ハナカツタコト云フノデ、意見ノヤウナコトヲ言ハヌデハ其御摸様ヲ伺フニ由ナイカラ申スノデゴザイマスカラ少シ御聞キ下サイ、ソレデ我ミノ考デハドウモ今マデノ仕組デハイカスカラモウ少シ仕組ヲ變ヘルト云フコトニ附イテハ何カ御意見ハナカツタカ、

政府委員トノ御回答ハナカツタコト云フコトヲ御尋スル

○子爵曾我祐準君 宜シウゴザイマス、詰リモウナンデス、今少シ酷ナ法律ヲ用ヒタラ宜カラウト云フ議論ハ委員ノ中カラハ出ナカツタコト云フ御尋ニアリマスカ

○男爵安場保和君 サウデハナイ、ソレハ御報道デ分リマシタガ、モウ少シ酷ナ方ガ宜カラウト云フ意思ハアルケレドモマダく是デモ今マデノヤウニ之ヲ改正セヌヨリモ宜イカラ是ニシタト云フ御主意ハ分リマシタガ、我ミハ却テ反対ニ斯ウシタラ益々山林ハ荒レルダラウト思ヒマス……

〔子爵曾我祐準君「サウデスカ」「ト述フ」〕

ソレデ全體ノ組織ヲ今少シ我ミハ變ヘタイト云フ考デアルカラ其邊ニ附イテハ何カ御回答ハナカツタカ

○子爵曾我祐準君 今ノ組織ト云フノハドンナコトカ分リマセヌガ、委員ハ先刻御報道シマシタ通マダ少シ嚴重ニスルガ宜イト云フ意思ハ一人モ残ラズ持ツテ居ツタト云フコトハ申シニクイガ多數ハ其意思ガアリマシタ、サウシテ併ナガラ此法律ハ現在ノヨリハ宜シイ、是モ取締ガ附クニ相違ナイ、前キニ申シタ通森林ノコトニ附テハ今日取締ヲ大ニシナケレバナラヌ、是ダケノ法律ガ出レバ大ニ宜シイコトニ相違ナイ、併シコレデ十分ナリトハ思ハヌケレドモガ元ノヨリ見ルト非常ニ宜シイト云フ感情ハ皆アツタヤウデアリマス、ソレダケデ宜シウゴザイマシタカ

○男爵安場保和君 宜シウゴザイマス

○箕作麟祥君 少シ委員長ニ伺ヒタコトガアリマス、即チ其修正セラレマシタ二十六條、外ニ委員ノ修正ハナイヤウデアリマスガ、アソコダケノヤウデアリマスガ、此修正ノコトニ附イテ伺ヒタノデアリマス、ドウ云フコトデゴザイマシタカ此修正ノ意味ガ分ラヌ、成ル程政府カラ衆議院ニ出シタ案ヲ見マスルト丁度今度ノ修正シタヤウナコトガアリマスケレドモ先ツ此二十六條ノ「保安林ニ編入セラレタル爲損害ヲ蒙リタル森林所有者ハ其ノ直接ノ損害ニ限リ補償ヲ求ムルコト得」トアリマシタガ森林ノ所有者ガ保安林ニ自分ノ林ヲ編入サレタタメ損害ヲ蒙ツタ、其損害ヲ蒙ツタ森林ノ所有者ガ其伐木ヲスルニ附イテ直接ノ損害……一旦損害ヲ蒙ツテ居ル者が又伐木ヲ禁止フコトデアリマスガ私ノ考デハ大體ノ組織ガ斯様ナル組織デハ固ヨリ現在行レテ居ル所ノ方法ニ依ルヨリモ此方ハ幾分カ山林局ナドノ設置以來非常ナ弊害ヲ來シテ居ル所ニ附イテ此法案ハ餘程取締ガ附ク方ニハナツテ行クダラウトハ思ヒマスクレドモ、大體ハ我ミカラ考ヘレバ此法案デハ矢張是マデノ現在ノ法ニ少シク實際ノ弊害ノ耿目差シシタト云フニ止マル、約言スレバ五十歩百歩デハナイカ、山林ハ繁茂セズ年々歲々濫伐ニナツテ行ク所ノ弊ヲ是等ノ法律デ……此節ノ改正ニ依ツテ取締ガ附クト云フコトハ我ミハドウモ考ヘナイ、ソレト云フモノハ何カト云フト……

○子爵曾我祐準君 此修正ヲシマシタ文字ノ上ニ附キマシテハ成ル程上ノ損

害ト云フ字ヲ削タ方ガ能ク分ルカ知レマセヌガ、併シ大體ノ修正ニ於テハ讀ミ得ル限修正ヲシナイト云フ方針ヲ執タノデ、文章ニ於テモ十分トハ認メナイケレドモ分ル限リハソレデ置クト云フ委員一體ノ意見デアリマス、ソレデ時日ガナニ依テ此法律案ハ成ルベク通過サセタイ、急グト云フ精神ヲ以テコニ復活シタノハ即チ原案ニ政府案ノ通ニナツタノデ、伐木ヲ禁ジタメニ損害ヲ受クル者ガ出來テ來ル、其損害ヲ受クル場合ハ其直接ノ損害ニ限リテ補償ヲ求ムルコトガ出來ル、今ノ通ニシテ置クト材木ヲ禁止サレスケレドモ保安林ダト保安林ノダメニ損害ヲ蒙ツタ者ニ限り補償ヲ求ムルコトガ出來ルガ、サウスルト餘リ廣スギテ言ハバ砂防ノヤウナダメニ廣イ森林ガ保安林ニナリマセウ、ソレガ何トカ彼トカ申立テ、損害ノ補償ヲ求メルコトニナツタラ實ニ非常ナコトニナルト云フノテ復シマシタ、復シテドウ云フコトニナルカト云フト保安林ニ編入サレタタメニ損害ヲ蒙ツタリ森林所有者ノ伐木ヲ禁止シタル場合ニ於テノミ直接ノ損害ニ限り補償ヲ求ムルコトヲ得ルノデ、伐木ヲ禁止サレタタメノ損害デ保安林ニナツタバカリデ蒙ツタ損害ノ補償ヲ求メラレヌト云フコトニナリマス

(箕作麟祥君モウ一ツト述フ)

伐木ヲ禁止サレタ場合ハ直接ノ損害ノ外ハ補償ヲ求ムルコトハナラヌト云フトカ制限セラレタラ勝手ニ伐ルヨリハ困リマセウガ其方ノ損害ハ薄イモノト認メテ居リマス、禁止ノ方ハ其損害ガ重カラウト思ヒマス、制限ノ方ハ言ハバ木ガソレダケ澤山ニナツテ何本カ残シテ置カナケレバナラヌト云フノデ、幾ラカ損害ハアリマセウガソレハ保安林ニナツタ以上ハ致シ方ハナイト云フノデ……

○箕作麟祥君 分リマンタ

○男爵安場保和君 政府委員ニ少シ質問ヲ致シマスガ、此森林法ノ御組立ニ附キマシテハ我ニハ少シ意見ガアリマスガ政府ニ於テハ矢張是マデノ山林區署ナドハ此儘差置イテ此法律ヲ實行ナサレル御積デアリマスカ

(政府委員高橋琢也君演壇ニ登ル)

○政府委員(高橋琢也君) 唯今ノ御尋デゴザイマスガ、此森林法ノ御組立ニ此儘置キマス積デゴザイマスガ、今日ノ所デハ大小林區署ニ職員モ甚ダ不足ヲシテ居リマス、又御承知ノ通全國十大林區ニナツテ居リマスカラ豫テ行政整理ノ結果デ出來得マシタノデゴザイマスガ、十六大林區ヲ一旦減ジマシテ十大林區ニナリマンタノデゴザイマス、拔十大林區ニナツテ見タ所デ監督其他行政上不行届デゴザイマスカラ林區ハ何レ増設シナケレバナリマス、併シ林區ノ制度ハ此儘ニシテ置ク積デゴザイマス

○男爵安場保和君 曜今ノ十林區デ造林ニ係ル費用ト役人ノ俸給雜費旅費等ニ係ル金額ハドレ位ニナツテ居リマスカ、御分リニナツテ居リマスナラ、ソレヲ一應伺ヒマス

○政府委員(高橋琢也君) 造林ノ費用ハ七万圓ホドニナツテ居リマス、併シ

唯今茲ニ調ヲ持テ居マセヌガ、併ナガラ役人ト旅費ト仰シヤルノハドウ云フコトカ存ジマセヌガ、一般ノ大小林區ノ中ニ籠ツテ居シテ特別ニナツテハ居リマセヌ

○男爵安場保和君 私ノ御尋ハサウデハナイ、山林區署ノ一般ノ費用ハ何十万圓アリマセウカ、其中所謂山林ノ繁茂増殖ニ係ル所ノ直接ニ掛ル費用ト官吏ノ俸給及旅費其他ニ固ヨリ山林ノ役人ダカラ造林ニ關係ガナイトハ言ハレマセヌガ直接ニ造林ニ費ス費用額ト、ソレト俸給旅費等ニ屬スル割合ガドウナツテ居リマスカト云フコトデ……

○政府委員(高橋琢也君) 別段ニ造林ノ事業ニ從事致シマスル官吏ノ旅費ト云フモノハ何モ分ツテ居リマセヌ、總テ小林區ノ事務ニ從事スル者ガ直ニ造林ノ事ヲ掌ツテ居リマスル

○男爵安場保和君 モウ少し御尋シタイ、豫算ノ方ニハ内譯ガ請求書ニ書イテアツタヤウデゴザイマス能ク調ガ届カヌカラ御尋シタガソレハナインデスカ内譯ハ……

○政府委員(高橋琢也君) 先刻モ申上ゲマス通豫算ノ林產物處理費ノ中ニ造林普通ノ林產物處理費ガゴザイマス、其方デゴザイマスト官行事業、所謂純粹ノ林產物處理費ト云フモノハ官行事業デゴザイマシテ此方ニ係リマスモノハ旅費其他職員ノ俸給ナドモ別ニ積ツテゴザイマスガ、造林ノ方ハソレガタメニ俸給等ヲ別ニシテハアリマセヌ

○男爵安場保和君 モウ少し御手數デゴザイマスガ、内譯ガアリマセウ、即チ山林區署ノ俸給ガ幾ラト款項ニ分ツテアリマセヌカ

○政府委員(高橋琢也君) 俸給ハ小林區署ハ幾ラト云フコトハアリマスガ其他アリマセヌ

○男爵安場保和君 大林區署ハ一般全國ノ十大林區署ノ總額ノコトデ……

デスカ

○男爵安場保和君 左様ソレト旅費、ソレニ費ス雜給廳費トカ云フモノガアリマスカ

○政府委員(高橋琢也君) 其詳シイコトハ豫算書ヲ持テ居マセヌデ審ニ御答ハ出來マセヌ

○男爵安場保和君 其位ノコトハ山林ノ御經畫ガアリマセウカラ分ツテ居ナケレバナラヌガ、ドノ位ノ割合ニナリマスカ、大體ドノ位ノ區別ガアルカラ

○政府委員(高橋琢也君) 造林ニ向ツテハ先刻モ申上ゲル通少ナウゴザイマス、僅ナモノデアリマスカラ別段ニ造林ト云フモノハ普通ノ林務ニ對シテ、監督營林其他保護之ニ對シマスル費用ト云フモノハ區別ガゴザイマセヌ、割合モ何モゴザイマセヌ、唯今申上ゲマスル通官行事業ノヤウナ殊特ノモノニ付イテハ特別ノ豫算ガ立ツテアリマス

○議長(公爵近衛篤齊君) 別ニ御發議モナイヤウデアリマスカラ第二讀會ニ

移ルヤ否ヤノ決ヲ採リマス、本案第二讀會ニ移ルベシトシテ御異議ハゴザイマセヌカ

○子爵曾我祐準君 直ニ第二讀會ヲ開カレシコトヲ希望致シマス  
〔「賛成」ト呼フ者數名アリ〕

○議長（公爵近衛篤齊君） 然ラバ直ニ第二讀會ヲ開キマス、第一條ヨリ第一  
十五條マヂヲ問題ニ供シマス、朝讀ハ省略致シマス  
マセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（公爵近衛篤齊君） 然ラバ直ニ第二讀會ヲ開キマス、第一條ヨリ第一  
十五條マヂヲ問題ニ供シマス、朝讀ハ省略致シマス

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス〕

### 森林法

#### 第一章 總則

第一條 此ノ法律ニ於テ森林ト稱スルハ御料林國有林部分林公有林社寺  
林及私有林ヲ謂フ

第二條 原野山岳其ノ他ノ土地ニシテ第八條第一乃至第五ニ該當スルモノ  
ハ森林ニ擇シテ此ノ法律ヲ適用ス

#### 第二章 營林ノ監督

第三條 公有林及社寺林ニシテ其ノ經濟ノ保續ヲ損シ又ハ荒廢スルノ虞ア  
ルトキハ主務大臣ニ於テ營林ノ方法ヲ指定スヘシ

私有林ニシテ荒廢ノ虞アルトキハ主務大臣ニ於テ營林ノ方法ヲ指定スル  
コトヲ得

第四條 前條指定ノ方法ニ背キ伐木ヲ爲シタル者ニハ主務大臣ハ其ノ伐採  
ヲ停止シ伐木跡地ニ造林ヲ命スルコトヲ得

第五條 前條ノ造林ヲ怠ル者アルトキハ政府ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ費用ヲ徵  
收シ又ハ其ノ造林ニ係ル部分ヲ部分林ト爲スコトヲ得

第六條 森林ヲ開墾セムトスル者ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 國土保安ニ危害ノ虞アリト認ムルトキハ主務大臣ハ豫メ其ノ箇所  
ヲ指定シ森林ノ開墾ヲ禁止スルコトヲ得

第八條 森林ニシテ左ニ列記スル箇所ニ在ルモノハ保安林ニ編入スルコト  
ヲ得

一 土砂壊崩流出ノ防備ニ必要ナル箇所

二 飛砂ノ防備ニ必要ナル箇所

三 水害風害潮害ノ防備ニ必要ナル箇所

四 頽雪隊石ノ危険ヲ防止スルニ必要ナル箇所

五 水源ノ涵養ニ必要ナル箇所

六 魚附ニ必要ナル箇所

七 航行ノ目標ニ必要ナル箇所

八 公衆ノ衛生ニ必要ナル箇所

九 社寺名所又ハ舊跡ノ風致ニ必要ナル箇所

第十條 保安林ハ編入解除ハ府縣郡市町村其ノ他直接ノ利害ヲ有スル者ヨ  
リ府縣知事ニ申請スルコトヲ得

第十一條 府縣知事ニ於テ保安林ノ編入解除ヲ必要ト認メ又ハ前條ノ日請  
ヲ受ケタルトキハ之ヲ地方森林會ノ會議ニ付スヘシ

第十二條 保安林ノ編入解除ヲ地方森林會ノ會議ニ付セムトスルトキハ開  
會三十日以前ニ府縣公報ヲ以テ告示シ其ノ森林ノ所有者並大林區署土木  
監督署ニ其ノ旨ヲ通知シ且所在市町村役場ニ掲示スヘシ

第十三條 保安林ニ編入ノ爲地方森林會ノ會議ニ付セムトスル森林ハ前條  
告示ノ日ヨリ決定ノ日マテ其ノ立木ノ伐採土石切芝ノ採取樹根ノ採掘  
及開墾ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 保安林ノ編入解除ニ直接ノ利害ヲ有スル者其ノ編入解除ニ異議  
アルトキハ第十二條ノ告示ノ日ヨリ二十五日以内ニ府縣知事ヲ經テ意見  
書ヲ地方森林會ニ提出スルコトヲ得

第十五條 府縣知事ハ地方森林會ノ答申書ニ意見ヲ付シ關係書類ヲ添へ之  
ヲ主務大臣ニ具申スヘシ

第十六條 保安林ノ編入解除ハ地方森林會ノ議決ヲ經テ主務大臣之ヲ決定  
ス

第十七條 保安林ノ編入解除ハ官報及府縣公報ヲ以テ告示シ且其ノ森林ノ  
所有者ニ通達スヘシ

第十八條 保安林ノ編入解除ニ直接ノ利害ヲ有スル者其ノ編入解除ニ關ス  
ル處分ニ不服アルトキハ前條ノ告示若ハ通達ヲ受ケタル日ヨリ九十日以  
内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十九條 保安林ニ於テハ皆伐及開墾ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 府縣知事ノ許可ヲ得ルニ非サレハ保安林ニ於テ土石切芝ノ採  
取樹根ノ採掘又ハ牛馬ノ放牧ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ保安林ノ伐木ヲ禁止又ハ  
制限スルコトヲ得

第二十二條 主務大臣ハ保安林ニ關シ其ノ森林ノ所有者ニ營林及保護ノ方  
法ヲ指定シ且其ノ使用收益ヲ制限スルコトヲ得

第二十三條 主務大臣ハ保安林又ハ開墾禁止ノ森林ヲ開墾シタル者ニ對シ  
復舊ノ造林ヲ命スルコトヲ得

第二十四條 前條ノ造林ヲ施行セス又ハ第二十二條ニ依リ指命シタル事項  
ヲ實施セサル者アルトキハ政府ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ費用ヲ徵收スルコト  
ヲ得

第二十五條 政府ニ於テ保安林ヲ買上ケムトスルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得  
ス

○子爵曾我祐準君 二十五條マヂ如何デゴザイマス

○議長（公爵近衛篤齊君） 二十五條マヂノ積デアリマス

○子爵曾我祐準君 ア、左様デスカ

○箕作麟祥君 チヨット十八條デ質問ヲ致シタウゴザイマスガ

○議長（公爵近衛篤齊君） 宜シウゴザイマス

○箕作麟祥君 是ハ將來ノタメニ意味ヲ確メテ置キタイダケノ考テゴザイマ  
ス決シテ攻撃スルノデモ何デモナイ、此十八條ハ即チ衆議院デ修正ヲ加ヘタ

ノデアリマスカラ此政府委員ニ御尋ヲスルノハ方角達ヒカ知レマセヌガドウ  
モ外ニ聞ク途ガアリマセヌカラ已ムヲ得ズ政府委員ニ御尋スル、此行政裁判  
所ニ出訴スルト云フコトガ入レマシタノハ至極宜シウゴザイマセウガ、利害  
ノ關係ヲ有スル者ガ出訴スルト云フコトニチテ居ル、利害ノ關係ヲ有スル  
者ト云フノハドウ云フ人ノコトヲ云フノデアリマセウカ、是ガ疑ハシイ、ソ  
レデ例ヘバ森林ノ所有者ハ利害ノ關係ヲ有スルモノデアリマセウガ、前ヲ見  
マスルト云フト此第十條ニハ「保安林ノ編入解除ハ府縣郡市町村其ノ他直接  
ノ利害ヲ有スル者」トスウ云フコトガアル、サウスルト云フト此十條ノ文章カ  
ラ見ルト府縣郡市町村ト云フヤウナモノモ矢張利害ヲ有スル者ノヤウニ見エ  
ル「其ノ他」ト云フ字ガアリマスカラ府縣郡市町村モ直接ノ利害ヲ有スル  
者、其他ノ利害ヲ有スル者、所有者ナドモ利害ヲ有スル斯ウ云フヤウニ見エ  
ル、サウスルト唯今ノ十八條ノ行政裁判所ニ出訴スル人ハ即チ原告ニナル人  
ハ此十條ニアル府縣郡市町村ト云フヤウナモノ即チ法人、法人ガ原告ニナル  
コトモ出來ルト云フ精神ナノデアリマセウカ、一體ニマア是マデノ法律ニ依  
リマスト云フト此府縣郡市町村ト云フヤウナサウ云フ法人ガ原告ニナルト云  
フコトハ餘程珍シイノデス、或ハ市町村會ガナルトカ、會ガナル或ハ市町村  
長ガナルトカ云フコトハ隨分幾ラモアリマスガ、甫町村長ト云フ法人其者ガ  
原告ニナルト云フコトハ全ク例ガナイトハ私ハ申シマセヌガ、ソレハ餘程珍  
シイコトデアッテ大抵マアドウモナイヤウニシテアリマスガ、併シ私ハサウ  
シタイト云フノデハアリマセヌガ、ソレニ疑ヲ生ジタ、此邊ハ即チ法人が自  
ラ原告ニナルコトガ出來ルト云フコトヲ目的ニスル精神デアリマスカ、ソコ  
ヲドウカチヨツト承リタイ

(政府委員高橋琢也君演壇ニ登ル)

○政府委員(高橋琢也君) 箕作君ニ御答致シマスガ此法律ノ精神ハ固ヨリ法  
人が原告ニナリマスル積デ即チ其場合ニハ矢張法人ノ代表者ガ出マスル斯ウ  
云フ積デアリマス

○馬屋原彰君 本員モ一ツ質問致シタウゴザイマス、即チ此第一條ニ掲ゲテ  
アリマス所ノ御料林國有林部分林云々ト云フコトデアリマスガ御料林國有林  
ハ無論分ツテ居リマスガ、此部分林ト云フコトハ外ノ法律デ斯ウ云フモノデ  
アルト云フコトガ極テアレバ宜シウゴザイマスガ、ドウモ本員ハ記憶シマセ  
ヌ、サウスルト五條ハ隨分人民ニ關係ノ多いコトデ「前條ノ造林ヲ怠ル者ア  
ルトキハ政府ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ費用ヲ徵收シ云々」ト云フコトガアリマ  
ス、隨分直接ニ人民ニ關係スルコトガアル、所ガ本員ハ之ヲ見テ分ラヌ部分  
林ト云フノハドウ云フコトカ、他ノ法律ニ定義ガアレバ宜シウゴザイマス  
ガ、ドウモ少シ疑ヲ起シマスカラツレヲ一ツ…

○政府委員(高橋琢也君) 別段御發議モナクバ第一條ヨリ第二十五條マデノ  
デゴザイマスカ部分林仕付條例ト云フモノガゴザイマス是ハ明治十五年頃カ  
ラ行レテ居リマシテ能ク民間デモ承知ヲ致シテ居ルモノデゴザイマス

○馬屋原彰君 宜シウゴザイマス

○議長(公爵近衛篤曆君) 別段御發議モナクバ第一條ヨリ第二十五條マデノ  
デゴザイマス、第一條ヨリ第二十五條マデ御異議ガナクバ原案ニ決シマス

「持川委員會」修王案，以元之元定為  
損害人算定方法，命令云以元之元定為

伐木ヲ禁止セラレタル場合ニ於ケル直接ノ損害ニ限り補償ヲ求ムルコト  
ヲ得但シ御料林國有林ニ對シテハ補償ヲ爲スノ限り在ラス  
前項ノ損害ニシテ申請ニ係ルモノハ申請者之ヲ補償シ命令ニ係ルモノハ  
政府之ヲ補償ス但シ申請者ノ補償ニ係ルモノハ政府ニ於テ其ノ三分ノ一  
以内ヲ補助スルコトヲ得  
損害ノ算定方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
○箕作麟祥君　此委員ノ修正ノ「伐木ヲ禁止セラレタル場合ニ於ケル」ト云  
フ修正ニ附キマシテ委員長ニ質問シマシテ御答ヲ得マシタガドウモ甚ダ道理  
ガ貫カヌヤウデ禁止ヲ入レル位ナラバ前ノ二十一條ノ制限ト云フコトガアッ  
テモ矢張リ是ハ禁止程ノ害ハナイカ知レヌガ是トテモ五十歩百歩ト云フ論ガ  
アリマシタガ五十歩デモ百歩デモ損害ガアル、ソレデ直接ト云フ字ガアリマ  
スカラ矢張ワレハ今度赤イ字ヲ止メテシマクテ衆議院カラ寄越シタ通ニシテ  
「保安林ニ編入セラレタルタメ損害ヲ蒙リタル森林所有者ハ其直接ノ損害ニ  
限リ」トシテ置キマスレバ即チ直接ト云フ字ト間接ト云フ字トツレト勿論争  
ハ起リマセウ、起リマセウケレドモソレハ事實問題ニアッテ或ハ地方森林會  
或ハモウ一層進メバ裁判所トカ云フ所デ事實問題ヲ極メマセウカラ強テコン  
ナニ禁止ノ場合ダケヲ入レテ置クト云フコトヲセヌデモ入レルナラバ制限モ  
入レタインデアリマスガイツソコンナコトハ止メマシテ直接ノ損害ト云フダ  
ケノコトニ即チ編入セラレタイト云フコト其事カラ直接ニ生ズル損害ダゲ  
……回リ回シテ是カラ是ソレカラソレト云シテハ際限ハ無イケレドモ斯ウ云  
フヤウナ直接ノ損害ト云フダケニシタラ宜カラウ、衆議院カラ回シテ來タ案  
ヲ先程委員長モ隨分修正シタイ點モアルケレドモドウモ時日切迫テハアリ通  
ゲマセナシダガ唯今箕作君カラ御心配モアリマシタガ併シ是ダケノコトハ同意スルカ  
ラ又カモ知レヌト云フ御心配モアリマシタガ併シ是ダケノコトハ同意スルカ  
ラシテ大變好都合ニナリマスルト云フ事實ダケヲ由上ゲテ置キマスル第二十  
衆議院カラ回シテ來タ通ニシタ方ガ却テ道理ニ適フト思ヒマス  
○政府委員高橋琢也君演壇ニ登ル  
(政府委員高橋琢也君演壇ニ登ル)

ノデゴザイマス、ソレデゴザイマスルカラ此伐木ヲ禁止致シマシタ場合トサウシテ制限ノ場合トハ無論違ヒマスガ併ジ制限ノコトハ元來之ニ入レマセヌ

デモ宜シイノデ宜シイト云フモノハ農商務大臣ガ營林ノ方法ヲ指定スルコトガ出來マスル故其方ニ這入ツテ居リマスルケレドモ尙ホ不安ニ思ウテ衆議院

デハ制限ト云フコトヲ入レマシタ、此制限ト云フコトハ固ヨリ伐木ヲサセナ

イト云フ趣意デハゴザイマセヌ、唯或ル部分ノ伐木ヲサセ得ナイコトガゴザイマセウト思ヒマス、ケレドモ此禁止ト云フモノトハマルデ違ヒマスル、御承知モゴザイマセウ此伐木ヲ禁止シテ居リマスルノハ今日ノ禁止林クレカラ

伐木停止林是ガ今日ノ保安林デゴザイマス、今日ノ保安林ニハ固ヨリ補償ハ一切致シテ居リマセヌ禁止ヲ致シテ居リマシテモ一切補償ハ致シテ居リマセヌ、然ルニ此法律發布後ハ禁止ヲ致シタ場合ダケハ是非補償ヲスルトスウ云

精神ニハナツテ居リマスル、若シ又禁止ヲ致シマセヌ場合ニ聊カ事業ニ制限ヲ加ヘマセネバ固ヨリ濫伐ノ虞ガゴザイマスルガ故ニ營林其他ノ制限ヲ加ヘマスルコトが出來マセウト思ヒマスル、ケレドモ保安林トシテ其效ヲ全フ

サセマセウト云フニハ是ハムヲ得ヌコトデゴザイマスル、其場合御承知モゴザイマスル通此水源涵養等ニ至リマシテ最モ此利益ヲ受クル方面ノ者が多ウゴザイマスル其上流ノ山林ニ向ヒマシテ保安林ニ編入スルケレドモ伐木ハ禁止シナイ唯森林ノ經濟ノ保續ヲ破ラヌヤウニセイト申シマシタキニソレデモ是マデ自由ニ伐ツタモノデアルカラ幾分カ此經濟ヲ掣肘セラル、以上ハ損害ガ立ツ、此損害ハ是非補償シテ貰ハヌナラヌト云フコトニナリマスト此法律ガドウシテモ歩ケ得ナイト云フ結果ニナリマス、ソレデアリマスカラ此伐木ヲ禁止セラレタ場合ニ限リマシテ損害ヲ補償スルトスウ云フ法律ノ精神デゴザイマスルシ、又實際ハワレデナケレバ歩ケマセヌト云フコトニナリマス、又他ノ條項ニゴザイマス通既ニ第二十八條ニナツテ居マスガ是デ地租モ公課モ免ジテ居リマス幾ラカ制限ヲ致マスルニ向ツテハ地租公課ト云フモノモ免ジテ幾分カ特典モ與ヘテゴザイマス、故ニ悉ク保安林ヲ補償スルト云フコトニナツタラドウシテモ實際出來得ナイコトニナリマス、此段ヲ宣シク御了知フ願ヒマス

○子爵曾我祐準君 唯今寡作君ヨリ委員ノ修正ニ反対ノ意見が出マシタガ今

政府委員モ辯ジラレマス通是ハ委員會デハ特ニ此條ノ修正ハ酷ウ研究、ドウシテモ此修正ノ通ニナラヌトイケマセヌ、ドウゾ諸君ニハ此修正ニ御贊成アランコトヲ希望致シマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 外ニ御發言モナイヤウデスカラ決ト採リマス、委員會ノ修正ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス 起立者 多數

○議長(公爵近衛篤磨君) 過半數ト認メマス、次ハ二十七條ヨリ五十八條マデ全部問題ニ供シマス

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス)

第二十七條 第二十五條ノ買上價格又ハ前條ノ補償金額ニ付協議整ハサル

トキハ地方森林會ヲシテ評決セシムヘシ若ニニ服セサル者ハ評決ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十八條 保安林ニ編入セラレタル森林ハ地租及公課ヲ免ス

第二十九條 官地私木ノ森林ニシテ保安林ニ編入セラレタルモノハ借地料ヲ免ス

第三十條 従來ノ禁伐林、風致林又ハ伐木停止林ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ保安林トシ其ノ森林ニ對スル從來ノ制限ハ仍其ノ效力ヲ有ス

#### 第四章 森林警察

第三十一條 伐木造材又ハ木材賣買ヲ業トスル者ハ林產物ニ使用スル記號又ハ印章ヲ所轄警察署ニ届置クヘシ

第三十二條 伐木造材ヲ業トスル者ハ手板帳簿器具等ニ對シ森林官吏又ハ警察官吏ノ検査アルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

#### 第三十三條 森林官吏又ハ警察官吏ノ許可ヲ得シテ森林内ニ火入ヲ爲スコトヲ得ス

第三十四條 森林ニ接續スル原野ニ火入ヲ爲ストキハ森林ニ對シテ豫メ防

#### 第三十五條 森林ニ於テ濫リニ焚火ヲ爲シ又ハ炬火ヲ携帶スルコトヲ得ス

第三十六條 森林又ハ其ノ近傍ニ於テ火災又ハ蟲害アルヲ發見シタル者及森林ニ關スル罪ヲ犯シ若ハ犯サムトスル者アルヲ覺知シタル者ハ直ニ森林官吏、警察官吏又ハ郡市町村吏員ニ申告スヘシ

#### 第五章 罰則

第三十七條 森林ニ於テ其ノ主副產物ヲ竊取シタル者ハ森林竊盜トシニ圓以上贓額二倍以下ノ罰金又ハ十一日以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其ノ主副產物ニシテ人工ヲ加ヘタルモノニ係ルトキ亦同シ但シ罰金ハ贓額以下ニ下スコトヲ得ス

第三十八條 森林竊盜ニシテ左ニ記載シタル所爲アルトキハ二圓以上贓額二倍以下ノ罰金及二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス但シ罰金ハ贓額以下ニ下スコトヲ得ス

一 根株ヲ毀壞若ハ隱蔽シテ罪跡ノ湮滅ヲ圖リタルトキ

二 賊物ヲ原料トシテ木炭、樟腦椎茸、松根油其ノ他ノ物品ヲ製シタルトキ

三 賊物ヲ燃料トシテ鑛物ノ採取精製若ハ石灰、煉化石、瓦其ノ他ノ物品ノ製造ニ使用シタルトキ

四 犯罪ヲ容易ナランシムル爲船舶ヲ使用シタルトキ

五 保安林ニ於テ盜伐ヲ爲シタルトキ

六 差押ノ賊物ヲ隠匿若ハ消費シタルトキ

七 契約ニ依リ森林保護ノ義務ヲ有スル者其ノ罪ヲ犯シタルトキ

八 林產物採取ノ權利ヲ行使スルニ際シ其ノ罪ヲ犯シタルトキ

九 三人以上共謀シ又ハ五人以上ヲ雇使シテ其ノ罪ヲ犯シタルトキ

#### 第十章

第三十九條 森林竊盜ノ賊物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若ハ牙保ヲ爲シタル者ハ二圓以上贓額二倍以下ノ罰金及一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス但シ罰金ハ贓額以下ニ下スコトヲ得ス

第四十條 他人ノ所有ニ屬スル森林ノ樹木ヲ傷害シタル者ハ二圓以上五

第四十一条 他人ノ森林ニ放火シタル者ハ輕懲役ニ處シ因テ主產物ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス其ノ自己ノ森林ニ係ルトキハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第四十二条 憲ニ他人ノ森林内ニ於テ牛馬ヲ放牧シタル者ハ二圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三条 森林ノ爲設ケタル標識ヲ移轉シ若ハ毀壞シタル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ經界ヲ表シタル物件ニ係ルトキハ刑法第四百二十條ヲ適用ス

第四十四条 立木、木材又ハ根株ニ附シタル記號印影ヲ變更若ハ消除シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十五条 第六條ノ許可ヲ得シテ森林ヲ開墾シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス保安林又ハ開墾禁止ノ森林ニ係ルトキハ罰金ノ外仍十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

他人ノ森林ヲ開墾シタル者亦同シ

第四十六条 保安林ニ於テ皆伐ヲ爲シ又ハ禁止若ハ制限ノ命令ニ違背シテ伐木ヲ爲シタル者ハ其ノ伐採シタル木材代價相當ノ罰金ニ處ス

第四十七条 第十三條又ハ第二十條ニ違背シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八条 第三十二條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十九條 第二十三條第三十四條又ハ第三十五條ニ違背シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス因テ他人ノ森林ヲ燒燬シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十条 第三十一條ニ違背シタル者ハ五十錢以上ノ科料ニ處ス

第五十一条 此ノ法律ニ規定シタル罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用井ス

## 第六章 雜則

第五十二条 此ノ法律ニ於テ開墾ト稱スルハ燒烟切替烟及地目變換ヲ包含ス

第五十三条 森林竊盜ノ贓物ヲ原料トシテ採取又ハ製造シタル樟腦、樟腦油類其ノ他樹木ノ脂液及木炭ハ贓物ト見做ス

第五十四条 此ノ法律ニ依リ徵收スヘキ費用ハ國稅急納處分法ニ依リ徵收スルコトヲ得

第五十五条 森林ニシテ此ノ法律發布以前ヨリ無立木トナリ又ハ荒廢ニ屬スルモノハ主務大臣ニ於テ期限ヲ定メ造林ヲ命スルコトヲ得其ノ造林ヲ怠ル場合ニ於テハ第五條ノ規程ヲ適用ス

第五十六条 前條ニ依リ造林ヲ命セラレタル森林ハ其ノ造林シタル部分ニ限リ翌年ヨリ二十五箇年以内地租及公課ヲ免スルコトヲ得

原野山岳又ハ荒蕪地ニシテ新ニ造林シタルモノハ前項ノ例ニ依ル

第五十七条 北海道沖繩縣其ノ他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ノ森林ニ就テハ保安林ニ關スル規程ニ限り此ノ法律ヲ適用ス但シ保安林ノ編入解除ニ關スル手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○第五十八條 此ノ法律ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス  
○子爵曾我祐準君 直ニ第三讀會ヲ開カレンコトヲ……  
○議長(公爵近衛篤磨君) 直ニ第三讀會ヲ開クト云フニ御異議ハゴザイマセカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

然ラバ是ハ確定致シマシタ

○子爵谷干城君 此際ニ議事日程ヲ變更サレテ昨日議決シテ今日御報道致

シテアリマスル豫算ノ中ノ一部ヲ議セラレンコトヲ希望致シマスル、其一部ト申シマスルノハ豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲナスヲ要スル件即チ此日本鐵道會社ト政府トノ契約ノ條デアリマスルガ是ハ委員會ニ於テ討議ノ未

衆議院ノ修正ハ甚ダ謂レナシ、政府ノ原案ニ復スルガ宜イト云フ 說ガ出テ居リマスルカラ若シ委員會ノ議ガ成立チマスルト直グニ衆議院ニ回サンナラヌ極必要ナ案デアリマスカラドウカ先キヘ議セラレンコトヲ希望致シマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 唯今ノ谷子爵ノ動議ニ御異議ガナクバ直ニ開キマス(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

然ラバ豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲナスヲ要スルノ件、鐵補、教俸ト云フ……豫算委員長報告

(子爵谷干城君演壇ニ登ル)

○子爵谷干城君 唯今議事日程變更ニナリマシテ議事ニ取掛ラレマシタ日本鐵道會社ニ對スル補助ノ法案デアリマスルガ一應委員ノ決議ヲ御報告ヲ致シマシテ御賛成ヲ得タイト存シマスル、抑、御承知ノ通政府ヨリ出テアリマスル案ニ於キマシテハ此度是マデノ結約ヲ廢シテ更ニ約束ヲスル、其總計ハ百九十万、其百九十万ヲ七箇年ニ割ッテ最初六年間ハ各其年額ヲ二分シテ毎年六月十二月ノ二回ツ、段々遞減シテカラニ渡スト云フスウ云フノ案デアリマスル所ガ衆議院ノ修正ニ於キマシテハドウモソレハ餘リスルイ日本鐵道會社ヘ利益ノヤリヤウガ多イサウヤライデモ宜カラウト云フノ議ト見ヘマシテ百九十万圓ト云フモノヲ減シテ百二十万六千二百五十六圓三十四錢九厘トスウ云フモノニ減シテアリマス、デ是モ果シテ此通行ケレバ宜ウゴザイマスガ元ニ政府ト會社ト約束ヲシテ成立ツタモノデソレヲ今度ハ政府が相談ヲシテカラニ直切ッテ唯今ノ百九十万圓ト云フモノニシテ居ル、ソレデ向フノ相手ガ承諾ヲセヌ以上ハ既ニ約束ノ成立ツテ居ルモノダカラシテ政府が押シテ之ヲ變更スルト云フコトハ出來ナイ、デ政府ノ原案ハ向フト相談ヲシテ負ケサセテサウシテ承諾ノ上ニ出テ居ルノデ若シ之ヲ衆議院ノ案ノ通ニ決シテカラニサ

ウシテ會社へ掛ツタトコロガ會社ハソレハ從來ノ結約ガアリマスルカラドウシテモ承諾ヲスルコトハ出來マセヌドウゾ然ラバ元ノ御約束通ノ金ヲ御拂ヒ下サレトスウ云フコトニナツタナラバ遂ニ今ノ政府案ヨリハ餘計金ヲ拂ハナケレバナラヌヤウナコトニナル、所謂虻取ラズノ結果ニナルト云フモノニナルノデ、マダソレモ宜ウゴザイマスガ兩院ガ既ニ決議シタモノヲ一ノ會社ニソレハイカマセヌト云フテ跳附ケラルト云フノハ誠ニ不面目ノ話デア

ル、ソレデ寧口政府ノ原案ハ相談ガ纏ツテ居ルコトデアルカラシテハ其相談ノ纏ツタ所ヘ引戻シテサウシテ之ヲ協賛シテ居タナラバ誠ニ圓滑ニソレガ運ベルトスウ云フ評議カラ致シテ元ノ通政府案ニ復活シタ譯ニアリマス、ソレデ誠ニ金ノ減ルコトハ喜ブケレドモ若シナラザツタ場合ニハ元ノ儘ニナルカラシテ大變損ニナルノミナラズ兩院デ議シテ議決シタモノガ一ノ會社ノタメニ跳ネラル、ト云フハ誠ニ不面目デアルサウ云フ理由ヲ以テ復活ヲシタ譯ニアリマスカラドウゾ委員ノ復活ノ修正ニ御同意アランコトヲ希望致シマス

○議長(公爵近衛篤脣君) 本案全部ヲ問題ニ供シマス、朗讀ヲ致サセマス  
(山本書記官朗讀)

第一	日本鐵道株式會社ニ對スル從來ノ補助法ヲ廢シ更ニ補助トシテ總計百貳拾萬六千貳百五拾六圓參拾四錢九厘ヲ左ノ十箇年ニ割合最初九箇年ハ各其年額ヲ二分シテ每年六月十二月ノ二回ニ明治三十九年ハ年額ヲ六月一回ニ下付スルノ契約ヲ結フコトヲ得付スルノ契約ヲ結フコトヲ得
明治二十年	同
三十一年	同
三十二年	同
三十三年	同
三十四年	同
三十五年	同
三十六年	同
三十七年	同
三十八年	同
三十九年	同
四十一年	同
四十二年	同
四十三年	同
四十四年	同
四十五年	同
四十六年	同
四十七年	同
四八年	同
四九年	同
五十一年	同
五十二年	同
五十三年	同
五四年	同
五五年	同
五六年	同
五七年	同
五八年	同
五九年	同
六十一年	同
六十二年	同
六十三年	同
六四年	同
六五年	同
六六年	同
六七年	同
六八年	同
六九年	同
七十一年	同
七十二年	同
七三年	同
七四年	同
七五年	同
七六年	同
七七年	同
七八年	同
七九年	同
八十一年	同
八十二年	同
八三年	同
八四年	同
八五年	同
八六年	同
八七年	同
八八年	同
八九年	同
九〇年	同
九一年	同
九二年	同
九三年	同
九四年	同
九五年	同
九六年	同
九七年	同
九八年	同
九九年	同
二十一年	同
二十二年	同
二十三年	同
二十四年	同
二十五年	同
二十六年	同
二七年	同
二八年	同
二九年	同
三十一年	同
三十二年	同
三十三年	同
三四年	同
三五年	同
三六年	同
三七年	同
三八年	同
三九年	同
四十一年	同
四十二年	同
四十三年	同
四四年	同
四五年	同
四六年	同
四七年	同
四八年	同
四九年	同
五十一年	同
五十二年	同
五十三年	同
五四年	同
五五年	同
五六年	同
五七年	同
五八年	同
五九年	同
六十一年	同
六十二年	同
六十三年	同
六四年	同
六五年	同
六六年	同
六七年	同
六八年	同
六九年	同
七十一年	同
七十二年	同
七三年	同
七四年	同
七五年	同
七六年	同
七七年	同
七八年	同
七九年	同
八十一年	同
九〇年	同
九一年	同
九二年	同
九三年	同
九四年	同
九五年	同
九六年	同
九七年	同
九八年	同
九九年	同
二十一年	同
二十二年	同
二十三年	同
二十四年	同
二十五年	同
二六年	同
二七年	同
二八年	同
二九年	同
三十一年	同
三十二年	同
三十三年	同
三四年	同
三五年	同
三六年	同
三七年	同
三八年	同
三九年	同
四十一年	同
四十二年	同
四十三年	同
四四年	同
四五年	同
四六年	同
四七年	同
四八年	同
四九年	同
五十一年	同
五十二年	同
五十三年	同
五四年	同
五五年	同
五六年	同
五七年	同
五八年	同
五九年	同
六十一年	同
六十二年	同
六十三年	同
六四年	同
六五年	同
六六年	同
六七年	同
六八年	同
六九年	同
七十一年	同
七十二年	同
七三年	同
七四年	同
七五年	同
七六年	同
七七年	同
七八年	同
七九年	同
三十一年	同
三十二年	同
三十三年	同
三四年	同
三五年	同
三六年	同
三七年	同
三八年	同
三九年	同
四十一年	同
四十二年	同
四十三年	同
四四年	同
四五年	同
四六年	同
四七年	同
四八年	同
四九年	同
五十一年	同
五十二年	同
五十三年	同
五四年	同
五五年	同
五六年	同
五七年	同
五八年	同
五九年	同
六十一年	同
六十二年	同
六十三年	同
六四年	同
六五年	同
六六年	同
六七年	同
六八年	同
六九年	同
七十一年	同
七十二年	同
七三年	同
七四年	同
七五年	同
七六年	同
七七年	同
七八年	同
七九年	同
三十一年	同
三十二年	同
三十三年	同
三四年	同
三五年	同
三六年	同
三七年	同
三八年	同
三九年	同
四十一年	同
四十二年	同
四十三年	同
四四年	同
四五年	同
四六年	同
四七年	同
四八年	同
四九年	同
五十一年	同
五十二年	同
五十三年	同
五四年	同
五五年	同
五六年	同
五七年	同
五八年	同
五九年	同
六十一年	同
六十二年	同
六十三年	同
六四年	同
六五年	同
六六年	同
六七年	同
六八年	同
六九年	同
七十一年	同
七十二年	同
七三年	同
七四年	同
七五年	同
七六年	同
七七年	同
七八年	同
七九年	同
三十一年	同
三十二年	同
三十三年	同
三四年	同
三五年	同
三六年	同
三七年	同
三八年	同
三九年	同
四十一年	同
四十二年	同
四十三年	同
四四年	同
四五年	同
四六年	同
四七年	同
四八年	同
四九年	同
五十一年	同
五十二年	同
五十三年	同
五四年	同
五五年	同
五六年	同
五七年	同
五八年	同
五九年	同
六十一年	同
六十二年	同
六十三年	同
六四年	同
六五年	同
六六年	同
六七年	同
六八年	同
六九年	同
七十一年	同
七十二年	同
七三年	同
七四年	同
七五年	同
七六年	同
七七年	同
七八年	同
七九年	同
三十一年	同
三十二年	同
三十三年	同
三四年	同
三五年	同
三六年	同
三七年	同
三八年	同
三九年	同
四十一年	同
四十二年	同
四十三年	同
四四年	同
四五年	同
四六年	同
四七年	同
四八年	同
四九年	同
五十一年	同
五十二年	同
五十三年	同
五四年	同
五五年	同
五六年	同
五七年	同
五八年	同
五九年	同
六十一年	同
六十二年	同
六十三年	同
六四年	同
六五年	同
六六年	同
六七年	同
六八年	同
六九年	同
七十一年	同
七十二年	同
七三年	同
七四年	同
七五年	同
七六年	同
七七年	同
七八年	同
七九年	同
三十一年	同
三十二年	同
三十三年	同
三四年	同
三五年	同
三六年	同
三七年	同
三八年	同
三九年	同
四十一年	同
四十二年	同
四十三年	同
四四年	同
四五年	同
四六年	同
四七年	同
四八年	同
四九年	同
五十一年	同
五十二年	同
五十三年	同
五四年	同
五五年	同
五六年	同
五七年	同
五八年	同
五九年	同
六十一年	同
六十二年	同
六十三年	同
六四年	同
六五年	同
六六年	同
六七年	同
六八年	同
六九年	同
七十一年	同
七十二年	同
七三年	同
七四年	同
七五年	同
七六年	同
七七年	同
七八年	同
七九年	同
三十一年	同
三十二年	同
三十三年	同
三四年	同
三五年	同
三六年	同
三七年	同
三八年	同
三九年	同
四十一年	同
四十二年	同
四十三年	同
四四年	同
四五年	同
四六年	同
四七年	同
四八年	同
四九年	同
五十一年	同
五十二年	同
五十三年	同
五四年	同
五五年	同
五六年	同
五七年	同
五八年	同
五九年	同
六十一年	同
六十二年	同
六十三年	同
六四年	同
六五年	同
六六年	同
六七年	同
六八年	同
六九年	同
七十一年	同
七十二年	同
七三年	同
七四年	同
七五年	同
七六年	同
七七年	同
七八年	同
七九年	同
三十一年	同
三十二年	同
三十三年	同
三四年	同
三五年	同
三六年	同
三七年	同
三八年	同
三九年	同
四十一年	同
四十二年	同
四十三年	同
四四年	同
四五年	同
四六年	同
四七年	同
四八年	同
四九年	同
五十一年	同
五十二年	同
五十三年	同
五四年	同
五五年	同
五六年	同
五七年	同
五八年	同
五九年	同
六十一年	同
六十二年	同
六十三年	同
六四年	同
六五年	同
六六年	同
六七年	同
六八年	同
六九年	同
七十一年	同
七十二年	同
七三年	同
七四年	同
七五年	同
七六年	同
七七年	同
七八年	同
七九年	同
三十一年	同
三十二年	同
三十三年	同
三四年	同
三五年	同
三六年	同
三七年	同
三八年	同
三九年	同
四十一年	同
四十二年	同
四十三年	同
四四年	同
四五年	同
四六年	同
四七年	同
四八年	同
四九年	同
五十一年	同
五十二年	同
五十三年	同
五四年	同
五五年	同
五六年	同
五七年	同
五八年	同
五九年	同
六十一年	同
六十二年	同
六十三年	同
六四年	同
六五年	同
六六年	同
六七年	同
六八年	同
六九年	同
七十一年	同
七十二年	同
七三年	同
七四年	同
七五年	同
七六年	同
七七年	同
七八年	同
七九年	同
三十一年	同
三十二年	同
三十三年	同
三四年	同
三五年	同
三六年	同
三七年	同
三八年	同
三九年	同
四十一年	同
四十二年	同
四十三年	同
四四年	同
四五年	同
四六年	同
四七年	同
四八年	同
四九年	同
五十一年	同
五十二年	同
五十三年	同
五四年	同</

シテ第一第三ト云フモノハ曾我君ノ御説ノ通全ク此第一ト關聯シナイモノデ  
アリマスカラ何レ是ハ衆議院ノ方へ交渉ニヤラナケレバナリマセヌガ第一ダ  
ケヲヤッタモノデアリマスカ矢張本案ガ第一第二第三ト云フ一ノ案ニナツテ  
居マスカラ全部ヲヤッタモノデアリマセウカ其邊ノコトヲ確メテ置キタイト  
思ヒマス

○子爵曾我祐準君 勿論交渉ハ第一ダケデ宜カラウト考ヘマス

〔賛成々々ト呼フ者多シ〕

然ラバ第一ダケヲ交渉スルト云フコトニ就イテ御異議ガナクバ……

〔異議ナシト呼フ者多シ〕

然ラバサウ云フコトニ計ライマス、次ニ今朝受取マシタ砂防法案是ハ先刻議  
決シマシタ森林法案ト相殊ツテ必要ナモノト思ヒマスルカラ此際議事日程ヲ  
變更シテ第一讀會ヲ開キ竝ニ委員ノ選舉ヲヤッテハドウデアルカト思ヒマス  
ガ御異議ガナクバサウシマス

然ラバサウ云フコトニ致シマス砂防法案ノ提出文ヲ朗讀致サセマス

〔阪本書記官朗讀〕

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也  
明治三十年三月二十二日

衆議院議長鳩山和夫

貴族院議長公爵近衛篤麿殿

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス〕

砂防法

第一章 総則

第一條 此ノ法律ニ於テ砂防設備ト稱スルハ主務大臣ノ指定シタル土地ニ  
於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノヲ謂ヒ砂防工事ト稱スルハ砂防設備ノ

爲ニ施行スル作業ヲ謂フ

第二條 砂防設備ヲ要スル土地又ハ此ノ法律ニ依リ治水上砂防ノ爲一定ノ  
行爲ヲ禁止若ハ制限スヘキ土地ハ主務大臣之ヲ指定ス

第三條 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ主務大臣ノ指  
定シタル土地ノ範圍外ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノニ準用スルコ  
トヲ得

第二章 土地ノ制限及砂防設備

第四條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テハ地方行政廳ハ治  
水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スルコトヲ得

前項ノ禁止若ハ制限ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルカ又ハ其  
ノ利害關係一府縣ニ止マラサルトキハ主務大臣ハ前項ノ職權ヲ施行スル  
コトヲ得

第五條 地方行政廳ハ其ノ管内ニ於テ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル  
土地ヲ監視シ及其ノ管内ニ於ケル砂防設備ヲ管理シ其ノ工事ヲ施行シ其  
ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス

第六條 砂防設備ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルカ又ハ其ノ利  
害關係一府縣ニ止マラサル場合ニ於テハ主務大臣ハ之ヲ管理シ又ハ其ノ  
工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナスコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ其ノ砂防設備ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公  
共團體ノ行政廳ニ命シテ其ノ工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシム  
ルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リ地方行政廳ノ有スル職權  
ヲ直接施行スルコトヲ得

第七條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級行政廳ヲシテ砂防工事ヲ施行セシメ  
又ハ砂防設備ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第八條 他ノ工事、作業其ノ他ノ行爲ニ因リ砂防工事ヲ施行スルノ必要ヲ  
生スルトキハ地方行政廳ハ其ノ行爲ヲナシタル者ヲシテ其ノ工事ヲ施行  
シ又ハ其ノ砂防設備ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第九條 行政廳ハ砂防工事ノ請負ヲナスコトヲ得ス

第十條 砂防工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ對シテハ勅令ノ定ム  
ル所ニ從ヒ地租其ノ他ノ公課ヲ減免スルコトヲ得

第十三條 砂防ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並收入等  
トヲ得

第十二條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ監視及砂防設備ノ管  
理、維持竝砂防工事ニ要スル費用ハ府縣ノ負擔トス

第十四條 砂防工事ニ要スル費用ハ其ノ一部ヲ國庫ヨリ府縣ニ補助スルコ  
トヲ得

前項國庫ノ補助額ハ工費豫算ノ三分ノ二ヲ超過スルコトヲ得ス

本條ノ補助金ハ精算ノ上其ノ費用ノ三分ノ二ヲ超過スルコトアルモ其  
超過額ヲ還付セシメサルコトヲ得

災害ニ因リ必要ヲ生シタル砂防工事ニ要スル費用ハ本條ニ依ルノ限ニ在  
ラス

第十五條 第六條ニ依リ主務大臣ニ於テ砂防設備ノ管理及維持ヲナシ又ハ  
砂防工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ費用ハ國庫ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ府縣ヲシテ前項費用ノ三分ノ一以内ヲ負  
擔セシムルコトヲ得

前項ニ依リ府縣ノ負擔スヘキ金額竝其ノ年度割及納付期限等ハ主務大臣  
之ヲ定ム

第十六條 砂防工事ニシテ他ノ工事、作業其ノ他ノ行爲ニ因リ必要ヲ生ス  
ルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生スル程度ニ於テ其ノ原因タ  
ル工事、作業其ノ他ノ行爲ニ關シ費用ヲ負擔スル者ヲシテ之ヲ負擔セシ  
ムルコトヲ得但シ河川法第三十二條第二項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 砂防工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體ニ於テ著シ  
利益ヲ受グルモノナルトキハ其ノ府縣若ハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ  
其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十八條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除ク

ノ外其ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔トス  
主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ義務者ノ履行スヘキ義務ヲ自ラ執行シ又ハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徵スルコトヲ得

第十九條 公共團體ハ砂防工事若ハ砂防ニ關スル費用ノ爲寄付ヲナスコトヲ得

第二十條 公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付キ私人若ハ其ノ區域内ノ下級公共團體ニ補助ヲナスコトヲ得

第二十一條 公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ區域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第二十二條 砂防工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲナサシムルコトヲ得

第二十三條 砂防ノ爲必要ナルトキハ行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ隣接スル土地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル障害物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル者ハ使用若ハ除却ノ後三箇月以内ニ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ所有者若ハ關係人ハ行政廳若ハ其ノ命ヲ受ケタル私人ニ於テ其ノ土地ニ砂防工事ヲ施行シ又ハ砂防設備ノ維持ヲナスコトヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條 法律、命令若ハ許可可ノ條件ニ違背シタル工事、設備若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第二十六條 此ノ法律ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ補償金若ハ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

第二十七條 砂防設備ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス但シ地方行政廳ハ其ノ収入ヲ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地若ハ其ノ土地ニ在ル森林ノ所有者又ハ其ノ砂防設備ノ施設者ニ下付スルコトヲ得

第二十八條 砂防設備ニシテ其ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳ハ之ヲ其ノ砂防設備ノ現在スル土地若ハ森林ノ所有者ニ下付スルコトヲ得

第四章 警察、監督及強制手續  
第二十九條 第四條ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ一定ノ事項ニ對シ許可ヲ受ケシメタル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ其ノ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ設備ノ變更若ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リ之スル害ヲ豫防スルコトヲ得

第三十條 法律、命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生スル事實ヲ更正シ且其ノ違背ニ因リテ生スヘキ損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第三十一條 地方行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地監視ノ爲並砂防設備管理ノ爲吏員ヲ置クヘシ其ノ定員、給料、手當、職務權限並其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 主務大臣ハ砂防ニ關スル行政ヲ監督ス  
地方政府廳ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方行政廳ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條及第二十條ニ規定シタル事項並此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第三十三條 他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ砂防工事ヲ施行セシメ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第三十五條 義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ履行セス若ハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜ヲ得サルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第三十六條 私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ一定ノ期限ヲ示シ若シ期限内ニ履行セサルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ五百圓以内ニ關シ保證金ヲ納付セシメタル場合ニ於テハ行政廳ニ於テ直ニ之ヲ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得

前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押フルコトヲ得ス  
第三十八條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方行政廳ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲシテ其ノ豫算表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有スルモノトス  
此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方行政廳ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲシテ其ノ豫算表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

第三十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得

**第四十條** 行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ準用ス  
此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項  
ニ同ノトキ、少防観察、或務ノ有無ノ旨道ノノミ申付ニシテ、行を終、審

察官ノ職務ハ全部若ヘ一部又執行モミシムニリ未得  
第四十一條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百  
圓以内ノ罰金若ヘ一年以下ノ禁錮ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

## 第五章 訴願及訴訟

第五章 訴願及訴訟

第四十一条此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ヘ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方行政廳ニ訴願シ地方行政廳ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコト

得此ノ法律ニ依リ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願

スルコトヲ得ス  
第四十三條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項

ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ権利ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

**第四十四條** 第二十九條三依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日より三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律 命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ争アルトキハ前數條ノ手續又ハ監督官廳ノ決定ニ依リ其ノ違背シタリトノ事實確定シ

タル後ニアラサレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

**第四十五條** 第二十二條若ハ第二十三條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ

民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第二十三條ノ場合ニ於テ補償金請求ノ後六箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ナキトキハ其ノ期限經過後六箇月以内ニ

民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得  
第四十六條、此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項

二 評議ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第六章  
附則  
第四十七條　此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
第四十八條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ在ル從來ノ砂防ニ

〔政府委員吉田八郎、成吉寅蔵ニ及シテ〕  
關シテハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設タル場合ヲ除クノ外此ノ法律ノ規程ニ依ル

貴族院議事速記錄第一十五號

明治三十年三月二十三日

砂防法案 第一讀會

10

○政府委員(古市公威君)　茲ニ提出相ナリマシタル砂防法案ノ理由ハ極テ  
簡單ナモノデゴザイマシテ詰リ今日各地ニ水害ガ大變多クナリマシタ其原因  
ノ一トシテ認メラレマスノハ山林ノ荒廢山地ノ荒廢ト云フコトヲ疑ハシメル  
ヤウナ次第デアリマスカラシテ一方デハ森林法ガ制定ニナリマシテ此林ト  
云フ形ヲ成シテ居ルモノ、取締ハ其方デ付ケル一方デハ所謂禿山森林ヲ成シ  
テ居ラヌ土地ニ或ル布設ヲ爲シマシテサウシテ其土砂ノ流出ヲ防禦スルト云  
フコトヲ致シマス、此造林ト砂防トノ二ツガ相俟ッテ水源ノ涵養竝ニ洪水ノ  
防禦豫防ト云フ目的ヲ達スルニ至ルデアラウト云フ考カラ之ヲ提出致シマシ  
タノデゴザイマス、而シテ茲ニ規定シテアリマスルコトハ一方ニ於テハ又此  
河川法ト相俟ッテ居リマス、此規定ハ大抵昨年兩院ノ協賛ヲ得マシテ制定相  
成リマシタ彼ノ河川法ニ依リマシタ簡條モ概シテ比々對照シテ見マスルト同  
ジ簡條ガ多イノデ唯本法ニ於キマシテハ或ル土地ヲ主務大臣ガ指定シテサウ  
シテ其土地ニアル一定ノ作業ヲ禁止スルトカ若クハ一定ノ施設  
ヲ爲サシメルトカ云フヤウナコトヲ此法律ニ依ッテ致サセマス主意デゴザイ  
マス、右ノ通此一方ニ於テハ森林法一方ニ於テハ河川法ト此法案トガ相俟チ  
マシテ治水ノ目的ヲ達シマスル考デアリマスルカラドウカ本案ノ通御協賛ア  
ランコトヲ希望致シマス

○子爵曾我祐準君　今政府委員ノ御説明デ此砂防法案ハ甚ダ理由ハ簡單ナモ  
ノト仰ツシヤルガ理由ハ簡單デモ隨分條數ガ多イ四十八條モアル、四十八條  
モアルモノヲ斯ノ如キ必要ナルモノヲソレヲ今日ニナシテ當院ニ回ルヤウナ  
御取扱ト云フモノハ當局者ハ必要ダト仰ツシヤルケレドモ眼中必要トハ見ラ  
レヌカト疑ハザルヲ得ヌノデアル、一日半位ノ所ヘ五十條近イモノヲ持ツテ  
來テ議セト云フノハ是ハ御無理ト思ヒマス、出來得ルダケハ議員ノ職掌トシ  
テヤリマセウガドウモ以後チト御注意下サラヌト甚ダ困リマセウト思ヒマ  
ス、ドウカ大臣ニサウ御仰シヤツタラ宜カラウト思ヒマス

○政府委員(古市公威君)　曾我子爵ノ御注意ノ段ハ謹デ復命致スデアリマ  
セウガ此所ニ一言申上ゲテ置キタイコトガアル、斯ノ如キ法案ハ土木會ニ掛  
ケマシテ土木會ハ大抵議會ノ開會前ニナシテ居リマス、ソレカラ土木會ヲ經  
マシテ内閣ニ送リマス、内閣ニ於テハ段々法案ガ澤山アツタメニ後レマシ  
タノデ甚ダ本員ニ於テハ遺憾ニ考ヘマスガ會期切迫ノコトデ御多忙ハ恐察致  
シマスガドウゾ精々至急御取調ニナルコトヲ希望致シマス

○村田保君　本員モ少シ伺ツテ置キタイ何デスカ此砂防工事ノタメニハ費用  
ガ凡ソドノ位掛リマスルカ、ソレカラ一體ノ施行ト云フモノハ四月一日カラ  
ト云フト誠ニ僅カ十日ダモ餘サヌヤウナコトデゴザイマスガ、ソレカラ施行  
ニナルデスカ

○政府委員(古市公威君)　第一ノ御尋ノ費用ノコトデアリマスガ二十七年二  
十八年兩年度ニ於キマシテ各府縣デ施設致シマシタ砂防費ト云フモノハ二十  
七年度ニハ於テ四万餘圓二十八年度ニ於テハ五万八千餘圓凡ソ六万圓位ノモ  
ノデゴザイマス、現在ノ所ガニ其他ニ直轄河川ニ於テ砂防工事ヲシテ居ル  
ノガアリマス、ソレガ濱川流域デ二十七年ニハ木曾川ト濱川ト兩流域ニ於テ  
二万七千圓バカリ二十八年度ハ濱川流域ニ於テ二万圓バカリ、費用トシテハ  
此位ナモノデアリマスルガ、併ナガラ此法案ガ實施セラレマスルト隨分マダ

レドモ、此費用ト云フモノハ澤山掛ケルコトノ出來惡イモノデアリマス、案外金ガ少ナクテサウシテ其時日ヲ要スルモノデアリマスカラ一時ニ澤山ナ金ヲ掛けテ工事ヲスルト云フコトハ餘程ムヅカシイコトデゴザイマスカラ、良シ手ヲ著ケ又所ガ、廣ガッテモサウ澤山ナ金ハ使ヒ切ルマイト認メテ居ルノデ、ソレカラ之ヲ三十年ノ四月一日カラ施行スルコトニナツテ大變時日ガ切迫シテ居ルガト云フ御疑ハ至極御尤デアリマスガ、或ル一定ノ行爲ヲ制限スルトカ砂防施設ヲ爲ストカ云フコトハ是ハ主務大臣ニ於テ土地ヲ指定シテ其處へ施行スル次第アリマスルカラシテ、ソレデ調査ガ出來マスルニ從ツテ土地ヲ指定シテサウシテ此法ヲ適用スルコトニナル順序ヲ取シテ參リマスレバ出來マスルト考ヘマス

○村田保君 本年度ニ於テハドノ位費用ヲ御見積ニナツテ居リマスカ、凡ソ御目的ガアリマセウカラソレヲ伺ヒタイ

○政府委員(古市公威君) 本年度ニ於テハ何モ見積ヲテハゴザイマセヌ、ソレデ砂防施設ハ來年度カラデナケレバ出來マセヌ、ケレドモ或ル行爲ヲ制限スルヤウナコトハ今年度カラ出來ルト思ヒマス

キ特別委員ノ選舉ニ移リマス

○村田保君 ソレデハ金ハ今年ハゴザイマセヌカ

○政府委員(古市公威君) ゴザイマセヌ

○議長(公爵近衛篤磨君) 御質問ガナクバ次ノ日程右議案ノ審査ヲ付託スヘ

○伯爵西五辻文仲君 此選舉ハ議長ニ御委託致シマス

○子爵曾我祐準君 賛成

(「賛成」ト呼フ者多シ)

○議長(公爵近衛篤磨君) 議長委託ノ動議ニ御異議ガナクバ其通ニ致シマス(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛篤磨君) 次ハ國稅徵收法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、特別委員長報告

○伯爵上杉茂憲君(演壇ニ登ル)  
(「伯爵上杉茂憲君演壇ニ登ル」)

○伯爵上杉茂憲君 委員會ノ結果ヲ御報道致シマス、此法案ハ新ニ制定イタサレタノデアリマセヌ、即チ理由書ニモ明記シテアリマスル通現行法ノ國稅徵收法竝ニ國稅滯納處分法此二法案ヲ合シマシテ、煩雜ナル所ハ省キ又文字上ノ所ハ少シ改正…修正相成リマシタ位ナ所ヲ以チマシテ取モ直サズ現行法ノアレヲ以テ制定致サレタモノデアリマス、就キマシテハ聊カ不都合ナ所モ認メマセヌ、委員會ニ於キマシテハ可決致シテ然ルベキモノト審査ヲ遂ゲマシク、此所ニ念ノタメニ申述ベ置キマスルガ、第四條ニ於テ衆議院ニ於テ第一項ニ但書ヲ加ヘテ「但納稅人タル會社カ解散ヲ爲シタルトキ又同シ」ト申ス所ヲ加ヘマシテゴザイマス、是ハ本政府案ノ足リナイ所ヲ補ヒマシタノデ、何分此朱書ノ所バカリデアラテ見マスルト云フト總テ營業稅等ヲ納メマスル會社ニ於テノ處分ノコトハチト抜ケテ居リマスノデアリマス、全ク此修正ハ政府案ノ足ラザル所ヲ補ヒマシタノデ尤致シタル修正ト認メマス、尙

○政府委員ニモ意見ヲ尋ネマシタ所ニ政府委員ニ於テモモウ賛成ヲ致スト申スコトヲ申述ベラレテ居ルノデゴザイマス、右ノ次第デアルニ依クテ此法案ハ何卒諸君御賛成アツテ速ニ可決アランコトヲ希望致シマス

○男爵小松行正君 本案ハ條數ハゴザリマスルガ、修正ノ所モ御發議ノ御方モゴザイマセヌデスガ、讀會ヲ省略シタ方ガ宜カラウト思ヒマスカラ讀會省略ヲ希望致シマス

○久保田譲君 賛成

○伯爵上杉茂憲君 賛成

○子爵小笠原壽長君 賛成

○岡内重俊君 賛成

○澤簡徳君 賛成

○渡邊甚吉君 賛成

○伯爵大原重朝君 賛成

○調所廣丈君 賛成

○山田莊左衛門君 賛成

○子爵堤功長君 賛成

○伯爵萬里小路通房君 賛成

○水之江浩君 政府委員ニ少シ質問致シタウゴザイマス、現行法案ニハ此市町村ガ納稅人ニ對シマシテ其期限ヲ明示ヲシテ其期限後三日以内ニ國庫ニ送付スルト云フコトニナツテ居ルヤウニ覺エテ居リマスガ、此法案ニハ其點ガゴザイマセヌガ市町村ガ復收致シマシテカラ、其送付ハドウ云フ風ニナリマスモノデゴザイマセウカ、チヨクト何デスカ……

(政府委員目賀田種太郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(目賀田種太郎君) 水之江君ニ御答致シマスルガソレ等ハ將來ニ於キマシテ適當ナ所ヲ計リマシテ勅令ヲ以テ定メルト云フコトニナツテ居リマス

○男爵西五辻文仲君 讀會省略ニ賛成

○子爵平松時厚君 賛成

○議長(公爵近衛篤曆君) 讀會省略ノ動議ニ賛成ガアリマス、御異議ガナクバ原案ニ決シマス

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛篤曆君) 然ラバ決定致シマス、次ハ震災地方租稅特別處分法案、政府提出衆議院送付、第一讀會ノ續、特別委員長報告

(男爵千家尊福君演壇ニ登ル)

○男爵千家尊福君 震災地方租稅特別處分法案ノ委員會ノ經過ノ摸様ヲ御報告致シマス、本案ニ附キマシテハ昨日委員會ヲ開キマシテ審議ヲ遂ゲマシタル所本案ハ愛岐震災ノ時ニ發セラレタル特別處分法ト同ジ法デアリマシテ僅ニ異ツテ居ル所ハ第四條ニ市街地ト云フノガアリマスノヲソレヲ此度ノ法案ニハ除イテナイ、是ハ市街地ト稱スペキモノハ秋田、巖手ノ震災地方ニハ震災ニ罹ツタモノハナイ故ニ



○議長(公爵近衛篤麿君) 少數デアリマス、然ラバ鐵道敷設法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會、提出文ヲ朗讀致シマス

(阪本書記官朗讀)

右本院提出案及送付候也  
明治三十年三月十九日

衆議院議長鳩山和夫

貴族院議長公爵近衛篤麿殿

明治二十三年法律第五十號民事訴訟法施行條例第十二條ハ明治三十年三月三十日限リ廢止ス  
○議長(公爵近衛篤麿君) 是レ亦御發議ガナクバ次ノ日程ニ移リマス右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

○伯爵大原重朝君 此特別委員モ議長ノ指名ヲ願ヒマス

(「贊成」ト呼フ者多シ)

○議長(公爵近衛篤麿君) 是レ亦御異議ガナクバ其通致シマス、次ハ私設鐵道條例中改正法律案、衆議院提出、第一讀會ノ續、特別委員長報告

(子爵曾我祐準君演壇ニ登ル)

○子爵曾我祐準君 本案ノ報告ヲ致シマス本案ハ私設鐵道條例中ノ第六條同ジク第三十七條ニ僅ナ修正ヲ加ヘルト云フ案デアリマス、衆議院提出ノ案デアリマス、是ハ二條長ミト茲ニ掲ゲテアリマスケレドモ事實ニ於テハ第六條ト第三十七條モ六箇月ト直スダケデ三箇月トアツタノヲ六箇月トスルダケデアリマスソレハ素トハドウ云フ文デアルカト云フト「免許狀下附ノ日ヨリ三箇月以内」トスウナカテ居ルノデアリマス「免許狀下附ノ日ヨリ三箇月以内」ト云フノヲ「免許狀下附ノ日ヨリ」ト云フノヲ改メテ「其登記ノ日ヨリ六箇月以内」斯ウ改メタイト云フ案デアリマス、ソレデ是ハ事實ハ三ノ字ヲ六ノ字ニ改メルト云フダケデアリマス、文字ノ上デハ左様デアリマスガ實際如何ト當局者ニモ聽イテ見マシタガドウモ三箇月デハ餘リ短カ過ギテ鐵道敷設工事ニ著手ガ出來能ハヌ場合ガアルソレ故ニ六箇月ニナルノハ決シテ不當ト見ナイ、寧ロ其方が至當ト見ルトスウ云フ當局者ノ論デアリマス、ソレ故ニ委員ニ於キマシテハ全ク原案ヲ贊成致シマシタ、ドウゾ諸君御贊成アランコトヲ希望シマス併テ讀會省略ヲ請求致シマス

○議長(公爵近衛篤麿君) 御異議ガナクバ次ノ日程ニ移リマス、右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

○子爵小笠原壽長君 此委員ノ選舉ハ議長ニ御委託致シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○伯爵大原重朝君 贊成

○議長(公爵近衛篤麿君) 議長委託ト云フコトニ御異議ガナクバ其通致シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛篤麿君) 次ハ明治二十三年法律第五十號民事訴訟法施行條例中削除法律案、衆議院提出、第一讀會、是モ通牒文ヲ朗讀致シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛篤麿君) 贊成

○議長(公爵近衛篤麿君) 贊成

○議長(公爵近衛篤麿君) 贊成

○議長(公爵近衛篤麿君) 贊成

○議長(公爵近衛篤麿君) 贊成

明治二十三年法律第五十號民事訴訟法施行條例中削除法律案

(阪本書記官朗讀)

右本院提出案及送付候也  
明治三十年三月十九日

衆議院議長鳩山和夫

貴族院議長公爵近衛篤麿殿

鐵道敷設法中改正法律案

(阪本書記官朗讀)

貴族院提出案及送付候也

明治三十年三月十九日

貴族院議長公爵近衛篤麿

少數デアリマス、然ラバ鐵道敷設法中改正法律案

衆議院提出、第一讀會、提出文ヲ朗讀致シマス

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ参照ノタメ茲ニ載錄ス)

明治二十五年法律第四號鐵道敷設法中左ノ通改正追加ス

第一章第二條四國線中第一項第二項ヲ左ノ如ク改ム

一 德島縣下德島ヨリ高知縣下高知愛媛縣下松山ヲ經テ八幡濱ニ至ル鐵道及本線ヨリ分岐シテ高知縣下須崎ニ至ル鐵道

一 香川縣下高松ヨリ前項ノ線路ニ接續スル鐵道

第二章第七條第十一項ノ次ニ左ノ六項ヲ加フ

一 四國豫定線ノ内德島縣下德島ヨリ高知縣下高知愛媛縣下松山ヲ經テ八幡濱ニ至ル鐵道及本線ヨリ分岐シテ高知縣下須崎ニ至ル鐵道

一 九州豫定線ノ内宮崎縣下網島ヨリ宮崎ヲ經テ鹿兒島縣下鹿兒島ニ至ル鐵道

一 山陰豫定線ノ内京都府下舞鶴ヨリ兵庫縣下豐岡ヲ經テ鳥取縣下鳥取ニ至ル鐵道及鳥取縣下米子ヨリ島根縣下松江ニ至ル鐵道

一 北陸北越聯絡豫定線ノ内富山縣下富山ヨリ新潟縣下直江津ニ至ル鐵道

一 羽越豫定線ノ内新潟縣下新發田ヨリ秋田縣下横手ニ至ル鐵道

一 奥羽豫定線ノ内巿手縣下黒澤尻若ハ花卷ヨリ秋田縣下横手ニ至ル鐵道

一 羽越豫定線ノ内新潟縣下黑澤尻若ハ花卷ヨリ秋田縣下横手ニ至ル鐵道

一 羽越豫定線ノ内新潟縣下新發田ヨリ秋田縣下横手ニ至ル鐵道

一 奥羽豫定線ノ内巿手縣下黒澤尻若ハ花卷ヨリ秋田縣下横手ニ至ル鐵道

一 奥羽豫定線ノ内新潟縣下新發田ヨリ秋田縣下横手ニ至ル鐵道

一 奥羽豫定線ノ内巿手縣下黒澤尻若ハ花卷ヨリ秋田縣下横手ニ至ル鐵道

一 奥羽豫定線ノ内新潟縣下新發田ヨリ秋田縣下横手ニ至ル鐵道

一 奥羽豫定線ノ内巿手縣下黒澤尻若ハ花卷ヨリ秋田縣下横手ニ至ル鐵道

一 奥羽豫定線ノ内新潟縣下新發田ヨリ秋田縣下横手ニ至ル鐵道

一 奥羽豫定線ノ内巿手縣下黒澤尻若ハ花卷ヨリ秋田縣下横手ニ至ル鐵道

○子爵日野西光善君 贊成

○男爵小澤武雄君 贊成

○根岸武香君 贊成

○南鄉茂光君 贊成

○澤簡徳君 贊成

○角田林兵衛君 贊成

○佐藤清右衛門君 贊成

○男爵中川興長君 贊成

○子爵小笠原壽長君 贊成

○伯爵大原重朝君 贊成

○子爵曾我祐準君 贊成

○男爵小笠原壽長君 贊成

○柴原和君 贊成

○子爵曾我祐準君 贊成

○子爵曾我祐準君 贊成

明治二十三年法律第五十號民事訴訟法施行條例中削除法律案

(異議ナシ)ト呼フ者多シ

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス)

明治二十年勅令第十二號私設鐵道條例中左ノ通改正ス

第六條 會社ハ其登記ノ日ヨリ六箇月以内ニ鐵道布設工事ニ著手シ免許狀ニ記載シタル豫定期限内ニ竣功スヘシ若シ其期限内ニ竣功シ難キ事由アルトキハ少クトモ二箇月以前本社所在ノ地方廳ヲ經由シテ政府ニ具申シ

延期ヲ請フヘシ但其延期ハ豫定期限ノ半ヲ超ユルコトヲ得セシムルコトアルヘシ

○議長(公爵近衛篤齊君) 本案ニ御異議ガナクバ確定ト認メマス

(異議ナシ)ト呼フ者多シ

○議長(公爵近衛篤齊君) 次ハ明治二十八年法律第四號中改正法律案、衆議院提出、第一讀會ノ續、特別委員長報告

(子爵曾我祐準君演壇ニ登ル)

○子爵曾我祐準君 本案ハ先刻申シマシタニ文字ト云フノハ是ナンデアリマス、即チ明治二十八年法律第四號私設鐵道株式會社ニ關スル法律ト云フ恐ロシイ、長イモノデアルデス、併ナガラ事實ハ是ハ私設鐵道條例ノ分家見タヤウナモノデ途方モナイ長イ今ノヤウナ私設鐵道株式會社ニ關スル法律ト云フ

モノデアシテ三箇條デ出來テ居リマス、其第二箇條ヲ削除スルト云フノガ此案デス……原案ナンデス、ソレハドンナコトカト云フニ是ハ諸君御記憶ノ御方モアリマセウ二十八年ノコトデゴザイマシタカラ……此議場ニ出テ多少ノ議論モアリマシタ案デアリマス、其第一條ニ私設鐵道株式會社ニ附イテハ十分ノ以上ノ拂込ヲ爲シタルトキハ其登記ヲ受クルコトヲ得……詰リ商法ノ取除デ商法ニハ四分ノ一ト規定シテアルニモ拘ラズ鐵道株式會社ニ於テハ十分ノ一ヲ拂込メバ登記スルコトヲ得ルト云フノガ第一箇條デアル其二箇條ハ「前條ニ依リ登記ヲ受ケタル後ト雖モ四分ノ一拂込前ノ株式ノ讓渡シハ無效ナリ」ト云フ條ナンデス、第二條ヲ以テ讓渡シハ出來ナイ、四分ノ一拂込マヌ以上ハ出來ナイト、斯ウ云フ風ニ二條デ束縛ラシテ居ルガ一條デ大イナル取除ケヲ拂へ、二條ヲ以テソレヲ檢束シテアルノデゴザイマス然ルニ今衆議院ハ其一條ヲ取除ケタイ、斯ウ云フ案ヲ提出シテ可決シテ回ツテ來タノデアリマス、デ言ハバ是ハ其何シデス、既ニ隠ヲ得テ居ル、サウシテ今蜀ヲ望ミツ、アルノデアル、二十八條デ隠ヲ得テ即チ十分ノ一ノ拂込ヲシテ登記ヲシテ立派ニ隠ヲ得タノデ、今度又蜀ヲ望マンシテ居ル、ソレデ委員ニ於テハ此蜀ヲ望ムコトヲ許サレヌト云フコトデ否決致シマシタ、即チ削除ニ賛成シナイ、存シテ置クト云フコトニ廢案ヲ致シタノデアル、廢案スレバ即チ元トノ第二條ハ活キル、削除ヲ廢案スルノデアリマスカラ……サリナガラ實際ニ於テハ理窟モアルノデアリマス、鐵道會社ガ株式ヲ募シテサウシテ未ダ成立シナイ内ニ其拂込ノ一部ヲシテ居ル内ニドウカスルト賣拂ハナケレバナラスト云フコトガ出來ルサウデス、今ノ此拂込ヲ怠ツタ、サウ云フトキハ公賣

ハ出來ナイ、其讓渡ヲ得ズ、讓渡ハ無効ナリトアリマスカラ出來ヌサウデアリマス、ソレデサウ云フ所ハ多少ノ不都合ガアル、ソレガ即チ此削除案ノ出

タ所以デアリマセウ、委員會ニモ其所ハ幾ラカ斟酌シテ是ニ何ントカ削除ヲシナイデ今附加ヘテドウカ之ヲ其公賣ナドノ便利ヲ與ヘルヤウニシタラ如何

ト云フ議論モ出マシタケレドモガソレハ不幸ニシテ委員會デハ成立チマセヌデゴザイマシタ、委員會ノ否決シマシタ大趣意ト申マスモノハ折角商法ト云フ結構ナモノガ出テ居ルノニソレニモ拘ラズ斯クノ如ク取除ケ取除ケト云フ

テ特別法ヲ作ツタ日ニハ殆ド法典ノ效力ト云フモノハ薄ロイテシマウ、是等ハ實ニ備フ作ルト云フモノデアル、鐵道ハ鐵道ノ事情アリトシテ特別ノコトヲ申立テル、又他ノ會社ナリ何ナリカラ特別ノ事情ヲ以テ申立テルカラ特別特別ト云フテ取除ケヲシテ行キ居ツタ日ニハ段々商法ト云フモノハ其威力ヲ失

フテ來ル、ソレデ成ルタケ商法ニ規定シタモノハ傳染サセヌガ宣イ、成ルタケ防ギ止メルガ宣イトスウ云フ多數ノ意見デアリマシテ即チ削除説ニ決シマシタ、ソレデ多少此削除ガ成立テバ多少ノ利益ハアラウケレドモ到底損害ハシタバカリ助ケル方ハ其利ガ少ナイ、害ノ多キニ堪ヘヌト云フ理窟デ否決致シマシタデ是ハ短イニ文字デアリマスケレドモ委員會トシテハ隨分動議ガ出タリ何ソダリシテ近來ノ委員會トシテハ可ナリ賑カデ、割ニ賑カナ方デアリマシタ、ドウゾ諸君モ委員多數ノ意見ヲ御容レニナツテ御賛成アランコトヲ希望致シマス

(箕作勝祥君「讀會省略ハドウデス」ト述フ)

ドウゾ宜シク……

○議長(公爵近衛篤齊君) 是ハ讀會省略ハ出來マセヌ、否決スルト云フ報告ノ案デゴザイマスカラ……

○子爵曾我祐準君 チヨツト一言申シマス、ドウゾ委員ノ報告ハ否決デゴザイマス、ドウゾ否決ノ方ニ御賛成ヲ願ウト申シマシタノデゴザイマスカラドウゾ……

(「分シテ居マス」ト述フル者アリ)

○議長(公爵近衛篤齊君) 本案ノ第二讀會ヲ開クベキヤ否ヤノ決ヲ採リマス、本案第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者ナシ

○議長(公爵近衛篤齊君) 起立者ハアリマセヌ、即チ本案ハ否決ニナリマシタ、次ニ私設鐵道條例中改正法律案、衆議院提出、第一讀會ノ續、特別委員長報告

(子爵曾我祐準君演壇ニ登ル)

○子爵曾我祐準君 本案ハ矢張リ衆議院ノ提出ニ係リマシテサウシテ前案ト同ジク私設鐵道條例中ノ改正案デアリマス、デ此改正ハ二十九條デス、第二十九條ヲ改正シタトイト云フノデアリスガ、二十九條トハ如何ナル條カト云

フト此賃錢ノコトヲ規定シタ條ナンデアリマス、ソレハ一項デ元ト成立シテ居ルノヲバ二項三項ヲ附加ヘテ其缺ケヲ償フ、缺ケタル所ヲ償フト云フコトニ認メラレルノデアリマス、デソレ故ニ元ノ二十九條、今デハ即チ二十九條第一項ハソククリ其儘ナシデスニ一項ニ「旅客運賃額ヲ撰定スルニ方リ

人ニ對スル最低額ヲ金三錢マテ定ムルコトヲ得「斯ウ云ノガ第一項デス、一項ハ一里ニ附イテ人ナラバ金一錢五厘ノ割合ヲ超ユルコトハナラナイト云フノガ元ノ規定アル、デ詰リ此案ト云フモノハ鐵道運賃ノ最下額ヲ極メルノデス、最低額ヲ極メル、此近イすてによんガ段々出來テ來ルト、言ハヤ飯田町牛込トカナントカ云フヤウナ一哩一錢五厘ノ割合デ往クト五厘トカ何トカ云フノガ出來ルサウデス、ソレデサウ云フコトガアルト、マア一錢以下ノモノト云フモノハ車ナンゾニ乗ルトドウシテモ一錢ドコロデハナイ、人力車杯ニ乗ツテモ三錢五錢ハ取ラレル、如何ニ短所デモ取ラレルノニ、鐵道デハ五厘トカ七厘トカ云フヤウナ割合ニナツテ來テ甚ダ困ル、札ヲ切ツテ役人ガ居ツテサウシテ其手數ヲ掛ケテサウシテ一人ニ附イテ五厘トカ三厘トカ云フヤウナ割ニナツテハドウモ工合ガ惡ルイ、ソレモ二十里三十里モ參ツテ十錢トカ二十錢トカ取ルナラバ宜シイガ其割合デハチット手間損ニナル氣味合デス、ソレ故第二項ニ於テ今申ス通「一人ニ對スル最低額ヲ金二錢マテニ定ムルコトヲ得」ト云フ條ヲ一項設ケタイトスウ云フノデアリマス……

〔村田保君〕三錢デハアリマセヌカ「ト述フ」

三錢、「最低額ヲ三錢ニ定ムルコトヲ得」ワレカラ二項ハ割引ノ者ニ對シテ、軍人トカ巡査トカ云フヤウナモノ、即チ割引ニ對シテツノ規定シタト云フノデアリマス、ソレハ「本條例ニ據リ運賃ヲ半減スルトキ及哩數ニ對シテ運賃額ヲ定ムルトキハ三厘位以下端數ヲ生スルトキハ之ヲ錢位ニ切上タルコトヲ得」斯ウ云フ條ニアリマス、是ハ軍人ト云フモノハ半額トナツテ居ル、サウスルト七錢ノ所ハ半價ノ三錢五厘拂フト云フコトガ出テ來マス、ソレヲ其厘位以下ノ端數ヲ切上ゲテ四捨五入ト云フヤウニシテ價ヲ極メルコトヲ得ルト云フコトニシタイト云フノデゴザイマス、諸君御承知ノ通子供ヲ載セマスノハ半額デアルガアレハ法律デ極メテ居ラヌカラ錢以下ヲ切上ゲテ所謂四捨五入ニシテ官線デモ遣ツテ居ルサウデアリマス、是ハ法律デナイカラドウデモ出來ル、併シ軍人ノ半價ト云フ法律ガ出テカツキリニ割ツテ五厘ト云フ金ヲ拂ハナケレバナラヌト云フ様ナコトハ甚ダ不都合アル、デ此案ハ全ク政府ニ於テモ贊成サレテ容レラレタノデアリマス、追々鐵道が發達シテ來マスト今マデトハ違ヒマシテ市中ニモ或ル一部分ニハ鐵道が通ル、サウスレバ短い距離ニ停車場ヲ敷置カナクテハナラヌ、サウ云フ場合ニモ此案ハ甚ダ必要デアルト委員デハ認メマシテ前キノ否決トハ反對デ斯ハ一同大贊成ヲ以テ可決

○村田保君 少々委員長ニ御尋致シタウゴザイマス、唯今ノ御報告デ見マス

ルト云フト厘毛ト云フノハ甚ダ計算ニ困ル、ソレ故ニ錢位ニ切上ゲタイト云フコトデゴザイマスガ、ソレハ或ハ大ニ御尤カト考ヘマスルガ、併ナガラ一錢五厘ノモノヲ三錢ニスルト云フハドウモツレバカリデハナイヤウニ思ハレル、一錢五厘ノ厘ガ惡ルケレバ二錢トカ或ハ一錢五厘ノヲ一錢ニシタラ能ク御主意ガ分リマスガ、殊ニ此汽車杯ハ下等ノ者ノタメニハ賃錢ヲ安クスル方ガ宜カラウト思ヒマス、牛込飯田町ノ如キアノ間ハ誠ニ僅ナ間デゴザイマスカラ之ヲ三錢ニスルト云フコトニナツテハ甚ダ困ルト思ヒマス、其邊ハ委員會デハドウ云フ御調ガアリマシタカ

○子爵曾我祐準君 私ノ申シヤウガ惡ルカツタノデゴザイマセウガ一錢五厘

ト云フノハ一哩ニ附テ一錢五厘デゴザイマス、第一項ニ在ルモノハ一哩ニ付イテ一錢五厘ノ割合ヨリ超過スルコトヲ得ズト云フノデアリマスカラ百里ニモ千里ニモ其割合テ積ラレ得ルト云フ譯ニアリマス、一哩一錢五厘ヨリ以外ハイカナイト云フノデゴザイマス、ツレカラ第二項ノ修正案デ出テ居ルモノハ一人ニ附イテ最低額ヲ三錢マデニスルコトヲ得ルト云フノデアリマスルカラ哩數ニ附イテハ分リマセヌガ三錢マデヲ最少限ト爲シ得ルノデ、すてに迄よんトすてに迄よんトノ間ガ二哩ナラバ正シク一錢五厘ニ當リマスガ、其すてに迄よんトすてに迄よんトノ間ガ近ケレバ安イモノガ出來テ來マス、二哩以上ナラバ比較ヨリ高イモノニ付クカモ知レマセヌガ、是ハ最少限ヲ定ムルコトハ三錢マデニ定ムルコトヲ得ト云フノデゴザイマスカラ必ズ三錢ヨリ下ノ賃錢ヲ取ツテハナラヌト云フノデハナイ、一錢デモ二錢デモ取り得ルノデアリマス

○村田保君 其御説明ナラ能ク分リマス

○子爵曾我祐準君 前ノハ少シ説明ガ足ラナカツタノデゴザイマス、是ハドウゾ讀會省略ヲ御願ヒ申シマス

○子爵小笠原壽長君 贊成

○伯爵大原重朝君 贊成

○子爵堀田正養君 チヨツト今ノ曾我君ノ説明サレタコトハ或ハ諸君ニマダ御分リ兼ネルコトガアラウト思ヒマスカラチヨツト補フテ置キマス、第二項デゴザイマスガ最低額ヲ三錢マデニ定ムルコトヲ得ルト云フノハ即チ一哩以下ノ停車場ノ近イ所デ若シ乗客ノ請求ニ依ツテ切符ヲ出ストキニハ一錢トシヤウトモ五厘トシヤウトモ三錢マデノ間ニ賃錢ヲ定スルト云フノデゴザイマスガ、チヨツト分リガ惡ウゴザイマスカラ一應申述ベテ置キマス

○男爵小松行正君 讀會省略ハ成立チマシタカ

○議長（公爵近衛篤齊君） マダ成立チマセス

○子爵伏原宣足君 贊成

○議長（公爵近衛篤齊君） マダ成立チマセス

○子爵山口弘達君 贊成

○子爵小松行正君 贊成致シマス

○子爵谷千城君 贊成

○子爵伏原宣足君 贊成

○議長（公爵近衛篤齊君） マダ成立チマセス

○子爵山口弘達君 贊成

○子爵山口弘達君 贊成

○議長（公爵近衛篤齊君） 読會省略ノ動議ハ成立チマシタ、讀會省略ニ御異議ハゴザイマセヌカ

○（左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス）

明治二十年勅令第十二號私設鐵道條例中左ノ通改正ス

第二十九條 旅客及貨物ノ運賃額又ハ運輸規程ヲ定メ若クハ之ヲ變更セントスルトキハ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ但下等旅客運賃額ハ一哩ニ付金一錢五厘ノ割合ヲ超過スルコトヲ得ス又其範圍内ニ於テ運賃額ヲ増加スル場合ニ於テハ少クトモ二週日前ニ之ヲ公示スヘシ

前項ノ旅客運賃額ヲ算定スルニ當リ一人ニ對スル最低額ヲ金三錢マテニ

定ムルコトヲ得  
本條例ニ依リ運賃ヲ半減スルトキ及哩數ニ對シテ運賃額ヲ定ムルトキ厘

位以下端數ヲ生スルトキハ之ヲ錢位ニ切上クルコトヲ得  
然ラバ本案ハ可決ニナリマシタ、次ハ水害地方地租特別處分法案、衆議院提出、第一讀會ノ續、特別委員長報告

○議長(公爵近衛篤磨君) 次ニ本案可決ト認メテ御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○子爵由利公正君演壇ニ登ル

○子爵由利公正君 本案ハ此中委員會ニ於キマシテ隨分水害ノ地方ニ地租ヲ免除スルト云フコトハ始テノコトデアリマスカラ即チ政府提出案デハアリマセヌケレドモ政府委員モ出席ヲ要メマシテ段々詮議ニモナリマシタ、隨分討論モアリマシタガ結局多數ヲ以テ本案ハ可決ニナリマシテアリマス、隨分反對ノ議論モアリマシタケレドモソレハ成立チマセヌデアリマシタガ、此水害地方ニ於キマシテ凡ソ是ガ免除ニナリマスルト百三十萬圓餘ノ地租ガ減ズルト云フコトニナルノデアリマス、ソレカラ序ニ御参考ニ申上げテ置キマスガ此委員會デ穿鑿ノアリマシタ備荒儲蓄金其他ヨリ土木費總體ニ出マシタ金ガ二百七十萬圓餘モ水害地方ニハ出テ居ルノデアリマス、其上今度百三十萬圓餘ノ地租ガ免除ニナラウト云フノデアリマスカラ宜シク諸君ノ御意見ニ御任セシマスル、委員會ハ可決スベキモノト極リマシタ

○西村亮吉君 委員長ニ質問ヲ、此委員會デハ本案ヲ可決スベキモノト御決定ニナツタヤウデアリマスガ、隨分は收穫ガ一粒モナイトナツテハ地租ヲ

○子爵伊達宗執君 〔ソレハドノ位ト述フ〕

○子爵由利公正君 演壇ニ登ル

○子爵伊達宗敦君 〔ソレハドノ位ト述フ〕

○子爵由利公正君 〔ソレハドノ位ト述フ〕

アル、ソレニ曾テ斯ウ云フコトヲシタコトハナイコトデアリマスルノニ昨年  
ノニ限シテ是ガ出来ルト云フコトニナリマスルト如何ニモ其處分ト云フモノ  
ガ偏頗ニ陥リハ致シマセヌカト云フコトニナリマシテ、ドウモ此法律ヲ此  
儘ニ行フハ唯今申上ゲマスル通ニ重複ノコトニナリマスルシ、是マデ始ド同  
ジモノヲバ同ジヤウナ嵐ニ出會ハシタモノデサヘ少シ局部ハ狹イト申シマシ  
テモ其衝ニ當ツテ居ルモノハ殆ド違ヒハナイト云フダケノモノモ決シテ今年  
ノヤウナ處分ヲ致シテナインデアリマスカラ餘程是ハ新例ヲ開キマシテ此後  
如何デアリマセウカ、此後又斯ウ云フ暴風ト云フモノハ始終受ケル國柄デア  
ル、是ハドウモノナイト云フ國デアルナラバマダシモデアリマスルガ年々多少  
ノコトハアリマス、此むんすーんノ大風ノ襲來ト云フモノハ九州ノ東ヲ侵シ  
マスルカ、四國ヲ侵シマスルカ、紀州ノ端カラ這入りマスルカ年々多少アリマ  
ス、サウ云フコトデアリマシテ此キウナ年々多少アルト云フモノヲ年々斯ウ  
云フコトガ出來マセウカト云フト、ドウモ斯ウ云フコトハ年々出來サウニモ  
思ハレヌ、サウンシテ又斯ウナリマスルト他ニ亦弊ガ起リマセウト考ヘマスル  
ノハ川筋水付キノ所ノモノト云フモノハ唯今申上ゲル通ノ地形デアリマスル  
カラシテ始終多少ハ——區域ノ多少ダケデアリマスルガ多少ハ毎年洪水ニナ  
リマシテ毎年ソコハ地租ヲ免ゼラレル或ハ延納ノ惠ミヲ受ケルト云フコトニ  
ナリマスルト此川邊ニ住シテ居マスル人間ガ組立ツテ居マスル市町村ト云フ  
モノハ本租稅ト云フモノハ殆ドナクナリマスル、サウスルト附加稅ガ課ケラ  
レマセヌデアリマスルカラ市町村ノ成立ガ如何デアリマスカ、餘程是ハ懸念  
ノモノデアリマスルシ、サウナリマスト今度一縣ノ中テ以ツテ川邊ノ所ノ地租  
ノ出ヌ、地方稅ノ出ヌ、附加稅ノ課ラヌト云フノハ勢ヒ水ノ附カヌ人ガソレヲ  
負擔シナクンバナラヌト云フコトニ立至リハシマスマイカ、サウシマスレバ  
地方ニ於テ非常ニ幸不幸ガ起リマシテ餘程是ハ困難ナル結果ヲ來タシハシマ  
スマイカト考ヘマスカラ先づ此方ハ政府ノ十分ナ望ミヲ申シマスルト否決シ  
テ下サレテサウシテ非常ナコトガアルナラバ非常ナコトノ處分ヲシマスルノ  
ハ其事ニ當ツテ政府ト議會ト云フモノガ十分ニ商議ヲ凝シテ補助ノ道ヲ付  
ケルト云フ方が宜シカラウスウ云フ考デゴザイマシテ法律デ必ス之ヲスル  
今ノ重複ノ處分ニナルヤウナコト、地方全體ノ經濟ノ如何アランカト云フヤ  
ウナコトハ先づ致サヌ方ガ宜カラウ、サウ云フ考デアリマスルカラ政府ノ此  
議案ニ就テ考ヘマス所ヲ諸君ノ御耳ニ達シマシテサウシテ十分ノ御研究ヲ願  
タ土地ハ更ニナイト云フ御考デアリマスカ

タノハ是マデ決シテ地租條例ニ依クテ荒地ノ處分ヲ致シマセヌ、又地租條例モ致シマンシタ精神ニアリマシテ地盤ニ變動ヲ生ゼヌ限りハ荒地ト云フコトニナリマセヌデアリマス、地租條例ハ二十餘年ノ経験ヲ積ンデ今日マデ來テ日本全國ノ人民ハ其支配ヲ受ケテ居ルノデゴザイマス、ソレカラ此震災ノコトハ今日ハ法律ガ出マシタシ、岐阜愛知ノ時モ出マシタ、是ハ誠ニ期スペカラザルコトニアリマシテ此秋ニ至リマシテ唯今申上ダマシタむんす一ノ結果ヲ受ケマスト云フヤウナ規則立ツタ害デアリマセズシテ實ニドウモ不時ノ測ラレヌコトニアリマシテドウ云フヤウナ賢明ナ人ガ法律ヲ作ツテ置キマシテモドウモ場合ニ當簇メラレヌコトガ比々起ル、ケレドモ規則立ツタヤウナ心んす一ノ危険カラシテ起ルヤウナモノハ略々見ル所ガアリマシテ地租條例モ出來テ居リマス、ソレハ所謂非常ナコトガアツタトキハ非常ナ處分ヲスルト申シタノハソレデ、震災ニ依クテヤツタノハ地租條例ニ這入リマセズシテ地租條例ニ依クテヤツタノハ二遍アツテ今度正ニ三遍目ガ起ラントスル所デアリ

○男爵伊達宗敦君　今ノ水害ニ就イテノ收穫皆無ニナタコトニ就イテハ  
タメニソレカラ段々先程モ御述ベニナリマシタガ此水害ト云フモノハ嵐ノ來ル  
本デハ或ル部分ニ於テハ年々アルニ極シテ居ル、今アナタノ御述ベニナシタ  
規則立ツタヤウナモノデアツテソレカラ地震ノ方ハ不規則デアル斯ウ云フ  
話テスケレドモ、併ナガラ地震ト云ツテモ必ズ極シテ來ルモ  
ノデ、水害ハ一年ニ一遍トカ地震ハ十年ニ一遍トカ或ハ二十年ニ一遍トカ  
ドヲチモ非常ナモノデアル、然ルニ一方ニハ免租ニナリ一方ニハ免租ニナラ  
又ト云フヨトハドウモ不公平ナコトデアラウト思フ、先程カラ御述ベニナシ  
タ御精神ガ能ク分リマセヌ

○政府委員(男爵田尻稻次郎君) ソレハ御考ハドウデモ宜シウゴザイマス  
ガ、日本ノ二百十日、八朔、二百二十日ノ嵐ト云フモノハ極シテ居ル、是ハ  
既ニ曆ノ中段ニモ御承知ノ通リニ厄日ト云フコトガ極シテ居リマシテ、チヤ  
ントモウ古來極シテ居リマス、ソレデ氣象臺ガ立チマシテカラ殆ド十八年ニ  
ナリマスガ其報告ニ依シテ見マシテモ、チャント規則立シテ居リマス、筋道ガ  
チャント付イテ居リマス、是ハ多少災禍受ケル地アルト云フコトガ分ッ  
テ居ルノデアリマスカラソレハソレニ應ズルヤウニ法律ヲ立テルト云フコト  
ガ出來ルノデゴザイマス、ケレドモ地震坏ハ地ノ下ニ在ルコトデアリマスカ  
ラドウシテモ是ハ誰ガ見テモ分ラヌ、地震モ御承知ノ通ニ二種類アリマシ  
テ、火山ノ近邊ト云フモノハ或ハ地震ヲ豫期スルコトガ出來マス、併ナガラ火  
山ノ地震ハ僅カズ地ニリガ多イ、地ニリニ至リマシテハ實ニ是ハ分ラヌ

○議長(公爵近衛篤君) チヨウト  
〔男爵伊達宗敦君發言テホム〕

○子爵谷干城君 今政府委員ノ述ベラレタル所ニ依リマスト年々アル所ノシケ、サウ云フモノヲ免ズルト云フコトニナレバ年々サウセヌラヌト云フ御説ニ承ツタノデアリマスガ、昨年ノ洪水ト云フモノハ年々アル洪水デナイヤ

ウニ聞エル、又其水浸シタ所ナドハ私ハ一地方ダケデアトハ見ナイガ、先  
ヅ江州アタリデ見マスルト殆ド田畠ガ残ラヌ浸カツタノミナラズ所謂家モ家  
具モ浸シタヤウニ聞エテ居ル、現ニ家モ百以上モ罹ツテ居ル、サウ云フヤウ  
ナ理窟デ是ハ通常ノ浸水トハ違ツテ居ルト私共ハ聞取ツテ居ル、ソレ故ニ斯  
ウ云フ法律モ出テ居ルト思フ、ソレカラシテ又此水害ガ年々アルト云フコト  
ハソレハ成ル程御説ノ通デアリマスルガ官林ノ濫伐ヤ或ハ鐵道ノ線路ノ障害  
ヤ何カデ年々出テ來ル、ソレ等モ固ヨリ餘計ニナツテ來ルデアリマス  
ガ就中昨年ノガハ酷カツタ、ソレデ此法律が出來タト思フ此情カラ考ヘテ見  
レバ出來得ラル、ナラバヤリタイト思フ、併ナガラ政府ニ於テドウシテモ金  
ガ出來ナイト云フナラバ致シ方ガナイガ即チ政府ニハ大阪築港ノ如キモノヘ  
モ金ヲ出シテヤル、出シテヤルト云ヘバ又斯ノ如キ憐ムベキ人民ヲ保護スル  
ニ於テ決シテ躊躇スルコトハアルマイト思フ、ソレデ唯洪水々々ト云フト一  
ロデアリマスガ即チ此柄木縣ノ洪水ノ如キハ洪水ト共ニ毒ヲ流シテ居ル、即チ  
足尾ノ銅山ノ毒ト云フモノハ永イ間ノコトデアルガ未だ嘗テ政府之ニ處置ヲ  
セラレタコトハナイ、是等ハ毒ノ洪水ヲ流シテ居ル、我ミハ親ク彼ヲ行テ見  
テ實ニ憤然ニ堪ヘヌト思フ、ソレデ其傍ニハドウカト云フト今ノヤウニ大阪  
ニハ五百万圓ノ大金ヲ出シテ新ニ港ヲ築イテヤラウト云フノハ春氣ナコト、  
思ヒマス、ソレヲ考ヘレバ是ハヤルベキモノト私ハ考ヘル、贊成ヲスル

○議長(公爵近衛篤曇君) 今ノハ御質問デスカ御意見デスカ

○子爵谷千城君(イエ質問デス、政府委員ノ答辯ヲ聞クノデス)

(政府委員男爵田尻稻次郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(男爵田尻稻次郎君) 御答ヲ致シマスルガ併ナガラ谷君ノ御質問  
カ御説カ知リマセヌガ大分私ノ受持ノ範圍外ニ涉ツテ居リマスルカラ、足尾ノ  
鑽毒ノ事ヤ大阪ノ築港ノ事ハドウモ申上ゲル譯ニ行キマセヌ併シ私が先キニ  
申シマシタ嵐ノ計リ工合即チ日本デハ夏ノ末カラ秋ノ初頃マダニ始終受ケマ  
ス嵐ト云フモノハ矢張リ……昨年大嵐ガ三遍アリマシタガ矢張リ其原因ハ  
ソレデアルノデソレハ氣象臺ノ報告デ明デアリマシテ先以テ九州ノ沖ニ低氣  
圧が出來マス、矢張リソレガ原因トナツテ居ルノデアリマス、ソレデ成ル程昨  
年ノハ大變雨量ガ多ウゴザイマシテ彦根デ計リマシタノガ六百四十一みりメ  
ーとるト覺エテ居リマスガ、二十四時間ノ雨量ガ、ソレカラ——神宮洪水ノ  
時一番酷カッタノハ九百みりメーとるト云フ報告ガアリマス

(子爵谷千城君「ヤル金ガ無イト云フナラバソレデ宜シウゴザイマス」ト  
述フ)

金モ勿論アリマセヌガ私が申上ゲタヤウナノトハ嵐ガ達ツテ居ルト云フヤウ  
ナ御話デアリマシタガドウモ嵐ノ原因ハ同ジコトデアリマス、ソレカラ金ノ  
コトデアリマスルガ金モサウドウモ譯ナク減ルト云フ譯ハアルマイト思ヒマ  
スガ誠ニ仕方ノナイモノハドウモ繰越ヲシナクンバナリマセヌガ斯ノ如ク金  
O村田保君 先程田尻政府委員カラ述ベラレタコトハ餘程是ハ奇態ナ處分デ  
重複ニ涉ルコトデアル、既ニ備荒儲蓄ト云フモノモアルト云フコトヲ段々御  
述ベニナリマシタガ此備荒儲蓄ト云フモノハ農夫ガ家屋ヲ建テルノニ金ヲ貸  
シテヤル補助シテヤルト云フコトダラウト思フ、所ガ震災地水害地ト云フモ  
ノハ中ミワシナモノデハナイト思フ、一度水が侵シマスルト田畠ナドヲ荒シ

マシテソレヲ元ノ田畠ニ復スルニハ殆ド田畠ヲ買フ程掛カル、一段ノ田畠ガ  
甚ダシイノハ二百圓モ掛カル所ガアル、ソレ故ニ福井アタリハ未ダニ著手セ  
ズニ三年モ前カラ抛ツテ居ルト云フコトモ段々聞イテ居ル、政府委員ハ此水  
害地ヲ目撃サレマシタカ、ソレヲ伺ヒタイ、實際ノ有様ヲ御覽ナスツタカ否  
ヤ

○政府委員(自賀田種太郎君) 政府委員ハ意見ヲ述ベル前ニ村田君ニ御答ヲ  
致シマスガ備荒儲蓄法ハ御承知ノ通地租改正後從來ノ檢見取ヲ廢シマシタル  
タメニ起リマシタル所ノ法律、即チ明治八年ニ定メタル凶歲延納規則ヲ移シテ  
之ニ定メタルモノ、恰モ本件ノ如キ災害ニ適合スルノ法律ヲ政府ハ固ヨリ……  
〔村田保君「備荒儲蓄ガ無イトハ申シマセヌ」ト述フ〕

ソレガ出來ルヤ否ヤト云フ御尋ニアリマスカラ……  
〔村田保君「併シアナタニ請ウタノデハナイ、田尻政府委員ニ請ウタノ  
デアル、田尻政府委員ガハレタコトニ附イテ説明ヲ請フノデアリマス  
ラドウカ田尻君カラ御答ヲ願ヒタ」ト述フ〕

私ト雖モ政府委員デアツテ殊ニ主管ノ事デスカラ御答シマスノデアリマス  
〔村田保君「私ハ田尻政府委員ト云フコトヲ申シテ居リマス」ト述フ〕

左様デゴザイマスカラ……  
〔政府委員男爵田尻稻次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(男爵田尻稻次郎君) 水害地ハモウ非常ニ能ク歩イテ居マス、人  
モ出シテ居マス、能ク歩イテ居マス

〔村田保君「ソレデハアナタ非常ナ過酷ナ方ダ」ト述フ〕

左様デゴザイマスカ、併シ答辯ヲシラドチラガ過酷ダカ分ラヌ  
○議長(公爵近衛篤曇君) 村田君ニ申シマスガ直談判ハ御免ヲ蒙リマス、整  
理ニ困リマスカラ……  
〔村田保君「水害ノ有様ト云フモノハ日本人民ガ同胞ノ情カラ誰モ見タラ涙  
ヲ翻サヌ者ハナカラウト思フ、リニ第一私共ハ是非地租ノ免除ヲシテヤラ  
ヌナラヌト思フ、何ゼカト云ヘバ地租ト云フモノハ田畠ノ收穫カラ取ルノデ  
收穫ノナキモノヲ地租ヲ取ルト云フノハ酷イ話デアル、譬ヘバ家屋デモサウ  
デアル家屋ガ焼ケタラ家税ヲ取りマスカ、是ハ取ル物ガナイ本員ナドハドウ  
カ滿場ノ諸君が委員ノ修正ヲ贊成セラレシコトヲ希望シマス〕

○政府委員(男爵田尻稻次郎君) 御質問デゴザイマスカ

〔村田保君「意見ニシテ置イテモ宜シイ」ト述フ〕

○男爵船越衛君 唯今田尻男爵ガ水害地ヲ歩イタト仰セラレマシタガソレハ  
水害ガアツタ後ニアラウト思ヒマス、水害ノ時ノ様ヲ見ルトアソナ答ハ出來  
ハシマセヌ、凡ソ地方デ地方官ガ何ガ一番難儀ナカト云フト水害ニ遭ウタ  
位困難ナコトハナイ、人畜死傷、田畠荒れ果テ、見ル目モ見ラレナイ、是位  
ナ困難ハナイ此困難ヲホンマニ見タナラバ今ノヤウナ答ハ出來ナイ、畢竟水  
害ノアツタ後ニ人力デ引張ツテ行ツテ見タノデアリマセウ、此慘状ヲ見タ  
以上ハサウ云フ答ハ出來ナイ、此案ノ成立シコトヲ希望致シマス

○政府委員(男爵田尻稻次郎君) 屢々申上ゲマスガ能ク見テ居ルノデス、真

(政府委員男爵田尻稻次郎君) 屢々申上ゲマスガ能ク見テ居ルノデス、真

ニ行テ見テ居ルノテ決シテ後トカラ行クノデアリマセヌ、其時既ニ其所  
ニ行テ見テ居ルノテ決シテ後トカラ行クノデアリマセヌ、其時既ニ其所  
ニ行テ見テ居ルノ道ヲ著ケテ居ル  
○子爵谷干城君 ソンナラバモウ一つ質問ガアル、水害地ヲ十分見タト仰  
シヤルナラバ質問ガアル、即チ足尾銅山其鑛毒ヲ流シテ居ル所ニ行クテ見テ  
御覽ナサイマシタカ  
○政府委員(男爵田尻稻次郎君) 足尾銅山ノコトハソレハ問題外ニナリハセ  
スカト思ヒマス  
○子爵谷干城君 ケレドモソレハ矢張水害地デス  
○政府委員(男爵田尻稻次郎君) 夫ハ別ニシテ下サラヌト一緒ニナサレテハ  
因ル  
○子爵谷干城君 ケレドモ金ノ點ニ於テハ是ハ矢張關聯スルノデス、金ガア  
レバヤリタイト思ヒマス  
○政府委員(男爵田尻稻次郎君) 是ハ足尾銅山ノコトナラバ此問題トハ別ニ  
ナサヌテ下サラヌト困リマス  
○子爵谷干城君 サウ仰シヤツテモ木ガ枯レタリ草ガ枯レタリ……  
○議長(公爵近衛篤麿君) 成ルベクドウゾ直談判ハ御止メニナルヤウニ願ヒ  
タイ議場ノ整理モ付キマセヌカラ……  
○政府委員(男爵田尻稻次郎君) 御答ヲ致シマスガドウモ鑛毒ヲ調ベルノハ  
大藏省デ地租ヲ調ベルヤウニハ行キマセヌ  
○子爵谷干城君 地租ヲ調ベルト云フタ所ガ現ニ殆ド野ニ青草ノナイ所ニ稅  
ヲ取シテ居リマス、ソレハナゼカトキマスガ流レ出タカラ荒レタト云フ  
ナラバ夫レハ許ス、併ナガラ鑛毒ト云フテハ許スコトハ出來ヌ、免ニ角アナ  
タ方ハ御知リガアルマイト思フ、サア、サウ云フ譯デアルカラ金ハ容易ニ使  
ヘナイ、使ハヌナラヌ所ガアル、夫レ故ニ金ガ澤山アレバヤラヌナラヌト思  
フ、緩急順序ガアルカラトウシテモ金ガナイト云フナラ私モ同意ヲシテヤル、  
一方ニ於テハ大阪築港ノ如キモノヲヤル、ソレニヤル餘裕ガアレバ是ヲ先キ  
ニヤラネバナラヌ、ソレガナケレバ足尾銅山ノヤウナ害ヲ受ケテ居ル所ヘ先  
キニヤラナケレバナラヌ  
○政府委員(男爵田尻稻次郎君) 足尾銅山ノコトハ屢々是ハ御断ハリ申シマ  
ス通リ是ハ全體ニ法律ニアリマスノトモ違フテ居マスカラ……  
○子爵谷我祐準君 是ハ何府バカリニ掛クテ居リマスカ……此今ノ案ノ恩惠  
ヲ受クベキ廣サハ  
○政府委員(男爵田尻稻次郎君) 三府二十三縣ニ掛リマス  
○子爵谷我祐準君 石高ア云ヒマシタラ非常ナモノデセウナ  
○政府委員(男爵田尻稻次郎君) ハイ此何デゴザイマス、收穫ナキ田畠ト云  
フモノガ田デ以テ一万町歩、畠デ以テ一万七千町歩、區域ハ隨分廣ウゴザ

スガ此水害ノ大ナルコトハ當官等モ存シテ居ルノデアリマス、故ニ是ニ現行ノ法律ニ於テ能フベキ程度ニ於テ救濟ヲ與ヘルト箇様ニ申スデ、此水害ヲ餘所ニ見ルトハ云ハナイナセカナラバ今日ノ法律ノ上即チ地租條例ニ於テ此地租改正ノ成立ガ地租ハ土地ノ豐凶ニ依クテ増減セズトアリマスカラ即チ是ニ依クテ他ニ據ルヘキ所ノ途ヲ求メテ救濟ヲ備荒貯蓄ニ取ルト云フノデアリマス、ヨコデ地租條例ノ定マリマシテヨリ以來ハ檢見取ヲ止メテ居ル、然ニ此水災ノ時ヲ以テ地租ヲ減ズルトナラバ結果即チ是検見取デアルト云フノデアリマス、最前モ段々ニ審議ガアリマシテ震災ハ如何ト云フコトデアリマシタガ震災ノコトハ地租條例ニ於テ見テ居ラヌ、水害水廢等ノコトハ地租條例ニ於テ見テ居ル即チ地價ヲ定ムルノ時ニ於テ已ニ十分斟酌ヲシテ居ル故ニ唯今收穫ナキコトガアラテモ其收穫ナキモノハ既定ノ地價ニ於テ査定ノ上ニ於テ見積ッテ居ルカラ地租條例ノ變法ヲ造ラテ免除スペキモノニアラズト云フノ趣意ヲ以テ最前ヨリ申上テ居ルノデアリマス、ドウゾ其所ハ一番御考慮下サレムコトヲ希望致シマス然ラバ備荒貯蓄法ハ如何ニ施行ニナルカト申セバ已ニ水此災ノ爲ニ備荒貯蓄ヨリ中央ノ貯蓄ヲ支出セントスルモノガ一百十九万圓モアル、此水害ニ於テ免租ニナルモノガ百三十二万圓程モアル、先ツ以テ斯ク非常ナル支出ヲナシテ居ル是ニ依テ救ヒ能フベキデハアルマイカト思フテ居ル、蓋シ救ヒ能フト思ッテ居ル、夫レカラ今一ツ此案ニ附イテ執行上ニ付イテ御考慮ヲ乞フ所以ノモノハ抑々此第二條ノ如キ其荒地ニ至ラザルモノモ收穫皆無ト爲リタル場合土地ニ對シテ免租ス、是等ハ執行上如何デアラウカト思フ、何ニ依クテ今日荒地トナツテ居ルモノヲ荒地ニアラズトシ收穫ノアルモノト認定スルデアラウカ皆稔ッテ居ル、如何シテ收穫皆無ト認メラレルカ、言フハ易ク行フニハ難イコトデアラウト思フ、左レバスノ如キ場合ニ於テ今日ハ地價修正法デアル之ヲ以テ能フベキ救濟ハ他ニ與ヘテ斯ノ如キ場合ニ減租シナイト云フノハ即チ地租條例及び地租改正以來ノ趣旨デアラウト思フ又本官等縞カニ思フニ地租法ナルモノハ先ツ以テ百世ノ法デアル、今日偶ニ水害ノ大難ニ際シ今年此法ヲ造リ明年モ亦タスノ如キ法ヲ造ラムカ、ソレコト殆ド一般ノ人民ニ關係ヲ持チマス、果テ此ノ如クナリマスレバ地租條例ノ維持ニ於テ如何デアラウカ恐ナシトハ申サレヌ、將又小官等猶未考ヘルニ凡ソ義務ヲ負擔シテ而シテ後權利ヲ行フベシト思フ、左レバスノ如キ場合ニ於テハ已ニ豫算ト云フモノガ極シテ居ラテ斯ノ如キ巨額ノ金額ノ減スルノデゴザリマス、第八條ヲ見レバ「此ノ法律ニ依リテ特免シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ控除セス」トアル是等ハ隨分前例ノナイ法律デアラテ已ニ先刻御協賛ヲ全ウシタル震災地方特別處分法ニ於テモ斯ノ如キコトハナハ甚ダ以テ其目的ニ協ハヌコトデアリマス、又實際ヲ顧マスレバ今日ニ於テ救助ノ能フベキ分ハ盡シテ居ル其上ニ若シ此法律ヲ行ハントスレバ如何ニ處分スヘキカ已ニ補助貸與ヲシタモノモアル、是等トハ重複ヲスルト云フ結果ニナラウト思ヒマス、本案ニ對スル意見ヲ述べマシテ各位ノ御考慮ヲ煩サンコトヲ希望シマス



○政府委員男爵田尻稻次郎君演壇ニ登ル〔政府委員男爵田尻稻次郎君〕三宅君ニ御答イタシマスガ、昨年ノハ幸ヒ

風ガ餘リ強ウアリアセヌデ、ソレデ從ツテ其雨量ノ割ニハ少カツタデアリマス、雨量ハ餘程多ウゴザイマシタ、併シ昨年ノ極ク平年ニ異クテ居リマスノハ續キマシタノデアリマス、雨量ノ局部ハ昨年ヨリ多カツタコトガ此前ニ遍モアルノデ、局部ノ雨量ハ昨年ガ三遍目ゴザイマス、ケレドモ雨ガ續イテ降リマシタカラ、此潜水ガ多カツタノデ、風ハ唯今申ス通ニ幸ニ強クナクシテ、アレニ又非常ナ風ガ添ヘバ害ガ非常デアツタノニ、ソレダケハ先ヅ不幸中ノ仕合デアツタノデアリマス

〔富田鐵之助君發言權ヲ得議席ヲ離レ演壇ニ赴カントス〕

○議長(公爵近衛篤齊君) 富田君ハ説ヲ御述ベニナルノデゴザイマスカ……

〔富田鐵之助君「サウデス」ト述ブ〕

○議長(公爵近衛篤齊君) 今四時ニモナリマシタカラ尙ホ續ケテヤリマスコトヲ御承諾ニナルナラバ續ケテヤリマスガ……

○子爵關博直君 先刻カラ段々政府委員ガ御述ベニナリマスルガ、其邊ノ所ハ我ニ委員會ニ於テ十分質問モイタシマシタシ討論モゴザイマシタガ、孰モ其要領ヲ得ナカツタ要領ヲ得ナカツタ答辯ノ仕方デ、所デ先刻カラ皆様ノ質問ノ仕振り説ノ出シ方等ヲ聽キマスルニ大概此案ニハ御贊成ノヤウニ察セラレマス、シテ見マスルト最早論ズルコトモタントナイカト思マスルガ、此所ヲデ一ツ決ヲ御採リ下サランコトヲ希望致シマスカラ、私ハ討論終結ノ動議ヲ提出致シマス

○子爵小笠原壽長君 贊成

〔賛成「ト呼フ者數名アリ」〕

○議長(公爵近衛篤齊君) 討論終結ノ動議ガ出マシタ

○男爵安場保和君 討論終結ト云フノハ……討論ガアリマシタラウカ……

〔子爵曾我祐準君「ト述フ」〕

○議長(公爵近衛篤齊君) 誰ガ發言ヲ許シマシタカ曾我子爵ニハ誰ガ發言ヲ許シマシタカ

〔子爵曾我祐準君「議長ガ餘リ間違ツタコトヲナサリマスカラ……」ト述フ〕

○議長(公爵近衛篤齊君) 曾我子爵ニハ發言ハ許シマセヌ、御黙ンナサイ御黙ンナサイ安場男爵ニ許シタノデス……富田君ニ許シカケタトキニ……

〔議場騒然一時ニ發言スル者アリ〕  
〔子爵曾我祐準君「現在登ツテ居リマスヂヤアリマセヌカ、御許シナサツタカラ登ツタノデス」ト述フ〕

○議長(公爵近衛篤齊君) チヨット御待チナサイ討論終結ノ動議ガ出マシタカラ……  
〔子爵曾我祐準君「討論終結ト云フコトハソレハイケマセヌ、討論ハマ

ダ始ツテハ居リマセヌ始ツテ居ラヌモノト討論終結ト云フコトハイケマセヌ」ト述フ〕

○議長(公爵近衛篤齊君) 然ラバ關子爵ニ御尋ね致シマスガ、討論終結ノ動議ハ御引キニナリマスカス、シテ見レバ御互ニ會ツタガ際期、甲ガ贊成シテ乙ガ駁シ又贊成シ又駁スト云フ互ニ斯ウスウト話ハアリマセヌデシタガ併シ先ヅ凡ソ意見ヲ述べタ方ハアルノデスト私ハ認メタノデス

〔男爵伊達宗敦君「ソレハ違フ、ソンナコトハナイ」ト述フ〕

○男爵安場保和君 私ハ發言ノ權ヲ得テ居リマス、唯今ノ關君ノ御論ハ私ハ甚ダ其意ヲ得マセヌ、ト云フモノハ成ル程議論ニ似タ質問ハ大分アリマシタ

ケレドモソレハ似タルモノデ、正面ノ議論デハナイ、我輩ハ之ニ就イテハ隨

分議論ガマダアルノデス、ソレデドウゾ是ハ理窟ハ申シマセヌガ、討論ヲ十

分ニ御許シニナツテ然ル後ニ討論盡キタリト云フ機ヲ見テ關君ノ御動議ハ御

發議ニナルコトヲ希望イタシマス

○渡邊甚吉君 チヨット關サンニ御相談イタシマスガ、富田サンノ御演説ヲ一度願ツテ其上デ討論終結ノ動議ヲ御提出ニナツテハ如何デスカ

○子爵板倉勝達君 富田君ノハ御許シニナツタコト云フコトハ議長如何ゴザ

イマスカ、演壇ニ登ツタノハ唯書記官ノ所ヘ話ニ往ツタヤウニ思ヒマスガ、

唯許スト云フコトガナイノニ……

〔議場囂然〕

○議長(公爵近衛篤齊君) チヨット御靜ニナサイ

○子爵板倉勝達君 果シテ御許シニナツタナラバ(議場喧噪ニシテ聽取シ難シ)マダ御許シニナラヌナラバ關子爵ノ動議ガ成立ツト云フコトハ……

○議長(公爵近衛篤齊君) マダ許シタノジヤナカツタノデス、富田君ガ發言ヲ求メタカラソレヲ暫ク止メテ時刻ノコトニ就イテノ相談ヲ仕掛けタノデス、其際ニ關君ガ發言ヲ求メラレタカラ時刻ノコト、思ツタノニ討論終結ノ動議ニアツタノデス

○子爵板倉勝達君 サウ、サウ、本員サウ心得テ居ル

○議長(公爵近衛篤齊君) 決シテ議長ニ於テハ間違ツタコトハシテ居ラヌノデス

○子爵曾我祐準君 此順序ハ能ク正シテ置キマセヌト啻ニ今日ノ議事ニ止リ

マセヌデアリマス、明ニ富田君ハ度々發言ヲ求メラレマシタガ、不幸ニシテ議長ノ御許シガゴザイマセヌデシタ、發言ヲ求メラレルタメニ凡ソ五度位立タレマンシタト思ヒマス、併シソレハ故意ニ止メタトハ認メマセヌ、偶然ノ出来事ニアリマス、偶々御許シニナツテ登壇シ掛リマスルト議長ハ時間ノコト

ヲ仰セラレマシタ此場合ニ於テハ時間ノコトハ宜シウゴザイマス、併シナガラ討論終結ノ動議ヲ出ス場合デハナイノデス、時間ヲ延バストカ延サヌトカ其事ニ附イテノ御議論ナラバ誠ニ時機デゴザイマス、他ノコトハ時機デアリマセヌ、即チ討論ノ初マリガナクテ終ル、討論終結ト云フコトハ甚ダ其趣意が間違テ居ルト本員ハ認メマスルノデアリマス

○議長(公爵近衛篤脣君) 討論終結ハ議長カラ出シタノデアリマスガ、ソレハドウシテモ時機デナイ……

〔子爵板倉勝達君發言ヲ求ム〕

○發言權ハ私ガ持テ居ル、ソレデ此事ハ順序ヲ正シクシテ時間ヲ延ブルヤ否ヤト云フコトヲ御極メニナツタラ宣シウゴザイマセウ、或ハ議長ノ御特權デ延ベルコトニナサツテモ宜シウゴザイマス、然ル後ニ富田君ニハドウシテモ御許シニナラヌケレバナラヌト思ヒマス本員ハ……

〔ノウクト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛篤脣君) 免ニ角時間ノコトニ就イテ御相談ヲシマセウ

○子爵曾我祐準君 左様……

○議長(公爵近衛篤脣君) ソレヲ定メルコトガ一番前キアラウト思ヒマス、勿論此議案ハ盡キマシテモマダ他ニ議事日程ハ澤山アルノデゴザイマスカラ時間ヲ延スト云フコトニナリマシテ、是ガ否決ニナツテモ幾ラモ議スモノガアリマスカラ時間ヲ延スト云フコトヲ御相談致シマス會期モ既ニ切迫シテ居リマスカラ……

〔村田保君發言ス〕

○議長(公爵近衛篤脣君) 御黙ンナサイ

〔子爵曾我祐準君「宣告ガアル黙ツテ居ロ」ト述フ〕

○議長(公爵近衛篤脣君) 議事ヲ續イテヤルト云フ即チ四時ノ時刻ニナリマシタケレドモ尙ホ續イテヤルト云フコトニ御不同意ガナクバ……

〔子爵谷干城君「御同意」ト述フ〕

〔男爵安場保和君「續イテ御ヤリヲ願ヒマス御同意デゴザイマス」ト述フ〕

〔男爵近衛篤脣君〕然ラバ續イテヤリマス

〔富田鐵之助君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公爵近衛篤脣君) 富田君ハ何カ御發議デスカチヨット御待チ下サイ、唯今ノコトハ確メテ置キタイト思ヒマス、討論終結ノ動議ト云フモノハ定規ノ贊成ガアツテ成立ツテ居ルノデス、是ハ動議が出タ以上ハ議長トシテ決ヲ採ラナケレバナラヌ、假令ドノ位無理ナ動議デアツテモ……、發議者カラ撤回スレバ免ニ角……

○子爵曾我祐準君 ソレハ大變惡イ例ヲ啓クコトニナリマセウ、此ノ如キ混雜ニ投シテ討論終結ノ動議ヲ出シテソレガ直グニ採用サレルヤウニナツテハ

イケマスマイ、時間ノ問題中デアリマシタカラドウシテモ是ハ討論終結ノ時機デナイ、時間ノ問題最中ニ討論終結ノ動議ヲ出スト云フコトハ時機デナイデス、議論ニナツテ居ラヌ、時間ノ相談中デアルソレ故ニ是ハ無效ノ發言デアル……

○議長(公爵近衛篤脣君) ソレデモ贊成ガアツテ成立ツテ居ルモノハ仕方ガ宜シカラウト思ヒマス、御引キニナラヌト混雜イタシマス

○子爵關博直君 引イタ方ガ混雜ガナクシテ宜シト云フコトハ別問題デアリマスカラ其事ハ其事デ別段ニ考ヘマスルガ、併シガラ私ガ出シマシタ問題ハ既ニ贊成者アツテ議場ノ問題ト爲ツタ以上ハ最早私ノモノデハナイ、是ハ致方ナイ……

〔三浦安君「發議者ガ引ケバ宜イ」ト述フ〕

……假令發議者ガ引イテモ贊成者ガ引カナイドキニハ同ジテアリマス、ソレ故ニヒトリ發議者ガ引イテモドウカト思ヒマス……

〔引クガ宜イ」ト述フル者アリ〕

……夫デ斯ウ面倒ニナツタ日ニハ却ツテ私ガ取消ヲ致シマシテ而シテ外ニ議論ガアル人ガアレバサセタ方ガ早ク済ムカト思ヒマス、併シ便法ヲ申シマスレバコ、デ討論終結ノ議決ヲ採フタ方ガ宜イト思ヒマス……

〔採レヌ「採レヌコトハアリマセヌ」「採ルナラ勝手ニシロ」ト述フル者アリ議場騒然タリ〕

……ドチラガ宜イカドチラモ例ニナツテハ……例ニナラヌコトニシテ之ヲ取消スコトナラバ取消シマス

○子爵谷干城君 ヤカマシイコトニナリマシタガヤカマシイコトヲ云フニハ及バヌト思ヒマス隨分此討論終結ト云フヤウナコトヨリモ貴族院デハ可笑シイコトガアリマス曾我君ハ大變ムヅカシク仰シヤルガ既ニ御忘レニナツタカ知ラヌガ初度ノ議會ノ時分ニ質問終結杯ト云フコトガ出マシタ質問終結杯ト云フテヤル、酷イ目ニ我ハサレタコトモアリマス、ソレデ詰リ討論終結ト云フ動議が出タ以上ハ仕方ガナイ是ハモウ酷ウムツカシイコトヲ仰シヤラズニ免ニ角モ關君ノ出タモノヘ贊成ガアルカラ夫ヲ決ヲ御採リニナリマシテ何ノ差支ガアリマセウカ

○子爵曾我祐準君 谷サン少シ御聽分ケ下サラヌト……順序ヲ逐フテ規則ノ通ニ出タ終結ナラバ如何ナル不同意ノ時ニ於テモ終結ハ成立チマス、度ニ其目ニ遭フテ苦シニ居リマス、致方ハゴザイマセヌ、唯今ノ場合ハ明ニ富田君ガ許サレテ登リ掛カツタ途中ニ時間ヲ一ツノ問題トシテ議長ガ仰セラレタ、其時間ノ問題ノクメニ富田君ガ中止サレタノデ、發言權ヲ貰フテ未ダ發言ヲセザルハ全ク討論終結ノタメデハナイ時間ノ……

〔許サレテ居ル「ソレハ違フ」「採決々々」ノ聲起ル、議場騒然タリ〕

○議長(公爵近衛篤曇君) 諒ニ願ヒマス、チヨット今此所デ斯ウ云フコトニ致シマセウ、討論終局ノ動議ガ前ニ問題ニナリマシタカラ關子爵ノ動議ノ決ヲ採ルベキヤ否ヤト云フコトヲ先キニ決ヲ採リマセウ

(子爵曾我祐準君「ソレガ宜シイ」ト述フ)

○男爵伊達宗教君 其前ニシテ此案ハドウデス、曾我君ノ言フ通、若シ果シテ富田君ニシテ發言ヲ許サレタナラバ斯様ナ時ニ討論終結ハ出セヌト思フ、併

カガラ此事ニ附キマシテハ富田君ガ發言ヲ求メタ、其所デ少シ御待チナサイ、

富田君ガ議長ニ向クテ發言ヲ求メラレテ然ル後議長ガ少シ御待チナサイト云

ノヲ富田君ガ此邊マテ出掛ケタ時デアルカラ又議長ハ登壇ヲシテ發言スル

コトハ富田君ニ許シテハ居ラレナイデ居ルト思フ、現在富田君ガサウ言ハレル以上ハ其討論終局ノ動議ヲ出スコトハ出來ル場合デアルト思フ、併ナガラ

私ニ於テハ發言ヲ許サレテ登壇シツ、アル所ニ討論終結ヲ出スコトハ出來ナ

イ、富田君ノハ既ニ自分が發言ヲ求メテ歩イテ行カレル所デ少シ御待チナサタノデアリマスカラ此場合終結ノ動議ヲ出スコトハ差支ヘルコトデナイト存ジマス

(採決々々ノ聲起ル)

○議長(公爵近衛篤曇君) 討論終結ニ決ヲ採ルベキヤ否ヤノ決ヲ採リマス、

討論終結ノ動議ノ決ヲ採ルベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數

○議長(公爵近衛篤曇君) 少數デゴザイマス、然ラバ討論終結ノ動議モ隨ツテ其結果トシテ消滅ニナリマシタ……富田君……

(富田鐵之助君演壇ニ登ル)

○富田鐵之助君 本員モ此水害地方特別處分法案ノ委員ノ一人デゴザイマシテ此案ニ賛成ヲ致シタモノデゴザイマス、先刻來政府委員ガ申サレマスルニ

ハ地租ハ土地ノ豐凶ニ依クテ増減セズ是ヘ地租條例第二條デゴザイマセウ、故ニ此ノ如キ案ハ政府ハ同意スルコトハ出來ナイト申サレルノデアリマス、

土地ノ豐凶此豐凶ト云フコトニ私ハ政府ノ説明ニ同意ガ出來ナイノデアル豊凶ト云ヘバマルテ此租稅ガ無クナカタ成ル程豊凶カ知ラヌガ……凶ト云フカハ知ラヌガ初メニ此地租ヲ定メル時ニハ土地ノ豐凶ノ五年平均ニハ據リマスコトデゴザイマシタ然ルニ皆無ニナツタ時ニ土地ハ決シテ此平均ニハ這入ッテ居ラヌノデアル此法案ナルモノハ全ク收穫皆無ニナツタモノ、租稅ヲ免ジヤウト云フノニアツテ聊カデモ收穫ガアル土地ヲ包含致シテハ居リマセヌノデゴザイマス、既ニ政府ハ……

○子爵堀田正養君 定足數ハアリマスカ  
○議長(公爵近衛篤曇君) 今調ベマス  
○富田鐵之助君 震災地方改修ニ掛リマス土地ニハ既ニ特別ノ處分ヲ施シテアツテ其洪水ノタメニ掛リマス田畠ニ限シテ免租ノ出來ヌト云フコトハ一向

理由ノナイコトゾレヨリ備荒儲蓄ニ依クテ既ニ是ハ救濟ヲ施シテアル、又免租ニナレバ二タ重ニナルヤウニ述ベラレマシテアリマスルガ是ハ全ク二タニ係リマシタル昨年ノ大水害ニ悉無ニナリマシタル田畠ニ租稅ヲ免スルト云フコトハ至當ナ案ト私ハ考ヘル、政府ハ免ズルニ附イテハ金ガナイスウ云フモ迫ツテ居リマスルカラ喋々ハ致シマセヌデゴザイマスルガ此三府二十餘縣ニコトヲ申サレルガソレハナカラウト私モ考ヘル、去リナガラ此納稅スル者ハドウナル此水害ニ罹テ其金ヲ納メラレル道理ガナイ、其ナイ者カラ政府が取テウト云フコトハ私ハ甚ダ酷ナルコトダラウト思ヒマス、何卒本案ニ御贊成アランコトヲ希望致シマス

○渡邊甚吉君 討論終結ノ動議ヲ出シマス

○議長(公爵近衛篤曇君) チヨット御待チ下サイ定足數ヲ調ベテ居リマスカ

○渡邊甚吉君 私ハ定足數ハ確ニアルタラウト思ヒマス

○議長(公爵近衛篤曇君) 何デス

○男爵小松行正君 討論終結ノ動議ガ出テ居リマスガ、同シ案ヲ通過スルニシマシテモサウ討論終結ヲ急ギ立テルヨリ却ツテ奇麗ニ論究シテカラヤツタ方ガ宜カラウト思ヒマス、チヨット御注意マデ……

○渡邊甚吉君 討論終結ノ好時機デゴザイマス、之ヲ後レマスト又……

○議長(公爵近衛篤曇君) 渡邊君ニ申シマスガ討論終結ノ動議ガ出マシテモ定足數ニ足リマセヌトソレガ無效ニナリマスカラ今人ヲ集メテ居リマス……暫ク待チマシタガドウモ定足數ガ缺ケテ居リマスカラ此議案ハ明日ニ延ベマス

(議長、何人アルト宜シウゴザイマス」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛篤曇君) 百人デゴザイマス

(男爵伊達宗教君「幾人足リマセヌ」ト述フ)

○議長(公爵近衛篤曇君) 十八人足リマセヌ

(子爵曾我祐準君「如何デゴザイマセウ、部室ニ大分居リマセウモウ日モナイコトデゴザイマス」ト述フ)

○議長(公爵近衛篤曇君) 定足數ニ呼ンデ居リマスガ出テ來マセヌ

(子爵谷干城君「大變色ミ議案モアリマスカラドウゾ驅集メテ……」ト述フ)

(子爵曾我祐準君「暫ク待ツタラ定足數ニ満チマセウ」ト述フ)

○議長(公爵近衛篤曇君) 定足數ニ足リマスレバ決シテ止メタクハナイノデ

○男爵安場保和君 申スマデモナニ今日ニ迫ッテ居リマシテ續々マダ必要ナ  
議案ガ残ツテ居リマス、其中ニハ出テ來ル人ガアラウト思ヒマスカラ……

(男爵伊達宗敦君)「ドウモ魂膽ガアルヤウデ宜シクナイ」ト述フ

○議長(公爵近衛篤齊君) 段々驅集メテ居リマス  
(男爵伊達宗敦君)「五時マデモ七時マデモ待ツテ居ル」ト述フ

(渡邊甚吉君)「恐入リマスガ田尻次官ニモ議席ヘチヨツト御下リヲ願ヒ  
マス」ト述フ

○政府委員(公爵田尻稻次郎君) 獨リデ宜シケレバ私モ参リマス  
(吉村角次郎君)「皆サンハマダ部室ニ居リマスヤウデゴザイマス」ト述

○議長(公爵近衛篤齊君) 頻ニ今集メテ居リマス  
○渡邊甚吉君 チヨツト驅集メテ來マスカラ御許シヲ……驅集メルト云フテ  
ハ失敬デスガ呼集メテ來マスカラ……チヨツト二三分御暇ヲ戴キマシテ驅集

メテ参ルコトヲ御許シヲ願ヒマス  
(子爵日野西光善君)「議員ハ澤山居リマス、廊下ニモ居リマスシ、部室ニ  
居リマスカラ一ツ御呼ビ下サイ」ト述フ  
(男爵安場保和君)書記官ヲ御派出ニナシテハ如何デス」ト述フ

(男爵伊達宗敦君)「ドウモ誠ニ會期ガ間際ニナツテ貴族院デハ定足數  
ガ足ラヌタメニ止メタト云フテハ餘リ不體裁極ルダラウト思フ」ト述  
○議長(公爵近衛篤齊君)段々骨ヲ折リマシタガドウシテモ人數ガ足リマセ  
ヌデゴザイマス、甚ダ遺憾デアリマスガ……

○富田鐵之助君 是デモ定足數ハ足ラヌノデゴザイマスカ

○議長(公爵近衛篤齊君)足リマセヌ

○子爵舟橋遂賢君 唯今何人居リマス

○議長(公爵近衛篤齊君) 唯今ハ八十七名ダサウデ……何分ドウモ唯今調べ  
マシタガ足リマセヌカラ此議案ハ明日ニ延期致シマス、議事ハ今日ハ是ニテ  
止メマシテ今朝來御委託ニナリマシタ委員ノ氏名ヲ御報道致シマス

砂防法案特別委員  
○議長(公爵近衛篤齊君) 唯今ハ八十七名ダサウデ……何分ドウモ唯今調べ  
マシタガ足リマセヌカラ此議案ハ明日ニ延期致シマス、議事ハ今日ハ是ニテ  
止メマシテ今朝來御委託ニナリマシタ委員ノ氏名ヲ御報道致シマス

砂防法案特別委員  
○伯爵大原重朝君 子爵岡部長職君 子爵小笠原壽長君  
松岡康毅君 男爵金子有卿君 千坂高雅君  
沖守固君 武井守正君 桑田藤十郎君  
鐵道敷設法中改正法律案特別委員  
○子爵曾我祐準君 子爵堀田正義君 子爵相良賴紹君  
子爵關戸政次君 田部長右衛門君 鈴木傳五郎君  
明治二十三年法律第五十號民事訴訟法施行條例中削除法律案特別委員  
子爵鍋島直彬君 子爵本莊壽巨君 岡内重俊君

箕作麟祥君 名村泰藏君 男爵西五辻文仲君  
山脇玄君 菊池武夫君 兒玉淳一郎君

(有賀書記官朝讀)

貴族院議員子爵谷千城君外一名ヨリ通商航海條約ニ關スル質問ニ對シ外務  
大臣ヨリ答辯書提出ニ付及御回付候也

明治三十年三月二十三日

内閣總理大臣伯爵松方正義

貴族院議長公爵近衛篤齊殿  
貴族院議員子爵谷千城君富田鐵之助君ヨリ提出ノ質問書ニ對スル別紙答辯  
書差進候也

明治三十年三月二十三日

外務大臣伯爵大隈重信

貴族院議長公爵近衛篤齊殿

(別紙)  
貴族院議員子爵谷千城君富田鐵之助君ヨリ提出ノ質問ニ對スル答辯  
書

第一 日英條約第十九條ニ列舉セル英國殖民地若クハ海外領地ニシテ未タ  
第二 條約ノ規定ニ從ハサルノ條件ヲ以テ條約ニ加入シタルモノ無シ  
第三 第二條約ニ明記セサル事項ハ法令ノ規定ニ依リテ之ヲ知得スヘキモノト  
第四 從ツテ其他ノ點ニ關シテハ茲ニ之ヲ答辯スルノ必要無シト信ス  
第五 第二條約ニ明記セサル事項ハ法令ノ規定ニ依リテ之ヲ知得スヘキモノト  
第六 従ツテ其他ノ點ニ關シテハ茲ニ之ヲ答辯スルノ必要無シト信ス  
第七 第三條ハ我國臣民ハ特定ノ目的ノ爲メニ土地ヲ借受タルヲ得ルコト  
第八 第三條ハ我國臣民ハ特定ノ目的ノ爲メニ土地ヲ借受タルヲ得ルコト  
第九 第三條ハ我國臣民ハ特定ノ目的ノ爲メニ土地ヲ借受タルヲ得ルコト  
第十 第四内地通過稅トハ甲國ヨリ乙國ヘ輸送スル貨物カ丙國內地ヲ通過スル  
第十一 第五沿海貿易ハ獨リ開港間ニ止マラスシテ帝國版圖内ノ各港間ノ航海貿  
易ヲ抱括スルカ故ニ唯タ大阪新潟及東港以外ノ現開港間ニ限り從來ノ如  
第十二 同條第三項ハ唯タ從來ノ慣行ニ依リ第一項ニ多少ノ制限ヲ加ヘタルノミ  
第十三 之ヲ以テ直ニ第一項ハ本條約期間實施セラレサル條項ナリト思惟スルカ  
第十四 如キハ誤解ニ屬セリ

第六 政府ハ將來居留地ニ關シテ公平正當ナル處置ヲ施設スヘシト雖モ茲

之ヲ明言スルノ限ニ在ラス  
第七 第十八條第五項ニ限り土地收用權ニ從フヘキコトヲ附記セル所以ハ  
該地所ハ素ト政府カ公共ノ目的ノ爲メニ貸與シタル土地ナルカ故ニ或ハ  
均シク公共ノ利益ヲ目的トスル土地收用ニ從フヲ要セストスルカ如キ  
義ヲ豫防センカ爲メナリ其他ノ地所ハ通常ノ土地ト同シク土地收用ニ從  
フヘキコト固ヨリ論ヲ俟タサルカ故ニ特ニ但書ヲ附記スヘキ必要無シ  
從ツテ第五項ニ土地收用ニ從フヘキコトヲ明示スルモ之カ爲メニ前各項  
ノ土地ハ土地收用ニ從ハスト云フカ如キ誤解ヲ來スノ恐レ無キヤ明ナ  
リ

第八 英國政府ハ他國トノ條約ニ於テモ通商事項ニ關シ自治權ヲ有スル殖  
民地若クハ領地ニ對シ直ニ條約ノ施行ヲ命令スヘキコトヲ約セサルカ故  
ニ我政府特リ之ヲ拒否スヘキ理由ヲ有セサルナリ

第十九條ニ列記スル殖民地若クハ領地中「ニュー、フワウンドランド」  
「ナタル」及「ク井スランド」ハ既ニ本條約ニ加入セリ且ツ本條約ヲ適用  
スヘキ通知期間ハ一箇年間之ヲ延期シタリ

第九 第十九條ニ列記セル殖民地若クハ領地ニシテ本條約ニ加入セサル限  
リハ本條約實施後無條約國ト同一ニ取扱ハルヘシ

第十 第二ニ對スル答辯ト同一ノ理由ニ依リ茲ニ之ヲ説明セス尤政府ハ一  
方ニハ我利益ヲ顧ミ又一方ニハ條約ニ依テ締盟國民ニ許與シタル權利ヲ  
サル所ノ同國殖民地若クハ領地ノ臣民トニ對シテハ國籍ヲ證明スル方法  
ノ準用ニ依リ之ヲ區別スルニ足ルヘシト思考ス

第十一 第二ニ對スル答辯ト同一ノ理由ニ依リ茲ニ之ヲ説明セス尤政府ハ一  
方ニハ我利益ヲ顧ミ又一方ニハ條約ニ依テ締盟國民ニ許與シタル權利ヲ  
認メ之ニ對シテ必要ナル措置ヲ爲スヘシ

第十二 現行法令ハ既ニ發明意匠商標等ヲ保護スルコトヲ規定セリ因テ我  
政府ハ獨逸臣民ニ我國臣民ト同シク此等ノ保護ヲ與フヘキコトヲ約定ス  
ルヲ以テ相互ノ便益ト思考セシナリ

第十三 議定書第四ノ第二項ハ兩締盟國ニ於テ更ニ特別條約ヲ締結スルノ  
意思ヲ表示セルノミニシテ未タ何レノ一方ヨリモ商議ヲ提出スルニ至ラ  
皆祕密ニ屬スルヲ以テ政府ハ第十七條ノ實施ヲ約定シタル諸種ノ理由ヲ  
茲ニ明言スルヲ得ス

第十四 獨逸臣民ハ我國臣民ト同一ノ保護ヲ享有スルカ故ニ我政府ハ我國  
臣民ノ享有スル權利ヲ保護スルト同一ノ制裁權ヲ有スヘシ

第十五 本項ニ付テハ或國ト商議中ニ在レハ茲ニ之ヲ答辯セス  
第十六 第十八條第五項ニ規定セル占有者ハ現在居留地ノ永代借地券ヲ有  
スル者ニシテ民法第百八十條ニ規定セル占有者ト同一視スヘキ者ニ非ラ  
スル偶然ノ結果ニ外ナラサルナリ

第十七 我國ノ年號ヲ併記セサルハ正式ニ適セサルノ嫌無キニシモアラス  
ト雖モ彼我ノ曆日ハ實際上同一ニシテ且ツ彼地ニ於テ新條約ヲ商議シタ  
ス

第十八 第十二ニ對スル答辯ノ後段ト同一ノ理由ニ依リ茲ニ之ヲ明言スル  
ヲ得ス

第十九 該公文ハ唯タ單ニ外國人ニ適用スヘキ我國現行法ヲ宣言セルノミ  
ニシテ現行法ノ規定ト異ナルコトヲ約定セルモノニ非ラス  
外國人ノ加入セル商事會社ノ解散シタル場合ニ於テ法人タル會社ノ所有  
ニ屬シタルシ土地ハ會社解散ノ規定ニ從ヒ我國法律上之ヲ所有シ得ヘキ  
者ノ所有ニ屬スヘシ

第二十 永代借地ハ期限ヲ付セスシテ貸與シタル永久的性質ノ借地ニシテ  
其條件ヲ具備スル限ハ永久存續スヘシト雖モ長期借地ノ期限ハ我國民法  
ノ規定ニ從フヘキモノトス

第二十一 獨逸臣民カ新條約及附屬約定ニ依リ不動產ニ關シテ有スル權利

ハ特定ノ目的ノ爲メニ特定ノ性質ノ權利ヲ有スルヲ得ルノミ之ヲ以テ直  
ニ全國到處ニ內國臣民ト均シク如何ナル方法ニ於テモ土地ヲ占有シ所有  
スルコトヲ許シタルモノト言フヲ得サルナリ

第二十二 前項ノ説明ニ依リ獨逸臣民ノ有スル條約上ノ權利ト土地所有權  
ト大ニ異ナル所アルハ辯明ヲ要セサルヘシ

第二十三 前二項ニ對スル説明ニテ明ラカナルヘシト思考ス

第二十四 獨逸臣民ハ如何ナル場合ニ於テモ實際上土地所有權ト同一ノ權  
利ヲ許與セラレタルモノニ非サルカ故ニ全國到處外國人ノ大地主ヲ見ル  
カ如キ恐ヲ要セサルヤ明カナリ

第二十五 無稅物置トハ貨物ヲ未タ其輸入稅ヲ納メサル間入レ置ク所ニシ  
テ即チ保稅倉庫ヲ謂フナリ

第二十六 第二ニ對スル答辯ト同一ノ理由ニ依リ茲ニ之ヲ説明セス  
右及答辯候也

明治三十年三月二十三日

外務大臣伯爵大隈重信

(答辯書參照)

我邦ト歐米各國トノ通商航海條約ニ關スル質問主意書

ス而カモ其條約ノ意義ハ祕露共和國トノ條約期限ヲ特ニ六箇年ト爲シタルノ外概ニ大同小異ニシテ多少ノ寛嚴又ハ條項ノ前後字句ノ相違ニ過キサルカ如シ仍テ今茲ニ各國ノ條項ヲ各別ニ列舉スルノ繁雜ヲ避ケ止タ英國トノ條約及ヒ獨逸トノ條約ニ就テ質問スルコト、爲セリ蓋シ他ハ自カラ之ニ包含セラルレハナリ

## 日英條約質問ノ一

青木公使ヨリ英國政府ニ回答シタル明治二十七年七月十六日附公文ニ依レハ英國ノ或ル殖民地及海外領地カ第二條ノ規定ニ從ハシテ本條約ニ加入スルコトヲ得ルノ保證ヲ與フトアリ然ラハ何レノ殖民地若クハ領地カ之ニ從ハシテ加入シタル乎  
又第二條ノ規定ニ從ハシテ本條約ニ加入シタル英領地ニ居留スル我國ノ臣民ハ該地ノ兵役ニ服セサル可カラサル乎  
若クハ其服役ノ代リトシテ取立ラル、一切ノ納金ヲ免カレ能ハサル乎  
尙ホ強募公債及軍事上ノ賦歟或ハ捐資ニ應セサル可カラサル乎

## 日英條約質問ノ二

本條約第三條ニ明記セサル營業例ヘハ銀行業造船業航海業等ノ類ニシテ他ノ法律勅令ニ禁止ノ明文ナキ限ハ一切皆外國人ニ許スモノト解釋シテ然ル可キハ其服役ノ代リトシテ取立ラル、一切ノ納金ヲ免カレ能ハサル乎  
又製造業ヲ免ストハ明記セサレトモ製造所ノ所有及使用ヲ得ルトアレハ卸小賣商業ノ外ニ製造業即チ諸種ノ工業ヲモ營ミ得ルト解スヘキ乎

## 日英條約質問ノ三

本條約第三條ニ許セル土地借用ノ件ハ其ノ地積及年數ニ何ノ規定モナシ然ラハ相對ノ貸借ニ放任シテ毫モ制限ヲ加ヘサルノ意ナル乎

## 日英條約質問ノ四

本條約第七條ニ記載セル内地通過稅ト云フモノニハ入市稅ノ如キヲモ含有スヘキ乎

然ラハ外國人ノ運輸スル商品ハ現ニ東京府ニ於テ實行中ノ酒類入市稅ノ如キヲモ免カル可キ乎

## 日英條約質問ノ五

沿海貿易ノ規定ニ就テハ本條約第十一條第一項第二項中ニ明記シアルニモ關ハラス同第三項ニハ本條約期限間是迄ノ通リ帝國ノ現開港場間ニ積荷ヲ運搬スルコトヲ許スコトヲ承諾ストアリ是即前ノ一項二項ヲ空文ニ屬セシメタルニ非サル乎  
果シテ然ラハ本條約期限間實施セラレサル條項ヲ列載シタルハ何等ノ必要ニ因リタル譯ナル乎

## 日英條約質問ノ六

外國人居留地カ日本國市區ニ編入セラレタル場合ニ於テモ第十八條第四項ノ規定ニ依リ土地ニ係ル地方稅負擔ニ從ハサルヘキハ勿論ナラン然ラハ地

主タル政府代テ之ヲ負擔スルノ意乎  
又ハ永々官有地トシテ無稅地ニ爲シ置クノ意乎  
果シテ後段ノ意ナランニハ其レカ爲メニ他ノ地主ノ負擔ハ自然過重ノ稅トナルヲ免カレサルカ如シ如何

## 日英條約質問ノ七

官設或ハ私設鐵道其ノ他公共ノ爲メ必要ナル事業ニ就テハ土地收用法ヲ適用セラルヘキハ勿論ナリ然ルニ本條約第十八條第五項ノ末文ニ但シ土地收用權ニハ從フヘキモノトスト明記シタルハ何等ノ必要ニ因リタル乎  
又同項ノ地所ニ限り特ニ之ヲ明記シテ前各項ニ及ハサルトキハ現在居留地タル一般ノ地所ハ土地收用權ニ從フノ限ニ在ラサルコトヲ慥ムルニ似タリ果シテ然ル意乎  
然ラハ同シク外國人居留地タル地所ニシテ其使用ノ目的ハ異ナルニセヨ一方ニ之ヲ適用シ一方ニ之ヲ適用セサル理由如何

## 日英條約質問ノ八

印度加奈太濠太利等ノ英領地ハ我通商上頗ル有望ノ國柄ナルニ第十九條但書ヲ以テ之ヲ本條約外ニ附シタルハ何等ノ事由ニ因リタルモノナル乎尤モ同條末文ニ依レハ印度以下十一箇國ノ孰レヘナリ本條約ヲ適用スルトキハ其ノ旨英國代表者ヨリ通知スルトノコトナリ然ラハ本條約批准交換ノ日ヨリ二箇年餘經過シタル今日迄ニ孰レノ國へ適用スルトノ通知ヲ我政府ハ領收シタル乎

## 日英條約質問ノ九

第十九條但書ニ據リ印度以下十一箇國ノ英國殖民地若クハ領地ニシテ本條約ニ加入セサル間ハ無條約國トシテ取扱ハルヘキハ勿論ナルヘキ乎然レトモ英國殖民地竝ニ領地ノ臣民ハ正シク英國臣民ナリ此等ノ國人ニ對シ我政府ハ英本國ノ臣民ト如何ニシテ之ヲ區別スル乎

## 日獨條約質問ノ十

本條約第三條第二項ニ工業ト明記シ(日英條約及其ノ他ノ條約ニハ工業ト明記シタル條項ナシ)アルハ果シテ何種ノ工業ヲ許ス見込ナル乎又外國人ニハ法律規則ヲ以テ制限シタル工業若クハ鐵道業ノ類ニシテ日本入ト組合ニ之ヲ爲ス場合ニハ如何ニ處分スル乎

## 日獨條約質問ノ十一

發明意匠專賣特許等ニ關スル目下ノ我條例ハ自國人ヲ保護スルニ在リテ外國人ニ及ハサルハ勿論ナリトス然ルニ未タ何等條件ノ設定ナキニモ關ハラス第二十一條第三項ヲ以テ本條約批准交換ノ日ヨリ第十七條ノ保護ヲ獨逸人ニ許シタル我政府ノ思慮那邊ニ在ル乎  
又本條ノ如ク實施セラル、上ハ總テ我法律ノ下ニ屬スヘキモノニシテ治外法權ノ限ニ在ラサルハ勿論ナリト惟ハル我政府モ然カク解スル乎

## 日獨條約質問ノ十二

本條約全體ノ實施期未タ來タラサル以前ニ於テ其ノ中ノ一箇條即チ第十七條文ケ無條件ニテ本條約批准交換ノ日ヨリ直ニ效力ヲ生セシムルハ頗ル不條理ニ非サル乎  
若シ妥當ナリトスレハ其ノ理由如何

## 日獨條約質問ノ十三

議定書第四ノ第二項ニ第十七條ノ保護ニ關スル雙方ノ關係ニ付別ニ條約ヲ締結スルコトアルヘシ云々トアレトモ是非締結スルト確約シタルニ非サルヲ以テ我ヨリ之カ要求ヲ爲サ、ルトキハ本條ノ如ク實施スルニ至ルハ勿論ナリ我政府ハ如何ナル商議ヲ提出シタル乎

## 日獨條約質問ノ十四

獨逸人ノミ第二十一條第三項ノ特權ヲ有シ他ノ外國人ニ於テ之ヲ有セサルトキハ獨逸人ノ發明若クハ意匠ト同種同様ナル發明若クハ意匠ニ係ル物品ヲ他ノ外國人ニ於テ發賣スルコトアルモ我政府ハ之ニ對スル制裁權ナキ乎

## 日獨條約質問ノ十五

獨逸人ノ外國人ニ於テ與國均霑ニ依リ第二十一條第三項ノ特權ヲ出願シタル場合ニハ我政府ニ於テ之ヲ許容スル見込ナル乎  
本條約第十八條第五項ニ占有者トアルハ我民法第百八十條ノ占有權ヲ有スル者ト同一視スヘキ乎

## 日獨條約質問ノ十六

諸條約其他ノ交換公書ニハ彼我ノ年號ヲ併記スルヲ以テ當然ノ正式ナリト惟ハル又然カセサレハ實際ノ不便モ尠ナカラサルナリ然ルニ本條約書中一モ我年號ヲ記載セサルハ何等ノ事由ニ因ル乎

## 日獨條約質問ノ十七

議定書第二項ニ條約第一條及第三條ニ付云々トアレトモ該第一條ニハ不動產占有ニ關スル文意ナシ又同第三條ニハ明カニ土地ヲ借受クルコトヲ得トアリテ毫モ疑フ要セス然ルニ却テ議定書ヲ以テ内國臣民ト同様不動產抵當權ノ取得及ヒ占有ヲ許スコトニ同意シタル理由如何

## 日獨條約質問ノ十九

議定書第二項ニ條約第一條及第三條ニ付云々トアレトモ該第一條ニハ不動產占有ニ關スル文意ナシ又同第三條ニハ明カニ土地ヲ借受クルコトヲ得トアリテ毫モ疑フ要セス然ルニ却テ議定書ヲ以テ内國臣民ト同様不動產抵當權ノ取得及ヒ占有ヲ許スコトニ同意シタル理由如何

## 日獨條約質問ノ二十

土地貸借ノ年限ニ就テハ本條約第十八條ニ於テ現在ノ居留地ニ對シ永代借地云々ト云ヒ又千八百九十六年四月四日附公文第一項ニ長期ノ借地權云々

トアルノ外他ニ明記ナシ爰ニ所謂長期ト永代トハ如何ナル區別ノアルモノナル乎  
又長期トハ何箇年ノコトニシテ永代トハ幾年間ノコトヲ云フモノナル乎

## 日獨條約質問ノ二十一

土地ノ占有權ハ現在ノ居留地ニ限り從來ノ行掛上止ムヲ得ス之ヲ外國人ニ許シタルモノト思ヒノ外議定書第二項及ヒ千八百九十六年四月四日附公文第一項ヲ以テ内國臣民ト均シク全國到處ノ占有ヲ外國人ニ許容シタル我政府ノ思慮如何

## 日獨條約質問ノ二十二

我國ニ於テ土地所有權ノ取得ヲ外國人ニ禁シアルハ彼獨逸人モ認メ居ルコト千八百九十六年四月四日附公文第一項ニ徵シテ明カナリ然ラハ其ノ禁セラタル所有權ト同項ヲ以テ獨逸人ニ許シタル土地ニ關スル諸權利ト實利上ニ於テ何程ノ相違アル乎

## 日獨條約質問ノ二十四

議定書第二項及ヒ千八百九十六年四月四日附公文第一項ニ記載セル如キ實利上所有權ニ等シキ諸權利ヲ外國人ニ與フルトキハ全國到處外國人ノ大地主然タルモノヲ見ルニ至ルヘキハ疑フ可ラス我政府ハ之ヲ以テ我國人ノ利害ニ關係ナシト烏有ニ歸シタルカ如シ如何

## 日獨條約質問ノ二十五

議定書第二項及ヒ千八百九十六年四月四日附公文第二項ニアル無稅物置ト云フハ我政府ニ於テ之ヲ建設シ無稅ニテ之ヲ外國人ニ貸渡スヘシトノ意義ナル乎然レトモ斯ル分外ノ要求ニ應スヘキノ事由アル可ラス然ラハ敷地及ヒ家屋ノ稅ヲ免スルノ意乎

## 日獨條約質問ノ二十六

千八百九十六年四月四日附公文第四項ニアル既得權トハ何種ノ權利ヲ謂フニ記載シタル期限ハ無要ニ歸セサル乎  
本日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ領受シタリ

本日根岸武香君ヨリ三十二名ノ賛成ヲ以テ臺灣神社設立ノ儀ニ付質問書ヲ提出セラレタルニ依リ即日政府ニ轉送シタリ

○男爵船越衛君 ポツク議場へ見エテ議員ガ百程アリサウデゴザイマスガ  
如何デゴザイマセウ

○議長(公爵近衛篤磨君) モウ會ヲ閉ヅルト云フコトヲ宣告致シマス  
ソレハイケマセヌ、明日ノ議事日程ヲ宣告致シマシタカラ

(中根書記官長朗讀)

午前十時開議

第一 明治三十年度歲入歲出總豫算追加案(總追第三  
號)(政府提出、衆議院送付)

會議(豫算委員  
長報告)

第二 明治三十年度特別會計歲入歲出豫算追加案(特  
追第三號)(政府提出、衆議院送付)

會議(豫算委員  
長報告)

第三 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要ス  
(內務省所管)(政府提出、衆議院送付)

會議(豫算委員  
長報告)

第四 明治三十年度歲入歲出總豫算追加案(總追第一  
號)(政府提出、衆議院送付)

會議(豫算委員  
長報告)

第五 明治二十年度各特別會計歲入歲出豫算追加案  
(特追第二號)(政府提出、衆議院送付)

會議(豫算委員  
長報告)

第六 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要ス  
(豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要ス  
ル件(特追第二號所屬))(政府提出、衆議院送付)

會議(豫算委員  
長報告)

第七 明治二十九年度海軍省所管歲出臨時部  
臨時軍事費中支出未濟豫算額ノ繰越使  
用ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會ノ續(特別委員  
長報告)

第八 土地區劃改良ニ係ル法律案(政府提出、  
衆議院送付)

第一讀會ノ續(特別委員  
長報告)

第九 遠洋漁業獎勵法案(政府提出、衆議院  
送付)

第一讀會ノ續(特別委員  
長報告)

第十 裁判所構成法中改正法律案(衆議院提出)

第一讀會

第十一 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第一讀會(前會ノ續)

第十二 水害地方地租特別處分法案(衆議院提  
出)

第一讀會(前會ノ續)

第十三 郡制改正法律案(衆議院提出)

第一讀會ノ續(特別委員  
長報告)

第十四 府縣制改正法律案(衆議院提出)

第一讀會ノ續(特別委員  
長報告)

第十五 登錄稅法中刪除法律案(衆議院提出)

第一讀會ノ續(特別委員  
長報告)

第十六 千葉縣茨城縣境界變更法律案(衆議院  
提出)

第一讀會ノ續(特別委員  
長報告)

第十七 明治二十七年度決算ニ關スル決議案

會議(決算委員  
長報告)

第十八 古墳墓保護ニ關スル建議案(外山正一君發議)

會議(特別委員  
長報告)

第十九 製鹽調查所設置ニ關スル建議案(村田保君發議)

會議(特別委員  
長報告)

第二十

下ノ關門司兩港ヲ開港外輸出入港ト爲  
スノ請願

登錄稅法自家用酒稅法葉煙草專賣法改正及廢止  
ノ請願

第二十一

清國償金ノ一部ヲ普通教育基本金ニ充ルノ請願

營業稅法改正ノ請願

第二十二

社寺上地山林引戻ノ請願

第二十三

地租免除ノ請願

不正肥料販賣取締規則發布ノ請願

第二十四

日本銀行條例中改正ノ請願

復祿及復族祿ノ請願

第二十五

特別免租ノ請願

地租延納ノ請願

第二十六

人力車發明人ニ年金給與ノ請願

郡域更正ノ請願

第二十七

不正肥料販賣取締規則發布ノ請願

利根川流域改良ノ請願

第二十八

牧牛保護獎勵ノ請願

荒川治水ニ關スル請願

第二十九

民有山林下戻ノ請願

利根川流域改良ノ請願

第三十

蠶種檢查ノ請願

水災被害地地租特免ノ請願

第三十一

大阪築港國庫補助ニ關スル請願

海外貿易場金融機關擴張ニ關スル請願

第三十二

商事會社合併及組織變更法制定ニ關スル請願

領事官制擴張改良ノ請願

第三十三

財金通帳印稅免除ノ請願

劍法體操ヲ兒童體育ニ編入ノ請願

第三十四

○議長(公爵近衛篤磨君) 今日ハ散會

午後四時五十六分散會

三一二頁乃至三三頁ニ掲載ノ森林法案ハ本院ニ於テ速記錄原稿調製ニ際シ誤テ政府提出案ヲ掲ケ印  
刷ニ付シタルヲ以テ其全文ヲ削ル仍テ本案第二讀會ニ於テ衆議院同付案ヲ掲ク

貴族院書記官

明治三十年三月二十三日

一一〇